【科目名】	基礎ゼミ		【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0011-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月～金曜日の16:50～18:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目ですので、全員の受講が望ましい。本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。 ホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解する。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
新入生研修会として行う集中講義になります。出席には注意をしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,O-1,S-3,R-1				
(方法)				
この科目は、グループワークやディスカッションを行います。 また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。 ・大学生生活に必要な知識を修得する。 ・目標を達成させるための手段を身につける。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生として必要な行動ができるようになる ・集団活動の中で協調した行動が実施できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
必要に応じて、資料を配布				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 試験は行わず、レポート、成果発表にて評価を行います。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		10						10
	思考・推論・創造の力		10	10					20
	コラボレーションとリーダーシップ		10	10					20
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢		20	20					40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	学生生活について office365の概要とサインイン、OneDriveの設定と説明	4月8日 講義 情報セキュリティ委員会 パソコン必要	配布資料	15分
2	学生生活について Microsoft Teamsのダウンロードと使用方法 学生用情報共有サイトへの登録	4月8日 講義 情報セキュリティ委員会 パソコン必要	配布資料	15分
3	学生生活について ANPIC(安否確認システム)への登録 履修科目登録について、履修科目と MicrosoftTeamsの登録	4月8日 講義 情報セキュリティ委員会 パソコン必要	配布資料	15分
4	学生生活について 数理・データサイエンスAI教育プログラム	4月8日 講義 情報セキュリティ委員会 パソコン必要	配布資料	15分
5	学生生活について タイピング(練習と講義内の課題提出)	4月13日 講義・演習 情報セキュリティ委員会 パソコン必須	配布資料	15分
6	学生生活について タイピング(練習と講義内の課題提出)	4月13日 講義・演習 情報セキュリティ委員会 パソコン必須	配布資料	15分
7	学生生活について Word・Excelの基礎	4月13日 講義・演習 情報セキュリティ委員会 パソコン必須	配布資料	15分
8	学生生活について Word・Excelの基礎	4月13日 講義・演習 情報セキュリティ委員会 パソコン必須	配布資料	15分

9	学生生活について ノートの取り方・勉強の仕方	講義 学生支援企画委員会	配布資料	15分
10	学生生活について 生活習慣・飲酒・喫煙について	講義 学生支援企画委員会 星野	配布資料	15分
11	学生生活について 生活習慣・飲酒・喫煙について	講義 学生支援企画委員会 星野	配布資料	15分
12	学生生活 薬物・交通安全	講義 学生支援企画委員会 星野	配布資料	15分
13	学生生活 薬物・交通安全	講義 学生支援企画委員会 星野	グループでの演習で積極的に議論する	15分
14	図書館利用方法と文献検索	4/19 講義 図書委員会	グループでの演習で積極的に議論する	15分
15	租税セミナー	講義 星野	グループでの演習で積極的に議論する	15分
16	租税セミナー	講義 星野	グループでの演習で積極的に議論する	15分
17	情報リテラシー（メール、SNS、著作権、ITモラル） 学内プリンターの使い方	4/19 講義 情報セキュリティ委員会	配布資料	15分
18	パソコンセキュリティチェック	4/27 講義 情報セキュリティ委員会 パソコン必須	配布資料	15分
19	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分

20	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
21	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
22	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
23	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
24	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
25	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
26	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
27	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
28	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
29	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分
30	ホームルーム	各専攻	配布資料	15分

【科目名】		基礎ゼミ	【担当教員】	松林 義人
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0012-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	matsubayahi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミ を履修していることが条件。 ・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションで説明する。 ・地域のイベントに参加後、指定した期日までに報告書を提出してもらいます。提出期日はメールにて知らせるため、確認をしておくこと。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2</p>				
(方法)				
<p>少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をレポートとしてまとめる。</p> <p>地域貢献：大学周辺のクリーンアップ 地域イベント：グループ(ゼミ単位を中心)に参加するものと、全員で参加するものをオリエンテーションにて説明する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の地域課題を理解する。 ・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。 ・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。 				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価は、イベント参加後に提出した報告書(レポート)により評価する。 				

【科目名】	臨床倫理学		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、現代医療の現場で重要な課題を取り上げ、どのようなことが倫理学の観点から問題になるのか考えていきます。また臨床倫理学の問題を自分で考え、他者との意見交換からさらに考えを深めることができるように講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。ストにそって講義をおこない、事例を活用しGW,意見交換を行います。積極的に参加してください。に迷惑となる行為が認められた場合は講義室より退出して頂きます。</p>				テキ 他者
【講義概要】				
(目的)				
<p>医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場で倫理的行動を実践するための知識を深め、自己啓発に向け修養することを目的としています。また、リハビリテーション学科学生として、生命倫理を中心に現代医療をめぐる諸問題の題材を多角的に捉え考えて、視野を広げる機会となるように学んでいきます。当該科目と学位授与方針との関連性；A-1</p>				
(方法)				
<p>教科書を中心に講義・GWを行い、様々な視点から臨床の倫理について意見交換をおこないます。パワーポイントを使用しての講義をおこないます。毎回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。内容については、指定教科書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>将来医療に関わる専門職として倫理的な自覚を深めるために、なぜ今、医療において倫理が問われるのか、患者の人権や自律の尊重がなぜ大切なのかについて理解する。一人ひとり異なる価値観を有する他者の気持ちをより理解し、柔軟な思考と態度を養い、リハビリテーション医療を学ぶ者に必要な「医の倫理」の知識を修得する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療における原理・原則について説明できる。 ・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べることができる。 ・倫理とは何か、自分の言葉で述べることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
伏木信次〔他〕編、「生命倫理と医療倫理」金芳堂 第4版				
【参考書】				
<p>雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社 伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション 医療の歴史と倫理問題の提起 倫理的問題の具体的現状	講義	教科書P.7～P.11	90
3.4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パターナリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	講義	教科書P.23～P.35	90
5.6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報保護と倫理	講義	教科書P.202～P.229	90
7.8	生命誕生のあらし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	講義	教科書P.62～101	90
9.10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	講義	教科書P.131～P.143	90
11.12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ 終末期医療 安楽死と尊厳死	講義	教科書P.104～P.130 教科書P.144～P.145	90
13.14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	講義	教科書P.154～P.165 教科書P.230～P.240	90
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる 科目終了試験	講義		90

【科目名】	地域文化論		【担当教員】	桑原 猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0025-02	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kuwabara@kbe.biglobe.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(15時間)	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特に無し				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。				
【講義概要】				
(目的) 本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。				
【一般教育目標(GI0)】 身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。				
【行動目標(SB0)】 毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。				
【教科書・リザーブドブック】 毎回印刷配布する。				
【参考書】 村上地区まちづくり協議会編「城下町探検ガイド」 . . .				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。 最終日に課題を提示し、1週間後にレポートを提出させ、内容を評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	講義概要のガイダンス 村上城下の近世から現代までの変遷 城下町の形成と歴史及び風土から、村上の特性と文化の背景を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。	
3-4	町谷の構造と伝統行事との関係 伝統行事と町家構造について、他地域の事例との比較から、村上・岩船・瀬波と町家の構造を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。	
5-6	重要無形民俗文化財としての村上の祭り- しゃぎり屋台 全国の山・鉾・屋台の事例(歴史・構造・分類)から、村上・岩船・瀬波のしゃぎり屋台の特性を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 この場合学生は入場無料とする。	
7-8	重要無形民俗文化財としての村上の祭り- 祭礼行事と屋台巡行 神社の本祭(神事)と付け祭りとしての屋台巡行における村上大祭の特異性を探る。	提供資料及びDVD視聴及びパワーポイントスライドによる講義		
9-10	伝統行事が抱える課題と今後の展望 全国的にも、少子高齢化によって伝統行事等の存続、継承が危機に瀕している。これにどう対応していくかを探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義		
11-12	村上の鮭文化を探る- 鮭の生態と漁獲 回帰性、産卵とふ化、今の捕り方 回帰率を高める取組	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) イヨボヤ会館を見学して村上と鮭との関係を探索する。 この場合学生は入館無料とする。	
13-14	村上の鮭文化を探る- 村上藩の政策と漁民 青砥武平治と天然産卵の保護 土族授産と人口ふ化事業	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(予習課題) 村上の鮭料理について2種類以上調べてくる。	
15	村上の鮭文化を探る- 村上の伝統的な鮭料理 まとめレポートの課題提示	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義 調査結果の発表	調べた鮭料理を発表する。	

【科目名】	日本語表現法		【担当教員】	上松 恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0030-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@star.rcast.u-tokyo.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。				
【講義概要】				
(目的)				
正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法)				
基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代に合った表現方法を学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する ・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる ・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる ・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる ・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる 				
【教科書・リザーブブック】				
上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）				
【参考書】				
講義内で適宜資料を指示する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンラインの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法について—どのような方法でまとめ、どう考察するのか—	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方 1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方 2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	レポートの書き方 3 発表ソフトの使い方	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	インターネットからみる日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

【科目名】	心理学概論		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0036-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。リハビリテーション心理学専攻の学生にとっては必修、認定心理士または公認心理師の資格を取得するための指定科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>心理学の成り立ち(心理学の歴史)と、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学んでいきます。心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。内容は、原則、指定教科書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>心理学・臨床心理学の成り立ちについて概説できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。 各領域における心の“問題”や“障害”を知る。 それぞれの問題や障害に対する対処法を説明でき、実践することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>繁枘算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版, 2015/9/25, 23,760円 梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ~ こころの科学を知る ~ 」サイエンス社, 1992年, 1942円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20		10			100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理学の歴史 ・近代心理学の成立について学ぶ	講義	指定教科書p. 204-207 ・構成主義 ・ゲシュタルト心理学、精神分析学、行動主義、新行動主義 ・認知心理学、認知神経科学	10
2	心理学の歴史 ・臨床心理学の成立について学ぶ	講義	・生物心理社会モデル ・精神力動/認知行動/人間性アプローチ ・ナラティブアプローチ、社会構成主義	10
3	「知覚」 ・知覚成立の基礎 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p. 2-5 ・知覚はどのように成り立っているのかを知る	10
4	「知覚」 ・知覚の体制化 ・図と地	講義 一部演習	指定教科書p. 5-9 ・知覚成立の特徴を知る	10
5	「知覚」 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p. 10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する	10
6	「知覚」 ・知覚の諸相	講義 一部演習	指定教科書p. 12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する	10
7	「学習」 ・古典的条件づけ/オペラント条件づけ	講義	指定教科書p. 15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	10
8	「学習」 ・観察学習	講義	指定教科書p. 19-20 ・社会的行動における観察学習の重要性を理解する	10

9	「記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p.20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理解する ・記憶の測定法を学ぶ	10
10	「記憶」 ・忘却/記憶の歪み/病理	講義 一部演習	指定教科書p.24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	10
11	「動機づけ」 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p.27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	10
12	「欲求」 ・自己効力/学習性無気力 ・演習 セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	10
13	「感情」 ・感情の分類 ・感情発生メカニズムと機能	講義	指定教科書p.39-45 ・感情発生メカニズムを知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	10
14	「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス	講義 一部演習	指定教科書p.45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	10
15	まとめ	講義	人の心の基本的な仕組みとその働きを説明できる	10

【科目名】	心理学概論		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0037-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金9:00-17:30(講義時間帯以外)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は、リハ心理学専攻の学生にとっては必修であり、認定心理士または公認心理師の資格取得のための指定科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>心理学の成り立ち(歴史)と、人の心の基本的な仕組み及び動きを学びます。心理学における代表的分野について、それぞれの歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用した講義が中心となります。毎回、講義資料は配布します。随時、関連する心理テスト等を演習形式で実施していきます。内容は、原則指定教科書と参考書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。他者と適切な対応ができ、必要がある場合には適切な心の支援ができる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>各領域の目的(学習到達目標)を説明できる。 各領域における“問題”や“障害”を知る。 それぞれの問題や障害に対する対処法を自身で考え、実践することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016年, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>繁枘算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学」金剛出版, 2012/5/31, 23,100円 梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ~ こころの科学を知る ~ 」サイエンス社, 1992年, 1942円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20		10			100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「精神的健康」 メンタルヘルス/ストレス	講義	指定教科書p.48-52 ・心が健康とは何かを説明できる ・ストレスとは何かを説明できる	10
2	「精神的健康」 演習 ストレス度の測定 医療・福祉における「コミュニケーション」 “優しい目、大きな耳、小さい口、広いこころ”	講義 一部演習	指定教科書p.150-153 ・心の健康が損なわれるとどのような状態となるのかを知る ・心の健康を測定できる	10
3	「パーソナリティ」 パーソナリティの記述	講義	指定教科書p.54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学ぶ	10
4	「パーソナリティ」 パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p.60-63 ・パーソナリティの測定はどのように調べられるのかを学ぶ	10
5	「パーソナリティ」 障害：境界性パーソナリティとは？	講義	指定教科書p.63-65 ・パーソナリティの障害を説明できる	10
6	「パーソナリティ」 演習：Y-G性格検査	演習	指定教科書p.60-61 ・パーソナリティを適切に測定できる	10
7	「知能」 知能の定義	講義	指定教科書p.68-71 ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	10
8	「知能」 知能の測定/知的障害	講義 一部演習	指定教科書p.71-79 ・知能をどのように測定するのかを学ぶ ・知能検査開発の歴史的経緯を知る	10

9	「思考」 思考とは？/問題解決	講義	指定教科書p.82-86 ・「考えるとは？」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略（思考）を知る	10
10	「思考」 創造性	講義 一部演習	指定教科書p.86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを学ぶ	10
11	「人間関係」 対人認知/帰属理論	講義	指定教科書p.126-131 ・他者の印象形成につて学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとりえ方について知る	10
12	「人間関係」 対人魅力	講義	指定教科書p.131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	10
13	「集団」 集団の心理/社会的影響	講義	指定教科書p.136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	10
14	「集団」 態度	講義	指定教科書p.143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・社会と個人の相互関係について理解する	10
15	まとめ			

【科目名】		医療行動科学		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0041-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月・水・金)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
特になし。 *1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
テキストとなる資料を配布します(Teams)。 テストなどは原則として返却しません。					
【講義概要】					
(目的)					
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性: A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性: O-2					
(方法)					
主として配布資料を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。					
【一般教育目標(GIO)】					
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。					
【行動目標(SBO)】					
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
テキストとなる資料を配布する(Teams)。					
【参考書】					
山田富美雄(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2015年、¥1,900(税別) 津田彰(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2002年、¥2,400(税別)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	70				10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	70					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学」まとめ	講義	講義ノートの完成	90

【科目名】	医療行動科学		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0042-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月・水・金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 *1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
テキストとなる資料を配布します(Teams)。 テストなどは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性: A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性: O-2				
(方法)				
主として配布資料(Teams)を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。				
【一般教育目標(GIO)】				
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。				
【行動目標(SBO)】				
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
テキストとなる資料を配布する(Teams)。				
【参考書】				
山田富美雄(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2015年、¥1,900(税別) 津田彰(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2002年、¥2,400(税別)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	70				10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	70					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学」まとめ	講義		45

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康		【担当教員】	木村 和樹
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0056-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日9時30分～15時00分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
医療者として、健康に対する意識を高める科目です。医療及び地域保健機関で、身体機能向上・介護予防およびリハビリテーションに従事してきた経験を基に、社会と健康について講じます。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。 講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2				
【講義概要】				
(目的)				
人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を理解することを目的とする。				
(方法)				
社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。				
【一般教育目標(GI0)】				
社会が健康や病気とどう関係するのかを座学や演習と通じて理解する。				
【行動目標(SB0)】				
健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を必要に応じて配布する。				
【参考書】				
資料を必要に応じて配布する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			20					20
	学修に取り組む姿勢			30					30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション、コミュニケーション練習	講義(対面)	演習時に、しっかり指示・説明ができるように言葉(伝え方)のポイントを復習する。	30
3.4	生活習慣と糖尿病	講義(Web)	生活習慣について理解できるように復習する。	30
5.6	高齢者向けの体力測定	講義講義(Web)	体力測定を行う方法と意義を復習する。	30
7.8	高齢者向けの体力測定	講義講義(Web)	体力測定を行う方法と意義を復習する。	30
9-12	高齢者向けの体力測定(演習)	演習	高齢者向けの運動の導入として、棒を使った体操と運動を指導できるように復習をする。	30
13.14	ロコモティブシンドロームの評価	講義(Web)	ロコモティブシンドロームに対する評価ができるように復習すること。	30
15	まとめ	講義	実際の対象者にも説明ができるように振り返りを行う。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0057-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (藤本)、 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川)
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康 を受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目は、実務経験者対応科目である。 レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。課題の提出期限は守ってください。 *当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 *当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、R-1,2</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。</p>				
(方法)				
<p>社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を必要に応じて配布				
【参考書】				
資料を必要に応じて配布				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う 出席点は評価に含まない</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	オリエンテーション 認知症予防の施策	講義(対面)・藤本	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
3,4	認知症養成サポーター(1) 認知症サポーター養成講座の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
5,6	認知症養成サポーター(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
7	認知症の方への対応方法(1) 「二本の傘」の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
8,9	認知症の方への対応方法(2)	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
10,11	高齢者の社会参加と生き甲斐について	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
12,13	認知症カフェを通しての具体的な方法(1) 本学のカフェの紹介	講義(映像視聴)・長谷川	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
14,15	認知症カフェを通しての具体的な支援方法(3) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分

リハビリテーション学科

【科目名】		コミュニケーション心理学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:00～15:00 (火曜日・水曜日)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。				
【講義概要】				
(目的) 人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2				
(方法) 講義は、PowerPointを使用する。 講義資料は、事前に配布する。				
【一般教育目標(GIO)】 授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。				
【行動目標(SBO)】 授業で取り上げるキーワードを説明できる。 学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。				
【教科書・リザーブドブック】 テキストとなる資料を配布する。				
【参考書】 深田 博己(1999) コミュニケーション心理学 心理学的コミュニケーション論への招待、北王路書房。 山田 一成・結城 雅樹・北村 英哉(2007) よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)、ミネルヴァ書房。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 定期試験60%、小テスト40%(出欠確認を兼ねる)の配分で評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力		10						10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション コミュニケーション心理学とは	授業	配布資料を読む	240
3-4	社会的認知1：印象形成とスキーマ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5-6	社会的認知2：ヒューリスティック	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7-8	社会的認知3：帰属過程	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9-10	自己を表現するコミュニケーション1：自己開示	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11-12	自己を表現するコミュニケーション2：自己呈示	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13-14	自己を表現するコミュニケーション3：自己主張性	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15・試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】		コミュニケーション心理学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:00～15:00 (火曜日・水曜日)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。				
【講義概要】				
(目的) 人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2				
(方法) 講義は、PowerPointを使用する。 講義資料は、事前に配布する。				
【一般教育目標(GIO)】 授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。				
【行動目標(SBO)】 授業で取り上げるキーワードを説明できる。 学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。				
【教科書・リザーブドブック】 テキストとなる資料を配布する。				
【参考書】 深田 博己(1999) コミュニケーション心理学 心理学的コミュニケーション論への招待、北王路書房。 山田 一成・結城 雅樹・北村 英哉(2007) よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)、ミネルヴァ書房。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 定期試験60%、小テスト40%(出欠確認を兼ねる)の配分で評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力		10						10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団におけるコミュニケーション1: 集団の形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3-4	集団におけるコミュニケーション2: 集団凝集性	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5-6	集団におけるコミュニケーション3: 同調行動・態度変容	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7-8	集団におけるコミュニケーション4: 権威の服従	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9-10	集団におけるコミュニケーション5: 対人説得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11-12	集団におけるコミュニケーション6: 親密な他者との関係	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13-14	集団におけるコミュニケーション7: 家族との関係	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15・試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学		【担当教員】	八木 稔
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0086-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 来校時授業終了後
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>高等学校レベルの数学の知識を有することが望ましい。 統計学と数学とは、たかいに考え方が異なる学術分野であることを承知したうえで授業を受けること。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>シラハスを参照して授業の全体像を把握しておくこと。 簡単な電卓(平方根を求める機能が付いているもの)を用意すること。 授業中に口頭で述べたこと、あるいはその要約をノートに記しておくこと。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。*これは「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 学位授与方針との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際的な適用の仕方について学ぶ。 本科目は主として、「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」、「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などを講義する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>統計学の専門用語を理解し、基本的な統計計算を修得し、定量的な考え方および評価方法を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」、「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などについて説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>小寺平治：はじめての統計学15講、講談社、2012年（ベイズの定理を含まないので、別途資料を準備する予定）</p>				
【参考書】				
<p>田栗正章、藤越康祝、柳井晴夫、C・R・ラオ：やさしい統計入門、ブルーバックス、講談社、2007年 盛山和夫：統計学入門、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学即規定のGPA制度に従う。 多肢選択式の客観試験、およびレポートに基づいて合否と成績をそれぞれ判定し評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	20		10					30
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	統計的な考え方 I 記述統計と推測統計 エビデンスのレベルとシステマティック・レビュー 母集団と標本との関連	講義と演習	記述統計と推測統計、および母集団と標本との関連について調べておく。	90分(45分×2)
3-4	統計的な考え方 II データの整理：度数分布とヒストグラム 変数の分類：名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度	講義と演習	度数分布、度数分布表、ヒストグラム、および変数の分類について調べておく。	90分(45分×2)
5-6	代表値とパラッキ I データの代表値として、代表値の代表(平均値)およびその他の代表値(中央値、最頻値)	講義と演習	平均値、中央値、および最頻値の求め方について調べておく。	90分(45分×2)
7-8	代表値とパラッキ II データの範囲(最大値と最小値) 分散(平均偏差平方和)と標準偏差 四分偏差	講義と演習	偏差、分散、標準偏差、および四分偏差の性質と求め方について調べておく。	90分(45分×2)
9-10	代表値とパラッキ III ペアとなるデータの散らばり 相関(相関係数、順位相関係数) 評価尺度：信頼性と妥当性	講義と演習	ピアソンの相関係数、スピアマンの順位相関係数について調べておく。	90分(45分×2)
11-12	代表値とパラッキ IV 回帰分析(因果関係) 単・重回帰分析 ロジスティック回帰分析 オッズ比と相対危険率	講義と演習	説明変数と目的変数(独立変数と従属変数)、またオッズ比について調べておく。	90分(45分×2)
13-14	確率 確率変数(取る値が偶然によって決まる変数)と確率分布(確率分布表、および確率密度曲線)	講義と演習	確率変数、確率分布、確率分布表、および確率密度曲線について調べておく。	90分(45分×2)
15-16	ベイズの定理 I ベイズの定理と事前確率、事後確率 検査の有用性：感度と特異度 陽性・陰性の適中度と尤度比	講義と演習	感度と特異度について予習しておく。	90分(45分×2)

17-18	ベイズの定理 II ベイズ論的な統計と頻度論的な統計 ベイズ理論と確率、尤度、基本公式	講義と演習	ベイズ理論による統計と頻度論による統計について予習しておく。	90分(45分×2)
19-20	正規分布 正規分布：確率分布のもととなるもの 二項分布：試行回数と生起確率に関する分布	講義と演習	標準正規分布、および二項分布の期待値と分散について調べておく。	90分(45分×2)
21-22	仮説検定 I 区間検定 I：平均値を推測する方法 中心極限の定理 t分布	講義と演習	平均の分布、中心極限定理、母平均の信頼限界、およびt分布について調べておく。	90分(45分×2)
23-24	仮説検定 II 区間検定 II：比率を推測する方法 カイ二乗分布	講義と演習	カイ二乗分布、母比率の信頼限界について調べておく。	90分(45分×2)
25-26	仮説の検定 III 平均の検定 帰無仮説、有意水準と危険率 第1種の過誤と第2種の過誤 両側検定と片側検定	講義と演習	危険率、第1種・第2種の誤り、片側/両側検定、およびt検定について調べておく。	90分(45分×2)
27-28	仮説の検定 IV 比率の検定 適合度・独立性の検定(カイ二乗検定)	講義と演習	母分散・母比率の検定、およびカイ二乗検定について調べておく。	90分(45分×2)
29-30	仮説の検定 V パラメトリック検定(分散分析など) ノンパラメトリック検定(符号付順位検定、U検定など)	講義と演習	分散分析、およびマン=ホイットニーのU検定について調べておく。	90分(45分×2)

【科目名】	統計学		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			選択
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この授業は前期に「統計学」を履修した学生を対象に、統計分析の実際を統計ソフトを使って実行できるようにするために起こいます。「統計学」「心理学統計法」で学んだ知識が必要となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義に加えて統計ソフトを利用した演習が中心の授業となります。統計学は積み重ねの知識が必要となり、一度欠席すると授業内容に追いつけなくなることも考えられるので、原則として全回の出席を求めます。					
【講義概要】					
(目的)					
現在多くの仕事の領域でデータを読み解く能力が求められている。これは専門職・事務職の区別を問わない。この講義では、入門程度の統計の知識を持つものが、実際にデータを操作して初歩的な統計分析を実施するための技能を修得することを目的としている。自分でデータを分析できるようになると、新聞やテレビ、学術論文で公表された数値をより正確に理解できるようになる。*これは「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 学位授与方針との関連性：A-2, A-3					
(方法)					
統計ソフトを使用して、データの集約法（記述統計）と基礎的な統計的検定（推測統計）を自分でデータを操作しながら学習する。統計ソフトに関する予備知識は必要ない。エクセルを少し使えたと役に立つ。					
【一般教育目標(GIO)】					
本授業で学んだ知識を基にして、社会の実際のデータを読み取り、説明することができる。また、必要に応じてデータを操作することができる。					
【行動目標(SBO)】					
基礎統計値の意味を理解し、基礎統計値の知識を基に実際のデータの読み取りができる。 推測統計の中でも特に平均の差の検定の意味を理解し、実際のデータの読み取りができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回の授業で資料を配布します。					
【参考書】					
吉田（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2018年，¥2,750					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	代表値の使い分けと読み取り	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる。実際のデータから代表値の読み取りができる。	120
3・4	標準偏差と標準誤差	講義・演習	代表的な散布度である標準偏差と標準誤差について理解できる	120
5・6	平均値と標準偏差のグラフを作成	講義・演習	1～4回の学びを基に視覚情報としてグラフ化することができる。	120
7・8	相関係数算出	講義・演習	相関係数の意味、算出されるプロセスを理解する。	120
9・10	相関の散布図を描く	講義・演習	相関関係を散布図として描き、視覚的にその情報を理解する。	120
11・12	2乗検定	講義・演習	2乗検定の基本的な考え方を理解できる。	120
13・14	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
15	t検定(2)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120

【科目名】	基礎生命科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0090-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。 高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 講義中に試験問題等を提供する。 試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。 試験後、回答例を示します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>世間一般で話題となっている「生命(いのち) = 生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>「生命(いのち) = 生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に使用せずプリントを提供する。</p>				
【参考書】				
<p>高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。 必要な場合にその都度紹介する。</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物・・・」の高校での学習の有無についてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命(いのち) = 生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ~ 加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の(化学)反応(系) ~ 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂...そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子 情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応...そして、生活空間 = 環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ~ 体液 循環 ~ 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン...そして、生活空間 = 環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0096-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 高校等で「生物基礎」を選択履修したのとして講義を執り行う。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示します。				
【講義概要】				
(目的) リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2				
(方法) 生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。				
【一般教育目標(GI0)】 常識程度の医生物科学(生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学)を語れるようになること。				
【行動目標(SB0)】 基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。				
【教科書・リザーブドブック】 平田恒彦著「人間・生き物科学」 考古堂 2012年				
【参考書】 高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	生物(学)の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3-4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5-6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7-8	化石の世界	同上	同上	同上
9-10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11-12	クスターの世界	同上	同上	同上
13-14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのiPS細胞～	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】		医生物科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0097-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
医生物科学 を履修したものととして講義を執り行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 試験後回答例を提示します。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという現実直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。 生命科学から見た人について特に人の内面の在り方や個としての人の行く末について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1.A-2					
(方法)					
生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
【一般教育目標(GIO)】					
社会一般における医療とのつながる医生物科学的な話題に関心を抱き、その話題を自分のものとして取り扱えるようになること。					
【行動目標(SBO)】					
現代的医生物科学に関する話題について語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に使用せずプリントを提供する					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、必要な場合にはその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	健康なからだづくりの基本・・・胎内期、幼児期	講義	新聞マスメディアに載るについて感心を抱くこと。	10分
3-4	こころの健康、そして休養・・・胎内期、幼児期	同上	同上	同上
5-6	社会生活への道・・・社会生活技術訓練SST、モノづくり	同上	同上	同上
7-8	モバイルヘルス 認知症予防のための脳トレ ・・・認知症へ・・・なる???!!!	同上	同上	同上
9-10	認知症予防のための脳トレ ・・・計算をためしてみよう! 感染症とのたたかいとそれへの予防 ・・・新型コロナウイルス感染症!?!?!?	同上	同上	同上
11-12	食との調和、そして自然	同上	同上	同上
13-14	日常生活におけるヒト ・・・生活の在り方 自己そのもの 他との関係における欲求	同上	同上	同上
15	最後の日々へ・・・	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】	人間支援科学		【担当教員】	長島 裕子
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0106-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日 12:40~13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。医療及び地域でのリハビリテーションに従事してきた経験から、社会人として必要な教養を講じる。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義時に説明する。 ・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2</p>				
(方法)				
<p>対面講義5コマ、オンデマンド10コマの講義構成である。 対面では「書く」、オンデマンドではパソコンを使用し「読む・書く」の演習を実施する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>社会人・職業人として求められる教養を身に付けるために、「読む・書く」ことについて理解し、そのスキルを修得する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>社会人・職業人に必要な「読む・書く」スキルを身に付け、実践、習慣化できるようにする。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価は、小テスト・レポートにより評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			70	30					100
評価指標	取り込む力・知識		30	10					40
	思考・推論・創造の力		20	20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	・オリエンテーション ・字をきれいに書く	対面講義：長島	丁寧に字を書くことができる。	30分
3.4	・高校と大学の違いについて ・メールの書き方について	オンデマンド： 長島	・高校と大学の違いについて理解できる。 ・正しいメールの書き方ができる。	30分
5.6	・基本的な文章の書き方について ・文章を読んで理解する	オンデマンド： 長島	文章を書く上でのルールを理解できる。	30分
7.8	・レポートの書き方について ・書き写し(字をきれいに書く) ・レポート課題について	対面講義：長島	・レポートの書き方を理解し、実際にレポートを作成することができる。 ・正しく字を写すことができる。	60分
9.10	・文章を読んで要約する	オンデマンド： 長島	文章をまとめることができる。	30分
11.12	・社会人に求められる語彙力 基本編	オンデマンド： 長島	ことばを使って正確に物事を伝えることができる。	30分
13.14	・社会人に求められる語彙力 応用編	オンデマンド： 長島	ことばを使って正確に物事を伝えることができる。	30分
15	・まとめ ・レポート返却	対面講義：長島	講義・レポートを振り返り、「読む・書く」について理解できる。	30分

【科目名】	人間支援科学		【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0107-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nishimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12時～15時(火・水曜日)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>対面とリモートを併用した講義となる。対面授業では、演習を含む。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労り支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。</p> <p>当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2</p>				
(方法)				
<p>毎回講義後に小テストを、また学期末には課題レポートの提出を求める。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>必要に応じて資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>必要に応じて資料を配布する。</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。授業内また授業後に実施する小テスト、課題レポート、実技により評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	40		20			100
評価指標	取り込む力・知識		20	20		10			50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	コミュニケーションスキルを測る コミュニケーションスキル(1):自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	人間支援科学 を復習しておく	240
3.4	コミュニケーションの構成要素	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
5.6	言語・非言語コミュニケーション	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
7.8	コミュニケーションスキル(2):相手の考えや気持ちを伝える	講義・演習	配布資料を読む、小テストを提出する	240
9.10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1):聴く力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
11.12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2):問う力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
13.14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3):共感する力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		物理学		【担当教員】	藤本 聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0111-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。 ・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。 ・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。 ・物理学を学ぶに必要な数学についても学ぶ。 					
【行動目標(SBO)】					
学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学	講義(対面)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学	講義(対面)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学 なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書1-12pを読んでおく	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書13-19pを読んでおく	60
9,10	物理学を学ぶのに必要な数学のまとめ演習 第2のテコ・第3のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書21-p25を読んでおく	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書27-p33を読んでおく	60
13,14	まとめ演習	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	演習	復習: まとめ演習を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】		物理学		【担当教員】	藤本 聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0112-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
物理学 を学んだ人を対象とする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。 ・ 試験・レポートは他に支障のない限り返却します。・ 試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。 ・ 対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・ 授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・ 高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・ 物理学 で学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・ 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・ 講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 					
【行動目標(SBO)】					
学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席点は評価に含みません。 ・ 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・ 期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	物理 期末試験の解説 生体の中のテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書37-40pを読んでおく	60
3,4	生体の中のテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書41-44pを読んでおく	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書47-50pを読んでおく	60
7,8	作用・反作用, 力の分解, 斜面, 振り子, 摩擦力	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書51-58pを読んでおく	60
9,10	物理学 のまとめ演習	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習	60
11,12	物理学 のまとめ演習の解説 物理学 の小テスト	演習	復習: 演習した内容を復習	60
13,14	物理 の小テストの解説 物理 と の総まとめ演習	演習	復習: 演習した内容を復習	60
15	総まとめ演習の解説	演習	復習: 授業の内容を復習	60

【科目名】 スポーツ実践		【担当教員】 粟生田 博子	
【授業区分】 教養分野(体育関係学)	【授業コード】 1-04-0125-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分けて実施します。 ・授業内容、スケジュール詳細などは初回ガイダンスにて周知します。 ・内容やスケジュールに変更がある場合があります。その際は大学ポータルサイト等を通じて連絡します。 			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<ul style="list-style-type: none"> ・実技の際は、スポーツを実施するのに相応しい身だしなみや服装を整え、館内では内履きを必ず着用してください。 ・水分補給の準備やタオル、着替え等を持参し、体調管理、安全管理に配慮してください。 			
【講義概要】			
(目的)			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動やスポーツを経験し、健康や身体活動に関する知識や相互理解を深める。 *当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 			
(方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動・スポーツ種目について、講義や動画などから学び、また実践することで、健康や障がいについて考える。 			
【一般教育目標(GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通じ、健康の保持・増進および障がいに対する知識や認識を高め、相互理解を深める。 			
【行動目標(SBO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する知識を高め、行動することができる。 ・健常者・障がい者とともに楽しめる運動・スポーツ活動の運営やサポート方法を考え実践することができる。 ・学習活動を通して、協調性、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力を養い、発揮することができる。 ・レポートを作成して自己評価を行い、活動を振り返ることができる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない 			
【参考書】			
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて提示する 			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・授業態度、レポートを総合的に評価します。 ・レポートは返却します。 			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20	20			100
評価指標	取り込む力・知識			30		5			35
	思考・推論・創造の力			30	10				40
	コラボレーションとリーダーシップ				5	10			15
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					5			5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	ガイダンス, アイスブレイク 新型コロナウイルス感染症について	講義・演習	講義内容をまとめる	30
3-4	アダプテッド・スポーツ 1	講義・演習	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
5-6	アダプテッド・スポーツ 2	講義・演習	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
7-8	アダプテッド・スポーツ 3	講義・演習	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
9-10	アダプテッド・スポーツ 4	講義・演習	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
11-13	スポーツ実践	演習・実技	実施した内容をまとめる	30
14	活動内容発表	演習・実技	発表する課題の内容をまとめる	30
15	まとめ	レポート作成	振り返り	30

【科目名】	情報処理技法		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0136-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時)メールにて対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技法Iでは情報に関するリテラシーやスキルを身につける。また、数理・データサイエンス・AI教育として、「情報学」(データ収集・加工・処理)、「統計学」(データ分析・解析)、AIの導入項目(総論)としてデータサイエンティストの基礎を築く。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性;A-3 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー、スキルまた数理・データサイエンス・AI教育の基礎知識について講義を通じ学び、実習を行うことにより具体的方法を学習する。 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会人として必要な情報リテラシーやスキルの習得を目指す。 ・これからのコモドリテラシー教育の一つに位置付けされている数理 ・データサイエンス教育の基礎の習得を目指す。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのセキュリティ設定が行える。 ・Office365の基本機能(Word, Excel, PowerPoint, Teams)を使用できる。 ・データサイエンス、AIの概要を説明できる ・ピックデータを使用したデータ収集・加工・処理、データ分析・解析が行える。 ・数理・データサイエンス・AIの関連性を説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
「できる Office365」インプレス社 (1,500円+税)				
【参考書】				
必要に応じ資料を配布する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25				10	55
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ		0	0					0
	発表力		0	0					0
	学修に取り組む姿勢		0	0					0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・ teamsの利用方法について ・ 社会で起きている変化 ・ データ・AI利用の最新動向	講義	・ シラバスを読んでおく。 ・ 配布資料をもう一度確認する。	10分 15分
2	・ 社会で活用されているデータ ・ データ・AIの活用領域	講義	・ AIとは何か調べておく。 ・ teamsのビデオで復習	15分 30分
3	・ データ・AI利用活用のための技術 ・ データ・AI利用の現状	講義	・ データ・AI活用に必要な技術について調べておく。 ・ teamsのビデオで復習	15分 30分
4	・ データ・AI利用活用における留意事項 ・ データを守る上での留意事項 (情報セキュリティについて)	講義	・ データセキュリティとは何か調べておく。 ・ teamsのビデオで復習	15分 15分
5	Wordの基本操作(1) ・ 文字入力の方法(ローマ字入力/全角・半角) ・ Wordの起動と終了 ・ 文書の保存	講義・実習	・ タイピングの練習をしておく。 ・ 練習課題を実施する。	10分 10分
6	Wordの基本操作(2) ・ 文書レイアウトの設定 ・ フォントの設定と文字配置 ・ あいさつ文の挿入とインデント	講義・実習	・ 配布資料を読んでおく。 ・ 練習課題を実施する。	10分 10分
7	Wordの基本操作(3) ・ 罫線と表の挿入 ・ 箇条書きと段落番号 ・ 印刷	講義・実習	・ 資料を読んでおく。 ・ 練習課題を実施する。	10分 10分
8	Wordの基本操作(4) ・ 写真・図形の挿入 ・ ヘッダー・フッターの挿入 ・ ショートカットキーの使用	講義・実習	・ 資料を読んでおく。 ・ 練習課題を実施する。	10分 20分

9	PowerPointの基本操作(1) ・PowerPointの機能と特徴 ・スライドマスターの設定 ・アウトラインで構成を練る	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	
10	PowerPointの基本操作(2) ・文字入力とレイアウトの調整 ・テキストボックスの挿入 ・アニメーションの設定	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	
11	PowerPointの基本操作(3) ・ヘッダー・フッターの編集と挿入 ・ブラフの作り方	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
12	PowerPointの基本操作(4) ・音声・動画の挿入 ・スライドの印刷 ・スライドショーの方法	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
13	Excel (1) ・Excelの基本概念 ・数式を入力する。	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
14	Excel (2) ・セルとの書式設定と表示形式 ・セルの複写・結合・挿入 ・罫線とセルの塗りつぶし	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
15	Excel (3) ・セルの複写と相対座標 ・絶対座標 ・代表的な関数の使用	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
16	Excel (4) ・データベース関数の利用	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
17	Excel (5) ・統計ツールの利用方法	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
18	Excel (6) ・統計ツールを使用し例題を解く	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
19	Power BI (1) ・概要 ・操作の流れ	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分

20	Power BI (2) ・データの作成方法 ・フィールドとレコード ・フィールドの書式設定	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
21	Power BI (3) ・フィルタリングの方法 ・グラフの作成方法 ・ドリルスルー ・ダッシュボードの作成	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
22	Power BI (4) ・データの共有方法	講義・実習	・資料を読んでおく。 ・練習課題を実施する。	10分 20分
23	総合演習(1) オリエンテーション ・地域の課題について公開データより収集し Excel, Power BIなどを用いてデータを分析する。 また分析したデータを用い問題点・考察・提言など をPowerPointでまとめる。	講義・演習	・teamsのビデオを見ておく。 ・グループ別にテーマについて検討 する。	10分 20分
24	総合演習(2) テーマ決定 グループワーク	演習	・各自テーマについて候補を考えて おく。 ・参考資料を収集する。	10分 20分
25	総合演習(3) データ収集 グループワーク	演習	・webよりデータを収集する。 ・分析方法を考える。	10分 20分
26	総合演習(4) データ収集・分析 グループワーク	演習	・webよりデータを収集する。 ・データ分析方法を行う。	10分 20分
27	総合演習(5) 分析・PPT作成 グループワーク	演習	・データ分析を行う。 ・プレゼンの方法を考える。	10分 20分
28	総合演習(6) 分析・PPT作成 グループワーク	演習	・データ分析を行う。 ・PPTを作成する。	10分 20分
29	総合演習(7) 分析・PPT作成 グループワーク	演習	・データ分析を行う。 ・PPTのノートを作成する。	10分 10分
30	総合演習(8) PPT完成 グループワーク まとめ	講義・演習	・PPTのノートを作成する。 ・まとめをおこなう。	30分 15分

【科目名】	情報処理技法		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0150-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時)メールにて対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技法 では数理・データサイエンス(DS)の中でデータ処理・分析を自分で行えるようブロックプログラムと記述プログラム言語Pythonについて学びます。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの基礎的概念を理解するためScratchを用いたブロックプログラムについて講義と演習により学びます。 ・より詳細なデータ処理と分析が行えるよう記述式プログラミング言語Pythonの使い方を講義と演習により学びます。 				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・データの分析と処理を独自に行ない日常の業務や研究に活かせることを目標にプログラミングの基礎を修得する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・Scratchを使用し簡単なプログラムを作成できる。 ・Pythonを用い基本的、データ処理と分析ができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
必要に応じ資料を配布する。				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・阿部和広 監修/横川耕二: おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ¥1650 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25				10	55
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション・プログラミング言語の役割 Scratch (1)・Scratchでのプログラミングの概要 ・Scratchエディタの使用法	講義・演習	・Scratchとは何か調べておく。 ・課題1を作成する。	10分 15分
2	Scratch (2) ・スプライトと背景 ・イベントによるプログラムの実行	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題2を作成する。	10分 15分
3	Scratch (3) ・アニメーションの使用法 ・インターラクティブ(メッセージ)の利用	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題3を作成する。	10分 15分
4	Scratch (4) ・角度の測定 ・タイマーを使用した時間の測定	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題4を作成する。	10分 15分
5	Scratch (5) まとめ	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題5を作成する。	10分 15分
6	Python (1) ・Pythonで何が出来るか ・利用環境を調える。 ・Google Colaboratoryの基本操作	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題6を作成する。	10分 15分
7	Python (2) ・変数とデータ型 ・四則演算	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題7を作成する。	10分 15分
8	Python (3) ・繰り返し処理 ・条件分岐	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題8を作成する。	10分 15分

9	Python (4) ・リストと辞書 ・データの並べ替え	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題9を作成する。	10分 15分
10	Python (5) ・数学処理を行う関数 ・乱数の使用 ・日付	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題10を作成する。	10分 15分
11	Python (6) ・Excelデータの取り込み方法 ・取り込んだデータを加工する。	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題11を作成する。	10分 15分
12	Python (7) ・統計計算を行う。 ・Excelデータとして書き出す。	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題12を作成する。	10分 15分
13	Python (8) ・データのフィルタリング方法 ・グラフ表示	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題13を作成する。	10分 15分
14	Python (8) ・各種グラフの作成方法 ・グラフオプションについて	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題14を作成する。	30分
15	Python (9) ・まとめ	講義・演習	・配布資料を読んでおく。 ・課題15を作成する。	30分

【科目名】		医療英会話ベーシック		【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0190-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。					
【講義概要】					
(目的)					
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2					
(方法)					
医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。					
【一般教育目標(GIO)】					
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。					
【行動目標(SBO)】					
様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。					
【教科書・リザーブブック】					
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』					
【参考書】					
辞書(英和、和英)を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1.5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1.6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン8、第2部2.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： 第1部レッスン12、第2部3.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： 第2部3.3、3.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： 第2部3.3、5.4.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1.5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1.6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン7、第8部2.2 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2.3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2.4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
23-24	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
25-26	教科書： 第1部レッスン12、第2部3.2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
27-28	教科書： 第3部3.3、3.4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
29-30	教科書： 第3部3.5、4.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

リハビリテーション学科

【科目名】		解剖学・総論	【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。当該科目との関連性；A 1、A 2				
(方法)				
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の構造などを講義します。				
【一般教育目標(GIO)】				
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に体幹についてその構造や働きを理解する。				
【行動目標(SBO)】				
ヒトの体幹を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。				
【教科書・リザーブブック】				
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年				
【参考書】				
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、レポートを出題する。成績評価は、小テストとレポートにより総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		60	40					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	みずから考え、学習するという事。医学を学ぶということ。脊椎動物について。身体の組織について。骨の組織構造および脊柱について。関節の構造について。	講義		
3・4	胸郭の構造 - 胸郭を構成する骨格について。筋肉・腱・靭帯の組織構造について。	講義		
5・6	胸郭の構造 - 胸郭を構成する筋肉について。神経組織について。脊髄神経について、筋肉と神経の関係について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	腹部の筋肉とその支配神経について。横隔膜と呼吸運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	腹壁と鼠径部の構造について。鼠径管について。腰部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	頸部の骨格、頸部の筋肉とその支配神経について。胸郭への入り口の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	頸部表面に投影される三角のいろいろ。頸部の大血管について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。解剖学的な肢位、運動の軸や面について。	講義	前回の講義の復習	30分

【科目名】		解剖学・総論	【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。当該科目との関連性；A1、A2				
(方法)				
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、上肢帯および上肢の解剖学を講義します。				
【一般教育目標(GI0)】				
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に上肢帯と上肢についてその構造や働きを理解する。				
【行動目標(SB0)】				
ヒトの上肢及び上肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連の関節の構造やその運動を説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年				
【参考書】				
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765				
平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130				
小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、レポートを出題する。成績評価は、小テストとレポートにより総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		60	40					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	上肢帯と上肢の骨格について。上肢帯の関節について。肩関節について。	講義	解剖学・総論 の復習	40分
3・4	上肢帯の筋肉について。肩甲骨の運動について。肩関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	腕神経叢について。腋窩の構成について。上肢の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	前腕の骨格について。肘関節について。肘関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	前腕の筋肉について。肘窩について。上肢の脈管について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	手の骨格について。手根管について。手関節の筋肉と運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	手内筋について。母指球と小指球について。手指の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。指の屈曲・伸展機構について。	講義		

【科目名】	解剖学・総論		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。当該科目との関連性；A 1、A 2				
(方法)				
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、下肢帯および下肢の解剖学、上肢と下肢の比較を講義します。				
【一般教育目標(GI0)】				
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に下肢と下肢帯についてその構造や働きを理解する。				
【行動目標(SB0)】				
ヒトの下肢及び下肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年				
【参考書】				
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765				
平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130				
小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、レポートを出題する。成績評価は、小テストとレポートにより総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		60	40					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	骨盤と大腿骨について。骨盤の男女差について。骨盤の靭帯について。股関節とその運動(1)について。	講義	解剖学・総論 と総論 を復習	40分
3・4	股関節とその運動(2)について。股関節の筋肉について。	講義	前回講義の復習	
5・6	膝関節を構成する骨について。膝関節の構造について。膝関節の靭帯について。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	膝関節の運動について。大腿部の筋肉とその支配神経及び大腿部の血管について。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	上肢と下肢の比較について。腰・仙骨神経叢ー坐骨神経などについて	講義	前回講義の復習	30分
11・12	足部の骨格について。足関節の靭帯について。足関節の運動について。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	距骨下関節を構成する骨について。距骨下関節の運動について。足底の靭帯について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
15	足根管について。下腿と足の筋肉について。	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】		生理学	【担当教員】	山口 賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	kenbo@med.niigata-u.ac.jp または kenbo2@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控え室にて対応	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
<p>生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】				
人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
【行動目標(SBO)】				
生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の機能などについて説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>原田玲子・佐伯由香・内田さえ 著 「人体の構造と機能 第4版」医歯薬出版社 ¥2,800</p> <p>山本敏行・鈴木泰三・田崎京二 著 「新しい解剖生理学 改定12版」南江堂 ¥3,200</p>				
【参考書】				
<p>田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第三版」医学書院 ¥2,808</p> <p>Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」南江堂 ¥4,104</p> <p>岡田泰伸(監修・翻訳)「ギャノン生理学 原著24版」丸善出版 ¥10,800</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	生理学とは何か、大学でどのように生理学を学ぶのか、生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性、病気について解説。	講義 (担当山口)	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、生物学的仕事、内部環境、器官分化と工場制の維持。	15分
3・4	体の水(体液)の種類、組織と特徴、成分表示の表し方や単位、浸透圧と体液の移動や血圧に及ぼす影響、体液平衡の障害でから起こる病気。	講義 (担当山口)	細胞内液・細胞外液、電解質・非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫。	15分
5・6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、成分、赤血球や白血球の種類、特徴、役割や病気。	講義 (担当山口)	赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、CO中毒、酸化解離曲線とその変化、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、抗体、ワクチン。	15分
7・8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、血小板に由来する病気、血液型の種類、輸血や臓器移植に由来する問題。	講義 (担当山口)	血液凝固、線溶、止血作用、血液凝固、凝固因子の働き、血友病、血栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、拒絶反応、MHC抗原。	15分
9・10	心臓循環系-1。 心臓の構造、それぞれの機能、心臓における興奮の発生、興奮伝道のしくみ、伝道異常と心臓の病気、心電図、心臓のポンプ作用。	講義 (担当山口)	洞結節、前電位、房室結節、興奮伝道系、期外収縮、代償性休止、不整脈、心電図波形と意味、心電図記録法、心拍出量と病気。	15分
11・12	心臓循環系心臓拍動に伴う諸現象とその総合的理解、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、血管系の特徴と機能。	講義 (担当山口)	房室弁、動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張性、心音、心不全、動脈、静脈、毛細血管、肺循環、冠状循環、脳の血管系。	15分
13・14	心臓循環系-3。 各血管系の特徴、心血管機能の特徴と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液と酸塩基平衡にはたす役割。	講義 (担当山口)	全身血管系の血圧、肺動脈楔入圧、高血圧、肺高血圧、圧・化学受容器、内皮細胞、血管運動中枢、血管作用物質、リンパ流、脳室。	15分
15	腎臓の構成と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿管や集合管の機能とその調節、クリアランス、尿の正常と排尿のしくみ。	講義 (担当山口)	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、原尿、近位・遠位尿管、集合管、アンジオテンシン、アルドステロン、ADH、利尿薬、尿素、オルニチン回路、排尿反射。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】		生理学	【担当教員】	山口 賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0257-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kenbo@med.niigata-u.ac.jp (山口)または kenbo2@gmail.com (山口)
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控室にて対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
生理学 を履修すること				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸收機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】				
人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
【行動目標(SBO)】				
神経系の構造と機能、内分泌器官とホルモンの作用、消化吸收、筋肉と収縮の機構、について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
原田玲子・佐伯由香・内田さえ 著 「人体の構造と機能 第4版」医歯薬出版社 ¥2,800 山本敏行・鈴木泰三・田崎京二 著 「新しい解剖生理学 改定12版」南江堂 ¥3,200				
【参考書】				
田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第三版」医学書院 ¥2,808 Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」南江堂 ¥4,104 岡田泰伸(監修・翻訳)「ギャノン生理学 原著24版」丸善出版 ¥10,800				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達、神経伝達物質。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトーシス、シナプス後膜、受容体。	15分
3・4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的分類、末梢神経系と中枢神経系。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経	15分
5・6	神経系の構造と機能-2。脊髄と脳の構成、各領域区分の特徴と機能、脳波記録と波形の意味、睡眠と病気。	講義 (担当山口)	延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、除波睡眠、REM睡眠。	15分
7・8	内分泌系とホルモンの作用-1。人体の調節物質の分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類、ホルモンの受容体。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン	15分
9・10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島から分泌されるホルモンの種類と作用。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトニン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、血糖調節。	15分
11・12	内分泌系とホルモンの作用-3。副腎、腎臓、精線、心臓その他から分泌されるホルモンやオータコイドの種類と作用。	講義 (担当山口)	副腎皮質、副腎髄質、コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、hGG、hPL、プロスタグランジン、ヒスタミン。	15分
13・14	筋肉とその収縮機構-1。筋肉の種類、骨格筋の構造、等尺性・等張性収縮、神経系筋接合部と活動電位の発生、黄紋筋収縮のメカニズム。	講義 (担当山口)	単収縮、強縮、アクチン、ミオシン、T管、筋小胞体、カルシウム、ギャップジャンクション、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とそのエネルギー。	講義 (担当山口)	カルシウム、カルモジュリン、ミオシン軽鎖、ミオシンホスタファーゼ、解糖系、クエン酸回路、クレアチン磷酸。	10分

【科目名】	臨床心理学概論		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:20(月・水・金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から、臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>講義に関する資料や課題は、配布する(Teams)。 課題は、必ず指定の期限までに提出すること。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2</p>				
(方法)				
<p>主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房 (2,400円+税)</p>				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 各回の課題などから、総合的な評価を行う。 出席点は評価に含まない。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		55	35					10	100
評価指標	取り込む力・知識	55	35						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	臨床心理学とはどのようなものか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
3-4	臨床心理学はどう役立つか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
5-6	臨床心理学と公認心理師	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
7-8	臨床心理学の成り立ち	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
9-10	臨床心理学における研究	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
11-12	臨床心理学と生物 - 心理 - 社会モデル	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
13-14	臨床心理学における支援の前提 「動機づけ面接」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
15	「臨床心理学概論」まとめ	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	45

【科目名】	臨床心理学概論		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:20(月・水・金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から、臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>講義に関する資料や課題は、配布する(Teams)。 課題は、必ず指定の期限までに提出すること。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2</p>				
(方法)				
<p>主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房 (2,400円+税)</p>				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 各回の課題などから、総合的な評価を行う。 出席点は評価に含まない。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		55	35					10	100
評価指標	取り込む力・知識	55	35						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	臨床心理学における支援 「クライアント中心療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
3-4	臨床心理学における支援 「精神力動的アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
5-6	臨床心理学における支援 「行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
7-8	臨床心理学における支援 「認知行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
9-10	臨床心理学における支援 「家族療法・カップルセラピー」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
11-12	臨床心理学における支援 「コミュニティ心理学」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
13-14	臨床心理学における支援 「ナラティブ・アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
15	「臨床心理学概論」まとめ	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	45

【科目名】	発達心理学		【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ (オフィスアワー) 12:00-15:00(火曜日・水曜日)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。				
【講義概要】				
(目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、認知機能の発達及び社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2				
(方法) 講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)について考察し、適切な対処法を習得する。 本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの 1. 身体的発達の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。				
【行動目標(SBO)】 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 配布資料あり。				
【参考書】 本郷一夫編(2018)発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房. 向田久美子(2017)発達心理学概論. NHK出版. 秦野悦子・近藤清美編(2020)公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 定期試験60%(配布資料持ち込み可)・小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	発達心理学の基礎 ・生涯発達心理学とは？ ・発達の規定要因	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	胎児期・乳児期の発達とその支援：言語獲得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	胎児期・乳児期の発達とその支援：愛着形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	幼児期の発達とその支援：保存の概念・社会性・	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	幼児期の発達とその支援：親子関係・虐待	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	生涯発達にかかわる臨床：発達障害	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	児童期の発達とその支援：道徳性・いじめ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく。	240

【科目名】		発達心理学	【担当教員】		西村 信子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
特になし。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、認知機能の発達及び社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。					
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
講義は、PowerPointを使用する。					
講義資料は、事前に配布する。					
【一般教育目標(GI0)】					
「生涯発達」という考え方を理解する。					
青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。					
1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。					
2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。					
3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。					
【行動目標(SB0)】					
一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。					
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。					
心理的危機に対して、適切な支援ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書等は特になし。					
毎回資料を用い講義する。					
【参考書】					
本郷一夫編(2018)発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房.					
向田久美子(2017)発達心理学概論. NHK出版.					
秦野悦子・近藤清美編(2020)公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
定期試験60%、小テスト40%で評価する。オンディマンド授業が中心となるため、毎回小テストを用意しており、その回答をもって出席とみなす。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	青年期の発達とその支援：自己同一性・不登校・自傷行為	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	生涯発達にかかわる臨床：不安障害・摂食障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	心理臨床的支援：芸術療法・家族療法	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	成人前期の発達とその支援：自立・ひきこもり	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	生涯発達にかかわる臨床：統合失調症	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	成人中期・成人後期の発達とその支援：中年期危機・対象喪失	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	生涯発達にかかわる臨床：気分障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション医学		【担当教員】		高橋 明美、小林 量作、真柄 彰	
【授業区分】		専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0350-0-1	(メールアドレス)		
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com		
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00		
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医師や理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、疾患別リハビリテーションについて講じていきます。 <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>小テスト、レポートについては返却します。 試験の解答については、原則返却しません。</p>							
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性：A-3</p> <p>(方法)</p> <p>主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。 脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。</p>							
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>リハビリテーション医学の基本を理解する。</p>							
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等について説明できる。 治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。</p>							
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>真柄彰・鴨下博編：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション医学，理工図書，2017，¥5000（税別）</p>							
<p>【参考書】</p> <p>三上真弘（監）：リハビリテーション医学テキスト，改訂第4版，南江堂，2016，¥5830 上田敏（監）：標準リハビリテーション医学，第3版，医学書院，2017，¥7350</p>							
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テスト、レポートにより総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。</p>							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2 後期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 (高橋)	(予習)リハビリテーション概論で学んだことを復習しておくこと (復習)配布資料と教科書(pp1-2)を読んでおくこと	60
3.4 後期	脳卒中のリハビリテーション： 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血	講義 (高橋)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp2-14)を読んでおくこと	60
5.6 後期	変性疾患のリハビリテーション： パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、 脊髄小脳変性症(SCD)等	講義 (小林)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(75-98)を読んでおくこと	60
7.8 後期	整形外科疾患のリハビリテーション： 関節リウマチ(RA)、変形性関節症(OA)、骨折(Fx) 等	講義 (小林)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp217-239)を読んでおくこと	60
9.10 後期	脊髄損傷のリハビリテーション： 脊髄損傷(頸髄損傷、胸腰髄損傷)	講義 (真柄)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp37-56)を読んでおくこと	60
11.12 後期	小児のリハビリテーション： 発達評価、小児疾患	講義 (真柄)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp133-144)を読んでおくこと	60
13.14 後期	悪性腫瘍(がん)のリハビリテーション： 病期別、原発巣別	講義 (高橋)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp261-276)を読んでおくこと	60
15 後期	その他疾患のリハビリテーション：心不全、呼吸器疾患 まとめ	講義 (高橋)	(予習)前回の講義の復習。 (復習)今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp145-173)を読んでおくこと	60

リハビリテーション学科

【科目名】		救急救命医学	【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ (オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科科目は、医療現場で実務経験のある教員による授業科目です。看護師の臨床経験から、医療における救急救命の役割、急性期の経時的変化の観察から、適切な処置をするための知識と技術について講じていきます。リハビリテーション学科においては、将来医療従事者として臨床現場で活躍することが期待されています。従って、緊急事態を常に予想し、素早く適切な処置ができる知識と技術を身につけておくことが必要となります。また臨床実習に備えて修得する必修科目となっています。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。真面目に授業を受けることができることが受講の条件です。実技等についても真摯な態度で臨んでいただきます。当該科目と学位授与方針との関連性；A-1,2</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目では救急救命医学の基礎知識を学ぶことを目的とします。リハビリテーションでは、生命にかかわる心疾患患者、脳卒中等の急性期管理の必要な患者などが対象となり、生命に直接関わる緊急時に遭遇することが想定されます。そのため緊急発生時、適切かつ安全な医療を提供できるように知識・技術を修得できるように学んでいきます。</p>				
(方法)				
<p>緊急時の場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように勤めていきます。また講義で得た知識は臨床現場で応用できることを目標とします。授業内容に「村上市消防本部救命講習、普通救命講習1(修了証交付)」が含まれています。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>救急医療体制を知り、救急医療の諸問題について理解する。医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法についての知識・技術を修得する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>・救急医療体制と救急疾患の特性を説明できる。 ・人一次救命処置ができる。 ・児の一次救命処置を説明できる救命処置の手順を理解できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために(医歯薬出版) CPR・AED学習キットMiniAnne</p>				
【参考書】				
<p>AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために 医歯薬出版 瀬尾憲司(著) 2020にAHAガイドラインが改正されたので改正版等の書籍を検討中</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う</p>				

・成
 ・小

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				10		60		30	100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					50			50
	学修に取り組む姿勢					10		30	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	医療安全・救急医療体制の現状と諸問題	講義	スライドとプリントを用いた講義 救急医療が抱える問題について調べておくこと	90
3.4	成人のバイタルサイン(バイタルサインの観察とアセスメント)	講義	スライドとプリントを用いた講義	90
5.6	小児のバイタルサイン(バイタルサインの観察とアセスメント)	講義	スライドとプリントを用いた講義	90
7.8	成人・小児のCPR(救命の連鎖、一次救命処置、アルゴリズム)	講義・実習	テキスト(p1~37、p51~59)	90
9.10	AED(AEDの使い方、窒息)	講義・実習	テキスト(p41~48)	90
11.12	一次救命実習 村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	救命講習資料	90
13.14	一次救命実習 村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	救命講習資料	90
15	講義のまとめ、科目終了試験(レポート)	講義・実習		90

リハビリテーション学科

【科目名】		栄養学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-14-0455-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で摂食嚥下機能障害のリハビリテーションに従事してきた経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。</p> <p>栄養学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。</p> <p>将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない中途退室は欠席と見なします。</p> <p>他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にミニレポートを課す場合があります。</p> <p>また、食生活調査や栄養計算等も随時課します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。</p> <p>本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防できる基礎を学ぶことを目的とします。</p> <p>また、近年注目されているサルコペニア/フレイルと栄養の関係も説明できることをも目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：A-3, P-2, O-2, R-2</p>					
(方法)					
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心になります。</p> <p>毎回、スライド資料及び関連する参考資料は配布します。</p> <p>その他、自身の身体・栄養調査等の演習を行っていきます。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解し、生物・栄養的な側面から食品の栄養特性と物性が説明できる。</p> <p>栄養と健康維持・増進、疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。</p> <p>フレイル及びサルコペニアの予防、更に認知機能障害の予防を栄養管理の面から説明できる。</p> <p>「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解できる。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。</p> <p>ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。</p> <p>医療及びリハビリテーションにおける栄養管理法の基礎を修得する。</p> <p>経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。</p> <p>栄養状態とうつ症状等の心理状態の関係性を理解し、臨床現場で心身両面から適切な支援ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
「新カラーチャート食品成分表」 教育図書 ¥740					
【参考書】					
<p>田村明 (著)「イラスト栄養学総論」東京教学社; 第7版 (2018) ¥2,160</p> <p>栢下淳・若林秀隆 (編著) 「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」医歯薬出版 (2013/12) ¥3,990</p> <p>若林秀隆 (編著) 「リハビリテーション栄養 ハンドブック」医歯薬出版 (2012/11) ¥3,780</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	20	30					100
評価指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク質・エネルギー低栄養状態(PEM)とは？ ・栄養状態の評価法	講義	加齢による「食べること」についての障害を知り、適切な栄養サポートを学ぶ。	
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・栄養スクリーニング	講義	低栄養とうつ	15
3	何故食物を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化と吸収	講義	指定教科書 p.4-5 指定教科書 p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
4	経口摂取と摂食・嚥下障害 ・栄養投与ルート	講義	指定教科書 p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
5	栄養素 _3大栄養素 ・食品の成分と栄養特性	講義 一部演習	指定教科書 p.5-11 炭水化物、脂質、たんぱく質の種類と機能を知る	15
6	栄養素 _5大栄養素 ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義	指定教科書 p.12-15 ビタミンの種類と機能を知る	15
7	栄養素 _5大栄養素 ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状	講義 確認テスト	指定教科書 p.12-15 ミネラルの種類と機能を知る	15
8	食生活と健康 ・栄養表示/特別用途食品/保健機能食品	講義	指定教科書 p.25 指定教科書 p.254-259	30

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン (演習) 栄養計算	講義 一部演習	指定教科書 p.28-29 指定教科書 p.20-21 エネルギー代謝と食事摂取基準を学ぶ レポート作成	60
10	食品群別摂取量 ・栄養バランスガイド(演習)	講義 一部演習	指定教科書 p.22-27 基本的な栄養アセスメントを学ぶ レポート作成	60
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	指定教科書 p.32	15
12	食生活と生活習慣病 ・脳血管疾患、心疾患、糖尿病等 ・食生活と身体・精神機能	講義	指定教科書 p.30-31 栄養と疾患の関係を理解し、適切な 栄養管理ができる。	15
13	介護予防のための栄養食事管理法 ・サルコペニア/フレイルと栄養	講義	資料配布 [食べて] + [動く] [健康寿命]	60
14	介護予防のための栄養食事管理法 ・栄養アセスメント ・栄養状態の評価法：栄養ケアマネジメント(NCM)	講義 一部演習	資料配布 食物摂取状況調査 身体計測と臨床検査	30
15	まとめ	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション概論	【担当教員】	高橋 明美、高橋 圭三、大矢 薫、藤本 聡
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。</p> <p>・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理士・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>小テストについては、返却します。</p> <p>試験の解答については、原則返却しません。</p> <p>予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。</p>				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3				
(方法)				
<p>資料・教科書を用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なりハビリテーション分野を深く理解する。				
【行動目標(SB0)】				
<p>1．リハビリテーションの理念、歴史の変遷について説明できる。2．障害の概念や分類について説明できる。3．リハビリテーションの過程について説明できる。4．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
【参考書】				
<p>砂原茂一著：リハビリテーション概論，岩波新書，1997、¥630</p> <p>上好昭孝、他：医学生・メディカルのための手引書，リハビリテーション概論，改訂第3版，永井書店，2014，¥3000（税別）</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、期末試験および小テスト、レポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価には含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 (高橋明美)	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	30
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
5 前期	作業療法概論	講義 (藤本)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
6 前期	言語聴覚療法概論	講義 (高橋圭三)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義 (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30
8 前期	まとめ 試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	30 30

リハビリテーション学科

【科目名】 チーム医療学		【担当教員】 長谷川 裕、藤本 聡、森本 千恵、知名 規人	
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0425-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	kaifuchi@nur.ac.jp	
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 在室時(12:50~13:20)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>病院や施設、または災害時支援チームとして実務経験をもつ教員が担当する。中越地震・東日本大震災・熊本大地震・令和元年度台風19号被害などで避難所支援をおこなってきました。 学生それぞれが目指す職業とかかわりの深い多くの専門職業を知るために、広い視野と柔軟性を持って授業に臨んでいただきたい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>同級生との討論・まとめ・発表などの自主的な活動を中心に授業が進むので、率直な意見交換ができるよう、日ごろから自分の考えや感じたことを他の人に伝えたり、他の人の意見を聴くように心がけていただきたい。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携の重要性はもちろんのこと、心理職をはじめとするその他の多くの専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。</p> <p>(方法)</p> <p>実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。</p>			
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>リハビリテーションサービスを効果的に進めていくために不可欠な多くの専門職を知り、その人々との連携の重要性を理解するとともに、チームの一員としての自分の近未来の役割を理解する。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>*以下の事項について、班ごとで討論・記録し、発表することができる。 リハ医療に関連する専門職10種類以上の名称と役割の概要について。 多くの職種による連携の必要性について。 急性期から終末期に至るまでの連携の重要性について。 サービス継続、多職種連携のポイントについて。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p>			
<p>【参考書】</p> <p>「チーム医療」とは何か 日本看護協会出版 2012 新しいチーム医療改訂版 看護の科学社 2018</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>グループ発表、グループでのレポート及び期末テストの成績を合わせて評価する</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		5					55
	思考・推論・創造の力	30		5					35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	・科目の流れについてのオリエンテーション ・チーム医療とは何か	・講義 ・討論	・関連専門職について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
3.4	・チーム医療の基本的な考え方。	・講義 ・討論	・専門職の役割を確認する。 ・討論メモをまとめる。	20分 20分
5.6	・急性期におけるチーム医療 ・回復期や維持期におけるチーム医療	・講義 ・討論 ・発表	・指定された専門職の検索 ・指定された専門職の役割と、近未来の自分の職業とのつながりをまとめる。	20分 20分
7.8	・在宅医療におけるチーム医療 ・災害時におけるチーム医療	・発表 ・討論 ・講義	・発表内容を確認する。 ・討論のまとめをする。	10分 20分
9.10	・主に、脳卒中後の片麻痺の急性期・回復期にある方々に対するチーム医療を学ぶ。	・講義 ・討論	・脳卒中について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
11.12	・高齢者に対するチーム医療、専門職連携について学ぶ。	・講義 ・討論	・高齢者に対する専門職の役割をまとめる。	20分 20分
13.14	・回復の望めない方々、終末期にある方々に対するリハビリテーション専門職の役割を考える。	・講義 ・討論	・終末期について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
15	・医科歯科の連携	・講義 ・討論		20分 20分

【科目名】	心理学統計法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を多分に取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的変数についてエクセルを使ってその算出方法を練習します。演習を通して統計学的な数値がどのようなプロセスで算出されているのか理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 「公認心理師」資格受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。データを読み、説明し、操作する知識と技能を養う。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>					
【参考書】					
<p>吉田(著)本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本, 北大路書房, 2018年, ¥2,750</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3・4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5・6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7・8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9・10	散布度(分散と標準偏差)	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11・12	共分散と相関(1)	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13・14	共分散と相関(2)	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】	心理学統計法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。「心理学研究法」と「心理学実験実習」は、心理学統計法 と を履修した学生だけが、履修登録できます。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を多分に取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定についてエクセルを使ってその方法を練習します。演習を通して統計学的検定がどのようなプロセスで行われているのか理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 「公認心理師」資格受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理学統計法 で学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。授業では、社会の実際のデータも扱います。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。データを読み、説明し、操作する知識と技能を養う。社会の実際のデータを扱えるようにする。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>2乗検定、t検定、分散分析、回帰分析について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>					
【参考書】					
<p>山田・村井(著)よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800 + 税,</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	統計学的仮説検定とは	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120
3・4	2乗検定	講義・演習	2乗検定の基本的な考え方を理解できる。	120
5・6	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
7・8	t検定(2)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
9・10	分散分析(1)	講義・演習	一要因の分散分析について理解できる。	120
11・12	分散分析(2)	講義・演習	多重比較について理解できる。	120
13・14	回帰分析	講義・演習	回帰分析の考え方について理解できる。	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

リハビリテーション学科

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病		【担当教員】	宮岡 里美、村井 絹子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。病院の臨床経験を活かし、身体部位の構造と機能に加え心の器官の構造や働きとの結びつきについて講じていきます。公認心理師とは、「保健医療、福祉、教育その他の分野において心理学に関する専門的知識と技術をもって心理に関する様々な支援を行う者」とされています。疾病を有する患者の心理について相談・助言を行うためには人体と理解と医学的知識が必要となります。またこの科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。テキストにそって講義をおこないますが、その他講義資料を配付します。欠席した場合は、後日資料を配付します。医学の基礎として、人体の構造と機能について学んでいきますが、この講義のほかに「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目を受講するとより理解を深めることができます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>公認心理士を目指す人の必修科目となります。人の成長・発達や日常生活との関連性を踏まえ、様々な職種と協働しながら支援等を主体的に実践するため、必要な医学的知識を修得し、より専門性の高い領域へ進む基礎となるよう学んでいきます。人体の構造と機能及び疾病 では、正常な人体構造と機能の基礎知識を習得することを目的としています。当該科目と学位授与方針との関連性；R-1</p>					
(方法)					
<p>パワーポイントを使用しての講義をおこないます。毎 回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。内容 については、指定教科書に準じます。講義終了後には、確認テストをおこないます。</p>					
【一般教育目標(G10)】					
<p>心の問題と、そのことが原因となる身体的問題を生物学的に理解するために、正常な人体構造と機能の基礎知識を修得する。疾病がもたらす心理面への影響やその支援のあり方を理解するために、人体の構造や機能を踏まえ、疾病に関する基本的な知識を修得する。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・各臓器の構造と機能を説明できる。 ・人体の解剖学的用語を説明できる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
武田克彦編著「公認心理師カリキュラム準拠「人体の構造と機能及び疾病」, 医歯薬出版株式会社、2019/5/10、3200円+税					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション 細胞、組織、器官、器官系	講義	科目オリエンテーション シラバスについて 教科書 p 10 ~ 15	90
3.4	身体の構造と機能 物質の取り込み：呼吸器系・消化器系	講義	1 回目の復習(小テスト) 教科書 p 16 ~ 18	90
5.6	身体の構造と機能 物質の循環と排泄：血液・循環器系・泌尿器系	講義	2 回目の復習(小テスト) 教科書 p 19 ~ 23	90
7.8	身体の構造と機能 個体の複製：生殖器系 形の維持と運動：運動 器系	講義	3 回目の復習(小テスト) 教科書 p 24 ~ 28	90
9.10	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：感覚器系	講義	4 回目の復習(小テスト) 教科書 p 31 ~ 36	90
11.12	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：神経系	講義	5 回目の復習(小テスト) 教科書 p 36 ~ 48	90
13.14	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：内分泌系	講義	6 回目の復習(小テスト) 教科書 p 48 ~ 52	90
15	身体の構造と機能 1 回目 ~ 7 回目のまとめ 科目終了試験(60点)	講義	7 回目の復習(小テスト) 8 回目の復習(小テスト)	90

リハビリテーション学科

【科目名】 人体の構造と機能及び疾病		【担当教員】 宮岡 里美、村井 絹子
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。病院の臨床経験を活かし、疾病の原因、病態、治療、疾病が与える心理的影響と支援について講じていきます。身体各部の疾患、人の一生を縦断的にみた加齢に伴う疾患について学び、健康についても理解を深めていきます。またこの科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 テキ ストにそって講義をおこないますが、その他講義資料を配付します。欠席した場合は、後日資料を配付します。 医学の基 礎として、人体の構造と機能に加えて、身体各部の疾患について学んでいきます。この講義のほかに「解剖学」や「生理学」、「 内科学」などの医学関連科目を受講するとより理解を深めることができます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>公認心理士を目指す人の必修科目となります。生活習慣病をはじめとする内科疾患、骨折などの整形外科疾患、うつ病などの精神疾患、脳血管障害などの神経疾患、がん、感染症、難病、小児疾患について知識を深めていきます。疾病に伴う心理的症状を観察し、その状態を分析し心理的・社会的支援に繋げる医学的知識を修得することを目的に学んでいきます。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1</p> <p>(方法)</p> <p>パワーポイントを使用しての講義をおこないます。 毎 回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。 内容 については、指定教科書に準じます。講義終了後には、確認テストをおこないます。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>人体の構造と機能の基礎知識を活用し身体各部の疾病、原因、病態、治療、心理面への影響について概説できる。 ICF, 健康の定義について概説できる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的支援が必要な代表的疾患の成り立ちを説明できる。 ・心理的支援が必要な代表疾患の特徴を説明できる。 		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>武田克彦編著「公認心理師カリキュラム準拠「人体の構造と機能及び疾病」, 医歯薬出版株式会社、2019/5/10、3200円+税</p>		
<p>【参考書】</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定GPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	疾病の概要と特徴 小児の成長発達と疾患 (小児に特徴的な疾患と障害、先天性疾患・遺伝性疾患)	講義	科目オリエンテーション シラバスの説明 人体の構造と機能及び疾患の復習 教科書 (p56 ~ p70)	90
3.4	疾病の概要と特徴 加齢と疾患(各臓器の老化、高齢期に起こりやすい疾患と障害)	講義	1回目の復習(小テスト) 教科書 (p71 ~ p80)	90
5.6	疾病の概要と特徴 内科疾患の理解(生活習慣病の疾患、症状、治療法、心理的アプローチ)	講義	2回目の復習(小テスト) 教科書 (p81 ~ p93)	90
7.8	疾病の概要と特徴 整形外科疾患、精神科疾患の理解(運動器の代表的疾患、精神疾患の分類・精神疾患の概要)	講義	3回目の復習(小テスト) 教科書 (p94 ~ p120)	90
9.10	疾病の概要と特徴 神経疾患、難病の理解(神経疾患の分類、脳血管障害、てんかん、認知症、パーキンソン病)	講義	4回目の復習(小テスト) 教科書 (p121 ~ p137)	90
11.12	疾患の概要と特徴 がんの理解、感染症の理解(小児がん、サイコオンコロジー、緩和ケア、主な感染症、感染予防策)	講義	5回目の復習(小テスト) 教科書 (p138 ~ p170)	90
13.14	疾患の概要と特徴 ICFの理解、健康と健康増進の理解(ICFの構成要素及び活用法、健康の定義、ヘルスプロモーション)	講義	6回目の復習(小テスト) 教科書 (p192 ~ p213)	90
15	1回目~7回目復習(45分) 科目終了試験(45分)	講義	7回目の復習(小テスト) 8回目の復習(小テスト)	90

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミ		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡、浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0016-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は基礎ゼミ ・ のセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。(これが出席簿の代わりとなります。) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 				
(方法)				
<p>このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。 ・e-learningとしてエルコアを授業の教材として用い、「医療倫理」についての受講を完了することができる。 ・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。 				
【教科書・リザーブブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・担当教員による個別評価 ・グループ発表得点、最終レポート、エルコアを受講完了し証明書、その他課題の提出 ・出席点は評価に含みません。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	・オリエンテーション(4月22日) ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
3,4	ゼミ活動-1 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
5,6	ゼミ活動-2 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
7,8	エルコアの実施		担当教員の指示に従ってください。	
9,10	Power BI Power BIの概要と基本操作 (5月6日) * パソコンを持参すること	講義・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	
11,12	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。		担当教員の指示に従ってください。	
13,14	Power BI Excelデータの取り込みとクエリ (5月13日) * パソコンを持参すること	講義・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	
15,16	Power BI 数表とフィルターリング (5月20日) * パソコンを持参すること	講義・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	

17,18	Power BI グラフ表示と書式設定 (6月4日) * パソコンを持参すること	講義・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	
19,20	ゼミ活動-3 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
21,22	ゼミ活動-4 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
23,24	ゼミ活動-5 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
25,26	ゼミ活動-6 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
27,28	ゼミ活動-7 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
29,30	ゼミ活動-8 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定) ・ゼミ内での中間発表	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	

【科目名】	基礎ゼミ		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0017-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月~木 13:00-13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修は基礎ゼミを受講していることが前提です。 ・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。 ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3 				
(方法)				
<p>このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・基礎ゼミで学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミで学んだPower BIを活用できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・担当教員による個別評価 ・抄録、グループ発表得点、活動に対する取り組み ・出席点は評価に含みません。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください	
3,4	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
5,6	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
7,8	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
9,10	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
11,12	ゼミ活動-6 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
13,14	ゼミ活動-7 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
15,16	ゼミ活動-8 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	

17,18	ゼミ活動-9 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
19,20	ゼミ活動-10 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
21,22	ゼミ活動-11 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
23,24	ゼミ活動-12 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
25,26	ゼミ活動-13 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	
27,28	ゼミ活動-14 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	
29,30	発表会(12月1日、5,6,7,8限)	長谷川・藤本・担当教員	・発表の準備 ・発表	

【科目名】	基礎ゼミ		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0017-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月~木 13:00-13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修は基礎ゼミを受講していることが前提です。 ・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。 ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 				
(方法)				
<p>このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・基礎ゼミで学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミで学んだPower BIを活用できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・担当教員による個別評価 ・抄録、グループ発表得点、活動に対する取り組み ・出席点は評価に含みません。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください	
3,4	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
5,6	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
7,8	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
9,10	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
11,12	ゼミ活動-6 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
13,14	ゼミ活動-7 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
15,16	ゼミ活動-8 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	

17,18	ゼミ活動-9 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
19,20	ゼミ活動-10 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
21,22	ゼミ活動-11 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
23,24	ゼミ活動-12 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	
25,26	ゼミ活動-13 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	
27,28	ゼミ活動-14 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	
29,30	発表会(12月1日、5,6,7,8限)	長谷川・藤本・担当教員	・発表の準備 ・発表	

【科目名】	臨床倫理学		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、現代医療の現場で重要な課題を取り上げ、どのようなことが倫理学の観点から問題になるのか考えていきます。また臨床倫理学の問題を自分で考え、他者との意見交換からさらに考えを深めることができるように講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。ストにそって講義をおこない、事例を活用しGW,意見交換を行います。積極的に参加してください。に迷惑となる行為が認められた場合は講義室より退出して頂きます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場で倫理的行動を実践するための知識を深め、自己啓発に向け修養することを目的としています。また、リハビリテーション学科学生として、生命倫理を中心に現代医療をめぐる諸問題の題材を多角的に捉え考えて、視野を広げる機会となるように学んでいきます。当該科目と学位授与方針との関連性；A-1</p>				
(方法)				
<p>教科書を中心に講義・GWを行い、様々な視点から臨床の倫理について意見交換をおこないます。パワーポイントを使用しての講義をおこないます。毎回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。内容については、指定教科書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>将来医療に関わる専門職として倫理的な自覚を深めるために、なぜ今、医療において倫理が問われるのか、患者の人権や自律の尊重がなぜ大切なのかについて理解する。一人ひとり異なる価値観を有する他者の気持ちをより理解し、柔軟な思考と態度を養い、リハビリテーション医療を学ぶ者に必要な「医の倫理」の知識を修得する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療における原理・原則について説明できる。 ・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べることができる。 ・倫理とは何か、自分の言葉で述べることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
伏木信次〔他〕編、「生命倫理と医療倫理」金芳堂 第4版				
【参考書】				
<p>雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社 伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション 医療の歴史と倫理問題の提起 倫理的問題の具体的現状	講義	教科書P.7～P.11	90
3.4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パターナリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	講義	教科書P.23～P.35	90
5.6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報保護と倫理	講義	教科書P.202～P.229	90
7.8	生命誕生のあらし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	講義	教科書P.62～101	90
9.10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	講義	教科書P.131～P.143	90
11.12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ 終末期医療 安楽死と尊厳死	講義	教科書P.104～P.130 教科書P.144～P.145	90
13.14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	講義	教科書P.154～P.165 教科書P.230～P.240	90
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる 科目終了試験	講義		90

【科目名】	地域文化論		【担当教員】	桑原 猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0025-02	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kuwabara@kbe.biglobe.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(15時間)	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特に無し				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。				
【講義概要】				
(目的) 本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。				
【一般教育目標(GI0)】 身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。				
【行動目標(SB0)】 毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。				
【教科書・リザーブドブック】 毎回印刷配布する。				
【参考書】 村上地区まちづくり協議会編「城下町探検ガイド」 . . .				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。 最終日に課題を提示し、1週間後にレポートを提出させ、内容を評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	講義概要のガイダンス 村上城下の近世から現代までの変遷 城下町の形成と歴史及び風土から、村上の特性と文化の背景を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。	
3-4	町谷の構造と伝統行事との関係 伝統行事と町家構造について、他地域の事例との比較から、村上・岩船・瀬波と町家の構造を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。	
5-6	重要無形民俗文化財としての村上の祭り- しゃぎり屋台 全国の山・鉾・屋台の事例(歴史・構造・分類)から、村上・岩船・瀬波のしゃぎり屋台の特性を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 この場合学生は入場無料とする。	
7-8	重要無形民俗文化財としての村上の祭り- 祭礼行事と屋台巡行 神社の本祭(神事)と付け祭りとしての屋台巡行における村上大祭の特異性を探る。	提供資料及びDVD視聴及びパワーポイントスライドによる講義		
9-10	伝統行事が抱える課題と今後の展望 全国的にも、少子高齢化によって伝統行事等の存続、継承が危機に瀕している。これにどう対応していくかを探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義		
11-12	村上の鮭文化を探る- 鮭の生態と漁獲 回帰性、産卵とふ化、今の捕り方 回帰率を高める取組	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) イヨボヤ会館を見学して村上と鮭との関係を探索する。 この場合学生は入館無料とする。	
13-14	村上の鮭文化を探る- 村上藩の政策と漁民 青砥武平治と天然産卵の保護 土族授産と人口ふ化事業	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(予習課題) 村上の鮭料理について2種類以上調べてくる。	
15	村上の鮭文化を探る- 村上の伝統的な鮭料理 まとめレポートの課題提示	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義 調査結果の発表	調べた鮭料理を発表する。	

【科目名】	日本語表現法		【担当教員】	上松 恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0030-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@star.rcast.u-tokyo.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。				
【講義概要】				
(目的)				
正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法)				
基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する ・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる ・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる ・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる ・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる 				
【教科書・リザーブブック】				
上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）				
【参考書】				
講義内で適宜資料を指示する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンラインの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法について—どのような方法でまとめ、どう考察するのか—	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方 1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方 2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	レポートの書き方 3 発表ソフトの使い方	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	インターネットからみる日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

【科目名】	心理学概論		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0036-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。リハビリテーション心理学専攻の学生にとっては必修、認定心理士または公認心理師の資格を取得するための指定科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>心理学の成り立ち(心理学の歴史)と、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学んでいきます。心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。内容は、原則、指定教科書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>心理学・臨床心理学の成り立ちについて概説できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。 各領域における心の“問題”や“障害”を知る。 それぞれの問題や障害に対する対処法を説明でき、実践することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>繁枘算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版, 2015/9/25, 23,760円 梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ~ こころの科学を知る ~ 」サイエンス社, 1992年, 1942円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20		10			100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理学の歴史 ・近代心理学の成立について学ぶ	講義	指定教科書p. 204-207 ・構成主義 ・ゲシュタルト心理学、精神分析学、行動主義、新行動主義 ・認知心理学、認知神経科学	10
2	心理学の歴史 ・臨床心理学の成立について学ぶ	講義	・生物心理社会モデル ・精神力動/認知行動/人間性アプローチ ・ナラティブアプローチ、社会構成主義	10
3	「知覚」 ・知覚成立の基礎 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p. 2-5 ・知覚はどのように成り立っているのかを知る	10
4	「知覚」 ・知覚の体制化 ・図と地	講義 一部演習	指定教科書p. 5-9 ・知覚成立の特徴を知る	10
5	「知覚」 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p. 10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する	10
6	「知覚」 ・知覚の諸相	講義 一部演習	指定教科書p. 12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する	10
7	「学習」 ・古典的条件づけ/オペラント条件づけ	講義	指定教科書p. 15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	10
8	「学習」 ・観察学習	講義	指定教科書p. 19-20 ・社会的行動における観察学習の重要性を理解する	10

9	「記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p.20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理解する ・記憶の測定法を学ぶ	10
10	「記憶」 ・忘却/記憶の歪み/病理	講義 一部演習	指定教科書p.24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	10
11	「動機づけ」 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p.27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	10
12	「欲求」 ・自己効力/学習性無気力 ・演習 セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	10
13	「感情」 ・感情の分類 ・感情発生メカニズムと機能	講義	指定教科書p.39-45 ・感情発生メカニズムを知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	10
14	「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス	講義 一部演習	指定教科書p.45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	10
15	まとめ	講義	人の心の基本的な仕組みとその働きを説明できる	10

【科目名】	心理学概論		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0037-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金9:00-17:30(講義時間帯以外)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は、リハ心理学専攻の学生にとっては必修であり、認定心理士または公認心理師の資格取得のための指定科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>心理学の成り立ち(歴史)と、人の心の基本的な仕組み及び動きを学びます。心理学における代表的分野について、それぞれの歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用した講義が中心となります。毎回、講義資料は配布します。随時、関連する心理テスト等を演習形式で実施していきます。内容は、原則指定教科書と参考書に準じます。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。他者と適切な対応ができ、必要がある場合には適切な心の支援ができる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>各領域の目的(学習到達目標)を説明できる。 各領域における“問題”や“障害”を知る。 それぞれの問題や障害に対する対処法を自身で考え、実践することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016年, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>繁枘算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学」金剛出版, 2012/5/31, 23,100円 梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ~ こころの科学を知る ~」サイエンス社, 1992年, 1942円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20		10			100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「精神的健康」 メンタルヘルス/ストレス	講義	指定教科書p.48-52 ・心が健康とは何かを説明できる ・ストレスとは何かを説明できる	10
2	「精神的健康」 演習 ストレス度の測定 医療・福祉における「コミュニケーション」 “優しい目、大きな耳、小さい口、広いこころ”	講義 一部演習	指定教科書p.150-153 ・心の健康が損なわれるとどのような状態となるのかを知る ・心の健康を測定できる	10
3	「パーソナリティ」 パーソナリティの記述	講義	指定教科書p.54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学ぶ	10
4	「パーソナリティ」 パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p.60-63 ・パーソナリティの測定はどのように調べられるのかを学ぶ	10
5	「パーソナリティ」 障害：境界性パーソナリティとは？	講義	指定教科書p.63-65 ・パーソナリティの障害を説明できる	10
6	「パーソナリティ」 演習：Y-G性格検査	演習	指定教科書p.60-61 ・パーソナリティを適切に測定できる	10
7	「知能」 知能の定義	講義	指定教科書p.68-71 ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	10
8	「知能」 知能の測定/知的障害	講義 一部演習	指定教科書p.71-79 ・知能をどのように測定するのかを学ぶ ・知能検査開発の歴史的経緯を知る	10

9	「思考」 思考とは？/問題解決	講義	指定教科書p.82-86 ・「考えるとは？」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略（思考）を知る	10
10	「思考」 創造性	講義 一部演習	指定教科書p.86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを学ぶ	10
11	「人間関係」 対人認知/帰属理論	講義	指定教科書p.126-131 ・他者の印象形成につて学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとりえ方について知る	10
12	「人間関係」 対人魅力	講義	指定教科書p.131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	10
13	「集団」 集団の心理/社会的影響	講義	指定教科書p.136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	10
14	「集団」 態度	講義	指定教科書p.143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・社会と個人の相互関係について理解する	10
15	まとめ			

【科目名】	医療行動科学		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0041-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月・水・金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 *1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
テキストとなる資料を配布します(Teams)。 テストなどは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性: A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性: 0-2				
(方法)				
主として配布資料を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。				
【一般教育目標(GIO)】				
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。				
【行動目標(SBO)】				
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
テキストとなる資料を配布する(Teams)。				
【参考書】				
山田富美雄(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2015年、¥1,900(税別) 津田彰(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2002年、¥2,400(税別)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	70				10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	70					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学」まとめ	講義	講義ノートの完成	90

【科目名】	医療行動科学		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0042-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月・水・金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 *1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
テキストとなる資料を配布します(Teams)。 テストなどは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性: A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性: O-2				
(方法)				
主として配布資料(Teams)を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。				
【一般教育目標(GIO)】				
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。				
【行動目標(SBO)】				
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
テキストとなる資料を配布する(Teams)。				
【参考書】				
山田富美雄(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2015年、¥1,900(税別) 津田彰(編)、シリーズ医療の行動科学、北大路書房、2002年、¥2,400(税別)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	70				10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	70					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学」まとめ	講義		45

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康		【担当教員】	木村 和樹
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0056-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日9時30分～15時00分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
医療者として、健康に対する意識を高める科目です。医療及び地域保健機関で、身体機能向上・介護予防およびリハビリテーションに従事してきた経験を基に、社会と健康について講じます。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。 講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2				
【講義概要】				
(目的)				
人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を理解することを目的とする。				
(方法)				
社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。				
【一般教育目標(GI0)】				
社会が健康や病気とどう関係するのかを座学や演習と通じて理解する。				
【行動目標(SB0)】				
健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を必要に応じて配布する。				
【参考書】				
資料を必要に応じて配布する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			20					20
	学修に取り組む姿勢			30					30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション、コミュニケーション練習	講義(対面)	演習時に、しっかり指示・説明ができるように言葉(伝え方)のポイントを復習する。	30
3.4	生活習慣と糖尿病	講義(Web)	生活習慣について理解できるように復習する。	30
5.6	高齢者向けの体力測定	講義講義(Web)	体力測定を行う方法と意義を復習する。	30
7.8	高齢者向けの体力測定	講義講義(Web)	体力測定を行う方法と意義を復習する。	30
9-12	高齢者向けの体力測定(演習)	演習	高齢者向けの運動の導入として、棒を使った体操と運動を指導できるように復習をする。	30
13.14	ロコモティブシンドロームの評価	講義(Web)	ロコモティブシンドロームに対する評価ができるように復習すること。	30
15	まとめ	講義	実際の対象者にも説明ができるように振り返りを行う。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0057-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (藤本)、 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川)
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康 を受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目は、実務経験者対応科目である。 レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。課題の提出期限は守ってください。 *当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 *当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、R-1,2</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。</p>				
(方法)				
<p>社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を必要に応じて配布				
【参考書】				
資料を必要に応じて配布				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う 出席点は評価に含まない</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	オリエンテーション 認知症予防の施策	講義(対面)・藤本	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
3,4	認知症養成サポーター(1) 認知症サポーター養成講座の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
5,6	認知症養成サポーター(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
7	認知症の方への対応方法(1) 「二本の傘」の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
8,9	認知症の方への対応方法(2)	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
10,11	高齢者の社会参加と生き甲斐について	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
12,13	認知症カフェを通しての具体的な方法(1) 本学のカフェの紹介	講義(映像視聴)・長谷川	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
14,15	認知症カフェを通しての具体的な支援方法(3) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分

【科目名】	基礎生命科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0090-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。 高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 講義中に試験問題等を提供する。 試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。 試験後、回答例を示します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>世間一般で話題となっている「生命(いのち) = 生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>「生命(いのち) = 生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に使用せずプリントを提供する。</p>				
【参考書】				
<p>高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。 必要な場合にその都度紹介する。</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物・・・」の高校での学習の有無についてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命(いのち) = 生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ~ 加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の(化学)反応(系) ~ 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂...そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子 情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応...そして、生活空間 = 環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ~ 体液 循環 ~ 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン...そして、生活空間 = 環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0096-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 高校等で「生物基礎」を選択履修したのとして講義を執り行う。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示します。				
【講義概要】				
(目的) リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2				
(方法) 生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。				
【一般教育目標(G10)】 常識程度の医生物科学(生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学)を語れるようになること。				
【行動目標(SB0)】 基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。				
【教科書・リザーブドブック】 平田恒彦著「人間・生き物科学」 考古堂 2012年				
【参考書】 高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	生物(学)の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3-4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5-6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7-8	化石の世界	同上	同上	同上
9-10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11-12	クスターの世界	同上	同上	同上
13-14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのiPS細胞～	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】		医生物科学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0097-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
医生物科学 を履修したものととして講義を執り行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 試験後回答例を提示します。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという現実直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。 生命科学から見た人について特に人の内面の在り方や個としての人の行く末について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1.A-2					
(方法)					
生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
【一般教育目標(GIO)】					
社会一般における医療とのつながる医生物科学的な話題に関心を抱き、その話題を自分のものとして取り扱えるようになること。					
【行動目標(SBO)】					
現代的医生物科学に関する話題について語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に使用せずプリントを提供する					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、必要な場合にはその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	健康なからだづくりの基本・・・胎内期、幼児期	講義	新聞マスメディアに載るについて感心を抱くこと。	10分
3-4	こころの健康、そして休養・・・胎内期、幼児期	同上	同上	同上
5-6	社会生活への道・・・社会生活技術訓練SST、モノづくり	同上	同上	同上
7-8	モバイルヘルス 認知症予防のための脳トレ ・・・認知症へ・・・なる???!!!	同上	同上	同上
9-10	認知症予防のための脳トレ ・・・計算をためしてみよう! 感染症とのたたかいとそれへの予防 ・・・新型コロナウイルス感染症!?!?!?	同上	同上	同上
11-12	食との調和、そして自然	同上	同上	同上
13-14	日常生活におけるヒト ・・・生活の在り方 自己そのもの 他との関係における欲求	同上	同上	同上
15	最後の日々へ・・・	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】	人間支援科学		【担当教員】	長島 裕子
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0106-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日 12:40~13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。医療及び地域でのリハビリテーションに従事してきた経験から、社会人として必要な教養を講じる。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義時に説明する。 ・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2</p>				
(方法)				
<p>対面講義5コマ、オンデマンド10コマの講義構成である。 対面では「書く」、オンデマンドではパソコンを使用し「読む・書く」の演習を実施する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>社会人・職業人として求められる教養を身に付けるために、「読む・書く」ことについて理解し、そのスキルを修得する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>社会人・職業人に必要な「読む・書く」スキルを身に付け、実践、習慣化できるようにする。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価は、小テスト・レポートにより評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			70	30					100
評価指標	取り込む力・知識		30	10					40
	思考・推論・創造の力		20	20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	・オリエンテーション ・字をきれいに書く	対面講義：長島	丁寧に字を書くことができる。	30分
3.4	・高校と大学の違いについて ・メールの書き方について	オンデマンド： 長島	・高校と大学の違いについて理解できる。 ・正しいメールの書き方ができる。	30分
5.6	・基本的な文章の書き方について ・文章を読んで理解する	オンデマンド： 長島	文章を書く上でのルールを理解できる。	30分
7.8	・レポートの書き方について ・書き写し(字をきれいに書く) ・レポート課題について	対面講義：長島	・レポートの書き方を理解し、実際にレポートを作成することができる。 ・正しく字を写すことができる。	60分
9.10	・文章を読んで要約する	オンデマンド： 長島	文章をまとめることができる。	30分
11.12	・社会人に求められる語彙力 基本編	オンデマンド： 長島	ことばを使って正確に物事を伝えることができる。	30分
13.14	・社会人に求められる語彙力 応用編	オンデマンド： 長島	ことばを使って正確に物事を伝えることができる。	30分
15	・まとめ ・レポート返却	対面講義：長島	講義・レポートを振り返り、「読む・書く」について理解できる。	30分

【科目名】		人間支援科学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0107-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nishimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12時～15時(火・水曜日)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>対面とリモートを併用した講義となる。対面授業では、演習を含む。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労り支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。 当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2</p>				
(方法)				
<p>毎回講義後に小テストを、また学期末には課題レポートの提出を求める。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>必要に応じて資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>必要に応じて資料を配布する。</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。授業内また授業後に実施する小テスト、課題レポート、実技により評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	40		20			100
評価指標	取り込む力・知識		20	20		10			50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	コミュニケーションスキルを測る コミュニケーションスキル(1)：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	人間支援科学 を復習しておく	240
3.4	コミュニケーションの構成要素	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
5.6	言語・非言語コミュニケーション	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
7.8	コミュニケーションスキル(2)：相手の考えや気持ちを伝える	講義・演習	配布資料を読む、小テストを提出する	240
9.10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1)：聴く力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
11.12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2)：問う力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
13.14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3)：共感する力	講義(リモート)	配布資料を読む、小テストを提出する	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		物理学		【担当教員】	藤本 聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0111-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。 ・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。 ・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 					
【一般教育目標(GI0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。 ・物理学を学ぶに必要な数学についても学ぶ。 					
【行動目標(SB0)】					
学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学	講義(対面)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学	講義(対面)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学 なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書1-12pを読んでおく	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書13-19pを読んでおく	60
9,10	物理学を学ぶのに必要な数学のまとめ演習 第2のテコ・第3のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書21-p25を読んでおく	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書27-p33を読んでおく	60
13,14	まとめ演習	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	演習	復習: まとめ演習を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】		物理学		【担当教員】	藤本 聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0112-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
物理学 を学んだ人を対象とする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。 ・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。・試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。 ・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・物理学 で学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 					
【行動目標(SBO)】					
学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	物理 期末試験の解説 生体の中のテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書37-40pを読んでおく	60
3,4	生体の中のテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書41-44pを読んでおく	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書47-50pを読んでおく	60
7,8	作用・反作用, 力の分解, 斜面, 振り子, 摩擦力	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書51-58pを読んでおく	60
9,10	物理学 のまとめ演習	講義(映像視聴) ・演習	復習: 演習した内容を復習	60
11,12	物理学 のまとめ演習の解説 物理学 の小テスト	演習	復習: 演習した内容を復習	60
13,14	物理 の小テストの解説 物理 と の総まとめ演習	演習	復習: 演習した内容を復習	60
15	総まとめ演習の解説	演習	復習: 授業の内容を復習	60

【科目名】		コンピューターと人間の接点		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0155-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)メールにて対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間とコンピュータを結ぶインターフェースについて学ぶ。 ・コンピュータによる各種のセンサーよりのデータ収集と機器の制御について学習する。 					
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・コンピュータ(MICRO:BIT)を使用しプログラムの基礎を修得する。 ・各種のセンサーよりのデータの取得方法について実習する。 					
【一般教育目標(GI0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。 ・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。 					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・MICRO:BITの構造について説明できる。 ・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。 ・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込みプログラムを作成できる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
必要に応じ資料を配布する。					
【参考書】					
必要に応じ資料を配布する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	20	50	10	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識		10	20					30
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・コンピュータとセンサーを用いたデータ収集 ・マイクロコンピュータMICRO:BITについて ・プログラミング環境(Microsoft Make Cord)について	講義・演習	・シラバスを読んでおく。 ・MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	LEDを制御する。 ・LEDに文字を表示する。 ・ハートマークを点滅させる。 ・音を発生させる。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題1の作成	10分 15分
3	乱数と条件分岐 ・乱数の使用方法 ・条件分岐の使用方法 ・じゃんけんゲームの作成	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題2の作成	10分 15分
4	スイッチを使用したプログラム ・スイッチでLEDを点灯させる。 ・時間を測定する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題3の作成	10分 15分
5	温度を測定する。 ・温度をグラフ表示する。 光の強さを測定する。 ・人感センサーを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題4の作成	10分 15分
6	揺れを感知する。 ・電子サイコロを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題5の作成	10分 15分
7	傾きを測定する。 ・傾きを数量化する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題6の作成	10分 15分
8	方位を測定する。 ・コンパスを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題7の作成	10分 15分

9	電圧を測定する。 ・人体接触を感知する。 ・簡易電圧計を作る。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題8の作成	10分 15分
10	シリアル通信とコンソールの使用方法 ・マイクロコンピュータとパソコン間のデータ送受信の方法を学ぶ。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題9の作成	10分 15分
11	2つのMICRO:BITを無線接続する ・文字列の送受信 ・数値の送受信	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題10の作成	10分 15分
12	リモート計測 ・室温をリモート計測する。 ・測定データのエキスポート	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題11の作成	10分 15分
13	歩数計の作成(1) ・無線を使用し歩行中の加速度を送受信する。 ・加速度波形を記録する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	歩数計の作成(2) ・加速度波形より歩数を推定する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題13の作成	10分 15分
15	まとめ	講義	・前回までの配布資料を確認しておく。 ・課題14の作成	30分 30分

【科目名】		コンピューターと人間の接点		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0156-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)メールにて対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目ではAIの基礎を学習し、具体的使用例を体験することによりAIの有用性を理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基礎的知識を講義により理解する。 ・画像認識・音声認識・姿勢認識についてデータ作成とプログラムへの応用を理解する。 					
【一般教育目標(GI0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用について説明できる。 					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用とプログラム作成の流れについて説明できる。 ・Scratchを使用しAIを用いた初歩的プログラム開発ができる 					
【教科書・リザーブドブック】					
必要に応じ資料を配布する。					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・阿部和広 監修/横川耕二: おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ¥1650 ・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験 (日本語) 単行本 ¥2090 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まれません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・ AIとは何か ・ AIの利用領域	講義	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題1を行う。	10分 20分
2	強化学習とAIについて Scratchの使用方法(1) ・ エディタの使用方法 ・ プログラムの保存・読み込み方法	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題2を行う。	10分 20分
3	Scratchの使用方法(2) ・ スプライト・背景について ・ イベント・メッセージの活用	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題3を行う。	10分 20分
4	Scratchの使用方法(3) ・ 変数・リストと演算 ・ 条件分岐	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題4を行う。	10分 20分
5	Scratchの使用方法(4) ・ 例題の作成	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題5を行う。	10分 20分
6	L1-Q学習のアルゴリズム ・ 行動と報酬 ・ 期待値 ・ 報酬予測と学習則	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題6を行う。	10分 20分
7	Scratchを使用しL1-Q学習プログラムを作成する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題7を行う。	10分 20分
8	L2-Q学習のアルゴリズム ・ 行動・報酬・状態 ・ 状態の変化に伴うアルゴリズム ・ 2回より多く行動を選ぶ場合	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題8を行う。	10分 20分

9	Scratchを使用しL2-Q学習プログラムを作成する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題9を行う。	10分 20分
10	Teachable machineと機械学習モデルの作成 ・ 画像認識 ・ 音声認識 ・ ポーズ認識	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題10を行う。	10分 20分
11	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(1) ・ 画像認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題11を行う。	10分 20分
12	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(2) ・ 音声認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題12を行う。	10分 20分
13	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(3) ・ ポーズ認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題13を行う。	10分 20分
14	音声合成について ・ 音声合成の原理 ・ Scratchで「音声合成」拡張機能を使用する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題14を行う。	10分 20分
15	まとめ	講義	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題15を行う。	10分 20分

【科目名】 医療英会話ベーシック		【担当教員】 Sam Suleiman	
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0190-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】 2	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2</p> <p>(方法)</p> <p>医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。</p>			
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』</p>			
<p>【参考書】</p> <p>辞書(英和、和英)を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1.5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1.6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン8、第2部2.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： 第1部レッスン12、第2部3.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： 第2部3.3、3.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： 第2部3.3、5.4.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】		医療英会話アドバンス		【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0210-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 授業後、教室にて	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。					
【講義概要】					
(目的)					
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2					
(方法)					
医療福祉英語検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。					
【一般教育目標(GIO)】					
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。					
【行動目標(SBO)】					
医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。					
【教科書・リザーブドブック】					
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』					
【参考書】					
辞書(英和・和英)を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1.5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1.6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン7、第8部2.2 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2.3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2.4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
23-24	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
25-26	教科書： 第1部レッスン12、第2部3.2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
27-28	教科書： 第3部3.3、3.4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
29-30	教科書： 第3部3.5、4.1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

リハビリテーション学科

【科目名】		医療英文抄読法		【担当教員】		原 亜由美	
【授業区分】		教養分野(外国語)		【授業コード】		1-06-0221-0-1	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		15 コマ	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。							
【講義概要】							
(目的)							
将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2							
(方法)							
オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。							
【一般教育目標(GIO)】							
英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。							
【行動目標(SBO)】							
リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。							
【教科書・リザーブドブック】							
指定教科書：指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）							
【参考書】							
様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

【科目名】	医療英文抄読法		【担当教員】	原 亜由美
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0222-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ayumi.hara38@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業終了後、教室にて
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。				
【講義概要】				
(目的)				
将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2				
(方法)				
オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。				
【行動目標(SBO)】				
リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。				
【教科書・リザーブドブック】				
指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400(税別)				
【参考書】				
様式は問わないが辞書(英和、和英)を用意、使用のこと。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題 提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題 提出	90分

リハビリテーション学科

【科目名】		解剖学・各論	【担当教員】	西野 幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻1年次に在学している学生が対象。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。				
【講義概要】				
(目的)				
人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢)・(頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2,3				
(方法)				
教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】				
医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。				
【教科書・リザーブブック】				
東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税				
【参考書】				
藤田恒夫、入門人体解剖学改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習	40分
9・10	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
11・12	生殖器系： 女性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習	40分

リハビリテーション学科

【科目名】 解剖学実習		【担当教員】 松村 博雄
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 選択	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 45コマ	(オフィスアワー) 火曜日12:50~13:20
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
解剖学総論 ・ ・ を復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。		
【講義概要】		
(目的)		
解剖学実習は、脳科学なканずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論 ・ ・ で学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。		
(方法)		
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。		
【一般教育目標(G10)】		
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として、その構造や働きを理解する。		
【行動目標(SB0)】		
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】		
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年		
【参考書】		
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765		
平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130		
小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、解剖学実習・見学でのレポート、及び全講義終了後レポートを出題する。成績評価は、小テストとレポートにより総合的に行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		60	40					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	中枢神経系の概観――ニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論 . . . の復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義		
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)――視神経，嗅神経，動眼神経，滑車神経，外転神経，三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)――顔面神経，内耳神経，舌咽神経，迷走神経，副神経，舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)――視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義		
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 解剖学実習		【担当教員】 松村 博雄
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 選択	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 45コマ	(オフィスアワー) 火曜日12:50~13:20
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
解剖学総論 ・ ・ を復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。		
【講義概要】		
(目的)		
解剖学実習は、脳科学なканずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論 ・ ・ で学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。		
(方法)		
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。		
【一般教育目標(G10)】		
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として、その構造や働きを理解する。		
【行動目標(SB0)】		
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】		
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年		
【参考書】		
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、解剖学実習・見学でのレポート、及び全講義終了後レポートを出題する。成績評価は、小テストとレポートにより総合的に行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		60	40					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	中枢神経系の概観――ニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論 . . . の復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義		
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)――視神経，嗅神経，動眼神経，滑車神経，外転神経，三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)――顔面神経，内耳神経，舌咽神経，迷走神経，副神経，舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)――視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義		
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 生理学実習		【担当教員】 木村 和樹、高橋 圭三、星野 浩通、長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 45コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日 9:00-17:00
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
1年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。各実習は専門領域の教員が、機器の使用方法や目的を説明して実習を行う。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
実習時には白衣・KCを着用すること。実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。 各班ごとに、日時と開講場所が異なるので注意すること。グループ内(2人～)で協力して行う実習もあるので、欠席や遅刻のないよう、体調管理等に気を付けること。事故のないよう細心の注意を払いつつ、限られた時間内に実習が完結できるよう、きびきびと行動すること。		
【講義概要】		
(目的)		
生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性:A-2		
(方法)		
前半では動画学習を行い、実習の内容を理解する。 後半では実習を行い、結果をまとめ、自身の考察を記載する。		
【一般教育目標(GI0)】		
生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を習得する。		
【行動目標(SB0)】		
生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
生理学実習プリント(オリエンテーション時もしくは各実習で配布)		
【参考書】		
貴邑 富久子, 根来 英雄・「シンプル生理学(改訂第6版)」南江堂, 2008年. ¥3,132(税込) 大地陸男著・『生理学テキスト(第7版)』文光堂, 2013年. ¥5,184(税込)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 科目を修得するためには2/3以上の出席およびレポートの提出が条件である。 実習前動画レポートを50点分、実習レポートを50点分とした計100点のうち60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1コマ分	オリエンテーション、動画学習・実習の説明	座学	各講義で準備することを確認する。 レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
3コマ分	心電図について	動画配信 長谷川	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
3コマ分	皮膚感覚について	動画配信 星野	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
3コマ分	表面筋電図について	動画配信 高橋(圭)	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
3コマ分	スパイロメータについて	動画配信 木村	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
3コマ分	バイタルについて	動画配信 藤本	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
3コマ分	平衡機能について	動画配信 木村	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
5コマ分	心電図の記録と解析	実習 長谷川	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	病理学概論		【担当教員】	平田 誠市
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-12-0290-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	seiichi-hirata@nuhw.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールで応じます。
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。30年以上、病院病理部で病理解剖、病理診断に必要な標本作製、細胞診検査を行ってきた経験を基に、講義は病理学総論を中心に、各論はリハビリテーションに関係が深い、脳・神経系、運動器、循環器の疾患を中心に学びます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・病理学は解剖学・生理学など基礎医学の知識が必須ですので、復習しておいてください。 ・試験結果については必要に応じて解説を行います。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>疾病の原因と、その成り立ちについて学び、リハビリテーションにおける病態理解のために必要な病理学の知識を身につけることを目的とします。</p>				
(方法)				
<p>講義は重要ポイントを中心に前半は、オンデマンド型の講義を行い、後半は確認問題を出題しますので各自で問題を解き、知識の確認を行って下さい。確認問題の回答は講義の最後に動画で行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法・作業療法を実践するために、病気がどのような原因で起こり、その結果、身体にどのような異常が起きるか、病理学の基礎的知識を理解することを目標とする。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・病因論、退行性・進行性病変、代謝障害、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、老化、先天異常、奇形について説明できる。 ・脳・神経、運動器、循環器について説明できる。 				
【教科書・リザーブブック】				
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院 5,060円(税込み)				
【参考書】				
シンプル病理学 改訂第8版 笹野公伸/岡田保典/安井弥 改定第8版 南江堂 定価3,300円(税込み)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
マークシート方式の筆記試験(50%)、レポート(50%)にて行います。(成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。)				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50		50					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	シラバスと講義ノートの書き方の説明 ・病因論 ・退行性病変 ・進行性病変について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書5-25pを読んでおく。 復習;スライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	15分 30分
3・4	・代謝障害 ・循環障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書27-48pを読んでおく。 復習;前回までのスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	15分 30分
5・6	・免疫 ・炎症 ・感染症について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書50-72pを読んでおく。 復習;前回までのスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	15分 30分
7・8	・腫瘍について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書73-92pを読んでおく。 復習;前回までのスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	15分 30分
9・10	・老化 ・先天異常 ・奇形について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書93-112pを読んでおく。 復習;前回までのスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	15分 30分
11・12	【各論】 ・脳・神経 ・循環器について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書174-200, 202-219pを読んでおく。 復習;前回までスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	30分 30分
13・14	・運動器について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書115-132pを読んでおく。 復習;前回までのスライドでオレンジ色で示した箇所と確認問題を復習し覚える。	30分 30分
15	まとめ 問題演習	オンデマンド型講義	予習;演習問題の誤った部分を教科書やノートを参考に訂正しておく。 復習;正解できるまで繰り返し問題を解く。	60分 30分

【科目名】	発達心理学		【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。				
【講義概要】				
(目的)				
近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、認知機能の発達及び社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。				
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2				
(方法)				
講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)について考察し、適切な対処法を習得する。本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。				
【一般教育目標(GIO)】				
「生涯発達」という考え方を理解する。				
胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの				
1. 身体的発達の特徴を知る。				
2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。				
3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。				
【行動目標(SBO)】				
胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。				
そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。				
各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書等は特になし。				
配布資料あり。				
【参考書】				
本郷一夫編(2018)発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房.				
向田久美子(2017)発達心理学概論. NHK出版.				
秦野悦子・近藤清美編(2020)公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
定期試験60%(配布資料持ち込み可)・小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	発達心理学の基礎 ・生涯発達心理学とは？ ・発達の規定要因	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	胎児期・乳児期の発達とその支援：言語獲得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	胎児期・乳児期の発達とその支援：愛着形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	幼児期の発達とその支援：保存の概念・社会性・	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	幼児期の発達とその支援：親子関係・虐待	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	生涯発達にかかわる臨床：発達障害	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	児童期の発達とその支援：道徳性・いじめ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく。	240

【科目名】		発達心理学	【担当教員】		西村 信子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
特になし。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、認知機能の発達及び社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。					
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
講義は、PowerPointを使用する。					
講義資料は、事前に配布する。					
【一般教育目標(GI0)】					
「生涯発達」という考え方を理解する。					
青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。					
1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。					
2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。					
3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。					
【行動目標(SB0)】					
一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。					
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。					
心理的危機に対して、適切な支援ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書等は特になし。					
毎回資料を用い講義する。					
【参考書】					
本郷一夫編(2018)発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房.					
向田久美子(2017)発達心理学概論. NHK出版.					
秦野悦子・近藤清美編(2020)公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
定期試験60%、小テスト40%で評価する。オンディマンド授業が中心となるため、毎回小テストを用意しており、その回答をもって出席とみなす。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	青年期の発達とその支援：自己同一性・不登校・自傷行為	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	生涯発達にかかわる臨床：不安障害・摂食障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	心理臨床的支援：芸術療法・家族療法	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	成人前期の発達とその支援：自立・ひきこもり	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	生涯発達にかかわる臨床：統合失調症	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	成人中期・成人後期の発達とその支援：中年期危機・対象喪失	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	生涯発達にかかわる臨床：気分障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】		内科学	【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし深く理解できるように留意する。試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。さらに、感染症や炎症、アレルギーなど病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の役割を理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院				
【参考書】				
A.シェフラー, S.シュミット著 (三木・井上訳)「からだの構造と機能」 西村書店				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症（診断と治療）	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症	講義	予習・復習	30
5	腫瘍の診断と治療	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝	講義	予習・復習	30
7	知っておきたい薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・肝不全	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	内科学		【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。 試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学 での総論的な理解習得に引き続き、内科学 では「循環器」「呼吸器」「血液」「腎」「膠原病」などの疾患について各論的に学修する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する 경우가多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院				
【参考書】				
A.シェフラー, S.シュミット著 (三木・井上訳)「からだの構造と機能」 西村書店				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	血液概論、造血と貧血	講義	予習・復習	30
2	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	予習・復習	30
3	出血と止血、出血性要因と疾患	講義	予習・復習	30
4	糖尿病	講義	予習・復習	30
5	高脂血症、高尿酸血症	講義	予習・復習	30
6	視床下部、下垂体、尿崩症	講義	予習・復習	30
7	甲状腺疾患、カルシウム代謝、骨粗鬆症	講義	予習・復習	30
8	副腎疾患、カリウム代謝	講義	予習・復習	30

9	尿生成、急性腎不全	講義	予習・復習	30
10	腎炎、ネフローゼ、酸・塩基平衡	講義	予習・復習	30
11	慢性腎疾患、慢性腎不全、透析療法	講義	予習・復習	30
12	腎盂腎炎、尿路疾患	講義	予習・復習	30
13	免疫とアレルギー反応、自己免疫	講義	予習・復習	30
14	膠原病・類縁疾患	講義	予習・復習	30
15	感染症と免疫不全	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学		【担当教員】	粟生田 博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します。医学専門用語が多いため、指定教科書だけでなく医学大事典(電子辞書含む)や解剖学、生理学などの分野に関する教科書も参考に、学習準備をすると良いでしょう。</p> <p>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器リハビリテーションに従事してきた経験から、運動器疾患に関して講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>・解剖学、生理学、運動学、組織学、病理学等の学習(復習)を行きましょう。</p> <p>・小テストは随時返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>・整形外科領域における疾患の病態、臨床症状、診断、治療などについて学習し、リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします。</p> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3</p>				
(方法)				
<p>・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について教科書を用いて講義を行います。また、小テストを行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>・基本的な整形外科領域の疾患の説明ができる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷、各種領域の病態や治療が説明できる。</p> <p>・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>・立野勝彦, 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版, 医学書院, 2017年, ¥3,600(税別)</p>				
【参考書】				
<p>・解剖学, 生理学, 基礎運動学で使用した教科書</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。</p> <p>・小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	第1章 整形外科基礎知識	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
3, 4	第2章 運動器の評価および検査法 第3章 整形外科的治療法	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
5, 6	第4章 炎症性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
7, 8	第5章 代謝・内分泌性疾患, 退行性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
9, 10	第6章 先天性骨疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
11, 12	第7章 循環障害と壊死性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
13, 14	第8章 骨・軟部腫瘍	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学		【担当教員】	粟生田 博子、貝淵 正人、真柄 彰	
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します。医学専門用語が多いため、指定教科書だけでなく医学大事典(電子辞書含む)や解剖学、生理学などの分野に関する教科書も参考に、学習準備をすると良いでしょう。</p> <p>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器疾患の診療や運動器リハビリテーションに従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>・複数の教員が担当します。講義内容が入れ替わることがあります。</p> <p>・解剖学、生理学、運動学、組織学、病理学等の学習(復習)を行きましょう。</p> <p>・小テストは随時返却します。</p> <p>・対面講義、ビデオ講義、オンデマンド講義を組み合わせ実施します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>・整形外科領域における疾患の病態、臨床症状、診断、治療などについて学習し、リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします。</p> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3</p>					
(方法)					
<p>・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について教科書を用いて講義を行います。また、小テストを行います。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>・基本的な整形外科領域の疾患の説明ができる。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷、各種領域の病態や治療が説明できる。</p> <p>・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>・立野勝彦, 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野, 整形外科学(第4版), 医学書院, 2017年, ¥3,600(税別)</p>					
【参考書】					
<p>・解剖学, 生理学, 基礎運動学で使用した教科書</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。</p> <p>・小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	外傷性疾患 第11章 骨折	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
3, 4	第13章 関節における外傷性疾患 第15章 腱・靭帯における外傷性疾患 第16章 スポーツ傷害	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
5, 6	第17章 熱傷 第18章 切断	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
7, 8	第12章 脊髄損傷	小テスト, 講義 (真柄先生)	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
9, 10	第10章 脊椎の疾患	小テスト, 講義 (真柄先生)	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
11, 12	第4章 炎症性疾患(関節リウマチ)	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
13, 14	第14章 末梢神経損傷	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学		【担当教員】	高橋 英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahasi@niigata-cc.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味ができたら参考書で知識を増やして行くといいでしょう。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。				
(方法)				
神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、認知症といった疾患を中心に講義を構成しています。 Power pointのスライドで解説します。				
【一般教育目標(GIO)】				
神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。				
【行動目標(SBO)】				
神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。				
【参考書】				
医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経系の構造	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	神経系の機能	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	神経症候	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	神経系の検査	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	脳の血管系	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	脳出血について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	脳卒中について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	脳梗塞について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	くも膜下出血について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	頭蓋内圧亢進と脳ヘルニアについて	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	脳腫瘍の基本	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	良性脳腫瘍の病態と治療	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	悪性脳腫瘍の病態と治療	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	転移性脳腫瘍について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	がん患者の脳梗塞について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学		【担当教員】	高橋 英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahasi@niigata-cc.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味ができたら参考書で知識を増やして行くといいでしょう。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。				
(方法)				
神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、認知症といった疾患を中心に講義を構成しています。 Power pointのスライドで解説します。				
【一般教育目標(GIO)】				
神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。				
【行動目標(SBO)】				
神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。				
【参考書】				
医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	頭部外傷について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	てんかんについて	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	認知症について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	神経系の感染症について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	脱髄性疾患について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	変性疾患、筋疾患について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	神経系奇形について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	頭痛の臨床	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	脊髄疾患について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	末梢神経障害について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	高次脳機能障害	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	運動障害と感覚障害	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	脳神経障害について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	自律神経障害について	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	がんと神経障害のリハビリテーション	講義	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

リハビリテーション学科

【科目名】		精神疾患とその治療	【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ (オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
特になし				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、リゾン等を含み広くリハビリテーション分野および心理臨床分野での精神医学的アプローチを下記を中心に実践的に学ぶ。 精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。) 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 医療機関との連携 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3,P-1,O-1,R-1				
(方法)				
疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICD に準じた基本的な精神疾患について理解する。 ・ 精神医学独特の専門用語について理解し、使いこなすことができる。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己を知り、他者との客観的対応について理解した上で、様々な治療技法について臨床現場で応用出来る 				
【教科書・リザーブドブック】				
標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野(精神医学)第4版 2015年. 医学書院				
【参考書】				
奈良勲 鎌倉矩子 上野武治 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 (精神医学) 第4版 2015年. 医学書院				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	発達障害（神経発達症候群/神経発達障害群）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
3.4	精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族の支援、不安に関する障害、摂食障害、排泄障害、睡眠覚醒障害、秩序破壊的衝動制御、素行症、パーソナリティ障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
5.6	物質関連障害および嗜好性癖障害 認知症（神経認知障害）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
7.8	統合失調症（統合失調症スペクトラム障害） 双極性障害、抑うつ障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
9.10	向精神薬を始めてとする薬剤による心身の変化	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
11.12	法的変遷と実際	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
13.14	精神科治療における心理的アプローチについて 医学的治療と心理学的ケア 精神科医療における公認心理師の役割	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
15	チーム医療（医療機関への紹介）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション工学		【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0345-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜～金曜 5時限	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
生活支援機器(車いす、杖、自助具、生活環境装置)についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。 この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。 講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。 自学としてFUI0SN360を利用した自助具の作成などを行う予定です。 車椅子など重いものを運ぶ場合があるので、授業準備は複数名(3名)くらいで来てください。 課題についてはteamsから提出をお願いします。科目試験は希望者には返却します。再試験は返却しません。					
【講義概要】					
(目的)					
理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,0-3,R-1					
(方法)					
電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。 グループ学習とグループ発表を行います。 授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。					
【一般教育目標(GI0)】					
人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。					
【行動目標(SB0)】					
生態におけるバイオメカニクスを説明する。 生活支援機器の種類や使用法を説明する。 生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
Teamsでの資料提示					
【参考書】					
なし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 出席点は評価に含まない。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	15	15	20				100
評価指標	取り込む力・知識	10	15						25
	思考・推論・創造の力	10		15					25
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	10			20				30
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーション工学について	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	3 DCDのモデリング FOSION360 3Dプリンターについて	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
3	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
4	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
5	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
6	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
7	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子シーティング)	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
8	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子シーティング)	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20

9	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(人の心の杖となれ)	講義・演習 実習室	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
10	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(人の心の杖となれ)	講義・演習 実習室	発表 ICTによる評価	20
11	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(環境制御装置)	講義	発表 ICTによる評価	20
12	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 演習(福祉機器の考察)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
13	支援機器の作成作成案	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
14	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
15	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20

リハビリテーション学科

【科目名】		感染症学	【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0360-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。試験後回答例を提示する。				
【講義概要】				
(目的)				
数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌O-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの中で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。新型コロナウイルス感染症についても話題を提供する。				
(方法)				
本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。				
【一般教育目標(GIO)】				
・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。				
【行動目標(SBO)】				
・感染症に関する話題を語れるようになること。				
【教科書・リザーブドブック】				
増沢俊幸著「感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学」羊土社				
【参考書】				
講義内で必要であれば紹介する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85		10				5	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50						5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15							15
	発表力	10		5					15
	学修に取り組む姿勢	10		5					15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	微生物学・免疫学の発展の歴史、微生物学の基礎 (生物学的特徴)	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3-4	免疫と生体防御機構 1	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5-6	免疫と生体防御機構 2	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7-8	感染症の制御	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9-10	化学療法と耐性菌	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11-12	細菌学各論、ウイルス学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13-14	真菌学各論、蠕虫学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15 16	臓器・組織別感染症 試験	講義 講義(補講)16 コマ目	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分

【科目名】		高次脳機能障害学概論		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0400-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
高次脳機能障害とはいかなる疾患か、あるいは当該患者が社会生活を送る上でどのような支障を生じるかなどについて学ぶ科目です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では、神経解剖学的な基礎学力を必要とします。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。					
【講義概要】					
(目的)					
我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
上記の高次脳機能およびその障害像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能の抽出に使用する各種の検査等についても紹介する。					
【一般教育目標(GI0)】					
高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。					
【行動目標(SB0)】					
高次脳機能とは、どのようなものか言える。 高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。 それぞれの高次脳機能障害について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料配布					
【参考書】					
武田克彦 波多野和夫 著 「高次脳機能障害その概念と画像診断」中外医学社 2007年 ¥7,800 森惟明 鶴見隆正 著 「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見 第2版」医学書院 2010年 ¥5,250					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力			80					80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	高次脳機能障害とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	映像による理解	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	視覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	聴覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	触覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	病態認知の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	行為と記憶の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	前頭葉の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 摂食・嚥下障害学概論		【担当教員】 山村 千絵	
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0405-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練・嚥下食等に興味を持ち、将来、臨床現場において、あるいは、食支援を必要とする家族等の介護場面において、本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。</p> <p>この科目は実務経験者(歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師)が担当する科目である。受講生が所属する専攻分野に合わせて、歯科領域の専門的な内容についても、わかりやすく講じていく。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>必要に応じて視聴覚教材や模型、臨床現場で実際に使用されている器具類を示しながら、講義を進めていく。効率的な学習が行えるよう、講義室の座席は前の方から詰めて着席すること。</p> <p>1年次に「解剖学」・「生理学」・「人体の構造と機能及び疾病」等の科目で学んだ内容のうち、特に顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておくこと、本講義が理解しやすくなる。</p> <p>定期試験については、答案の返却もしくは模範解答の配付を行う。レポートは添削後に返却する。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場、その他の食支援の場面等において、摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3 P-2 O-2 R-1</p> <p>(方法)</p> <p>主として、毎回配付するプリントを使用して講義を行う。資料の提示には、パワーポイントスライド及び黒板を使用する。また、必要に応じて視聴覚教材や模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。これらの体験を実施する際は、十分な感染防止対策を実施したうえで行うが、コロナ禍にあっては体験の一部が制限される場合もある。</p>			
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場やその他の食支援の場面等において役に立つ知識や技術を身につける。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。 ・ 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。 ・ 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。 ・ 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。 ・ 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。 			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>プリントを配付する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>向井美恵(他著)『摂食・嚥下障害ベストナーシング』学研メディカル秀潤社, 2010年. ¥2,640(税込)</p> <p>倉智雅子(編著)『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』医歯薬出版, 2013年. ¥4,840(税込)</p> <p>山田好秋(著)『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版』医歯薬出版, 2013年. ¥4,620(税込)</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価の基準については、本学学則に規定されているGPA制度に従う。</p> <p>すべての講義終了後に、記述式試験を実施する。</p> <p>試験80%、レポート等課題の達成度10%、学修に取り組む姿勢や態度(出席状況を除く)10%の割合で総合的に評価を行う。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 (それぞれの定義を理解する。)	講義	(復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	90分
3,4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 (口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習)これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	90分
5,6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	90分
7,8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	90分
9,10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 (臨床につなげる。)	講義	(予習)プリントp14~p17を 読んでおく。 次回の講義に関連する レポート課題を行う。	20分 70分
11,12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 (臨床につなげる。)	講義	(予習)プリントp17~p25を 読んでおく。 (復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	30分 60分
13,14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 (臨床につなげる。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習)プリントp28~p47を 読んでおく。 (復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	30分 60分
15	摂食・嚥下リハビリテーション(訓練・治療) 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て、間接訓練、直接訓練 ケアを必要とする人への接し方 (臨床につなげる。)	講義	(予習)プリントp62~p72を 読んでおく。 (復習)学修した内容を整理し ノートにまとめる。	30分 60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学		【担当教員】	粟生田 博子、藤本 聡
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0515-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学, 生理学と関係の深い分野です。1年次に学習した解剖学, 生理学の内容を復習してください。 ・この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で心身機能の維持回復に関わるリハビリテーションに従事してきた経験から, 身体運動に関する基本的事項について講じます。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・複数教員で担当するため, 講義内容が入れ替わることがあります。 ・小テストは随時返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では, 運動に関する用語や, 身体運動に関する基本的概念を学びます。また, 身体の構造や機能に関し, 解剖学や生理学, 物理学の知識を統合し, 運動の捉え方を学習します。 * 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心に, 身体運動に関する知識を深めます。また小テストを行い, 学習を深めます。 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し, 記述・説明することができる 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し, 記述・説明することができる ・姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・Donald A. Neumann 原著, カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, 医歯薬出版(株), 2018年, ¥12,500(税別) 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・中村隆一, 他, 基礎運動学 第6版, 医歯薬出版, 2003年, ¥6,800(税別) ・中島雅美, 他編著, PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版, 医歯薬出版(株), 2016年, ¥4,000(税別) ・解剖学, 生理学の講義・実習で使用している教科書 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。 ・小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	・講義ガイダンス ・解剖学，生理学の確認	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習	60
3,4	・運動学の基礎	講義，小テスト 担当教員：藤本	解剖学，生理学，物理学の復習	60
5-8	・上肢について	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習 講義内容の復習	60
9-12	・下肢について	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習 講義内容の復習	60
13-15	・体幹，姿勢，歩行について ・まとめ	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習 講義内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】		基礎運動学	【担当教員】	若菜 翔哉
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 ・ と関連付けて学修するようにしてください。 ・解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります。1年次に履修修得した知識を定着させておいてください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、運動学の基礎知識について講義を行います。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、希望がある場合には試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では、運動学の基礎知識を学びます。また、運動学だけではなく解剖学や生理学の知識と統合し、姿勢や歩行分析など身体運動の分析に応用できるようになることを目的とする。 *当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2 *当該科目と学位授与方針との関連性：P-1,2 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、スライドを使用して、講義を中心に行います。 ・毎講義ごとに講義内容に関する小テストを行い、講義内容の理解度を確認します。 				
【一般教育目標(G10)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床に必要な運動学の基礎知識を理解できる。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・運動学の基礎知識を説明し記述することができる。 ・運動学、解剖学、生理学の内容を統合し、それぞれを関連付けて説明し記述することができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・Donald A.Neumann 原著、カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版、医歯薬出版（株）、2018年、¥12,500（税別） 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・中村隆一、他、基礎運動学 第6版、医歯薬出版、2003年、¥6,800（税別） ・中島雅美、他編著、PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版、医歯薬出版（株）、2016年、¥4,000（税別） ・解剖学、生理学の講義・実習で使用している教科書 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験と小テストにより総合的に評価する。 ・小テスト：毎講義ごとの内容に関する確認テスト（全8回） ・出席点は評価に含まない。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	オリエンテーション 関節の基本的構造と機能	・講義 ・小テスト	関節の構造と機能について, 学習しておくこと	60
3, 4	筋・骨格系の安定器と運動器	・講義 ・小テスト	筋の構造や収縮, 筋活動について学習しておくこと	60
5, 6	生体力学の原則	・講義 ・小テスト	生体力学に関する用語の意味を理解しておくこと. 例: トルク, モーメント等 その他教科書を参照	60
7, 8	上肢 ・ 肩複合体, 肘と前腕・	・講義 ・小テスト	上肢の機能と構造を学習しておくこと	60
9, 10	体幹 ・ 骨と関節構造, 筋と関節の相互作用・	・講義 ・小テスト	体幹の機能と構造を学習しておくこと	60
11, 12	下肢 ・ 股関節, 膝関節・	・講義 ・小テスト	股関節と膝関節の機能と構造を学習しておくこと	60
13, 14	下肢 ・ 足関節と足部・	・講義 ・小テスト	足関節と足部の機能と構造を学習しておくこと	60
15	まとめ	・講義 ・小テスト	これまでの講義(1~14コマ)内容を再度学習しておくこと	60

リハビリテーション学科

【科目名】		基礎運動学	【担当教員】	若菜 翔哉、押木 利英子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 と関連付けて学修するようにしてください。 ・解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります。基礎運動学 と で学んだ内容を定着させておいてください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、姿勢や歩行、運動発達について講義を行います。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、希望がある場合には試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行分析および観察を実施する際に必要とされる基礎知識を学習する。 ・運動発達や運動学習についての基礎知識を学習する。 <p>当該科目と学位授与方針との関連性：A-1, 2 P-1, 2</p>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、スライドを使用して、講義を中心に行います。 ・講義内容に関するレポート課題を提示します。 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行分析および観察の基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行分析および観察に関する基礎知識を記述し説明することができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を記述し説明することができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・Donald A. Neumann 原著：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版。医歯薬出版（株）。2018年。¥12,500（税別） 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・中村隆一，他：基礎運動学 第6版。医歯薬出版。2003年。¥6,800（税別） ・中島雅美，他編著：PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版。医歯薬出版（株）。2016年。¥4,000（税別） ・Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析，医学書院。2014。¥5,000（税別） 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験とレポートにより総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	70		20					90
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	歩行の運動学 歩行周期と重心移動	・講義(若菜)	歩行周期, 歩行の関連用語(ケイデンスやストライド等)の意味を理解しておくこと.	60
3, 4	歩行の運動学 関節運動学	・講義(若菜)	歩行中の矢状面, 前額面, 水辺面における各関節の運動について学習しておくこと.	60
5, 6	歩行の運動学 筋活動	・講義(若菜)	歩行中の各筋の筋活動について学習しておいてください.	60
7, 8	歩行の運動学 運動力学	・講義(若菜)	床反力, 関節トルク・パワーの意味を理解しておいてください. レポート課題: 「歩行周期について」を提出	60
9, 10	運動発達	・講義(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について, 復習しておいてください.	60
11, 12	運動発達	・講義(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について, 復習しておいてください.	60
13, 14	運動学習	・講義(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について, 復習しておいてください.	60
15	まとめ	・講義(若菜)	これまでの講義(1~14コマ)内容を再度学習しておくこと	60

リハビリテーション学科

【科目名】 予防リハビリテーション学		【担当教員】 松林 義人
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 毎週火曜日 12:50～13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション専門職ならびにリハビリテーションを学ぶ立場であることを認識し、本邦に生じている少子高齢化による社会的影響を予習しておくことを勧めます。 この科目は実務経験者（予防に精通した理学療法士）が担当する科目です。受講生にとって、予防の概念や実践方法についてわかりやすく講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で小テストを実施し、採点后返却します。 2. 試験結果について、解答を返却し必要に応じてフィードバックを実施します。 3. 再試験該当となった場合、希望がある場合に限り補講を実施します。 4. 介護予防の実践（体操等）を行う際は、動きやすい服装としてください。 		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>健康で生き生きとした生活を支援することを目標に、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。 日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。 要介護状態にある方の場合には介護状態が重度化していくことを予防すること。 再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。</p> <p>(方法)</p> <p>予防リハビリテーションの基礎知識と具体的対処方法を講義を通して学ぶ。</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予防の概念を理解する。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解する。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予防の概念を理解し、説明できる。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解し、その実践方法等について説明できる。 		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>講義内で資料を配付する</p>		
<p>【参考書】</p> <p>特になし</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価の基準については、本学学則規程のGPA制度に従う。 期末試験（80％）・講義内の小テスト（20％）により総合的に評価する。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	介護予防の必要性	講義	介護予防とは何かをインターネット等で調べておくこと。	30
3・4	高齢者の身体的変化と特性	講義	骨・筋に対する生理学的知識を復習しておくこと。	60
5・6	高齢者の精神的変化と特性	講義	「うつ」についてインターネット等で調べておくこと。	60
7・8	ロコモティブシンドローム・フレイルの概念と予防	講義	日本整形外科学会公式ロコモティブシンドローム予防啓発サイトをみておくこと。	60
9・10	転倒予防のメカニズムと予防	講義・実技	骨(特に大腿骨・脊椎)の生理学的知識を復習しておくこと。	60
11・12	認知症に対する予防	講義・実技	脳の生理学的知識を復習しておくこと。	60
13・14	メタボリックシンドロームの概念と予防	講義	厚生労働省「e-ヘルスネット」をみておくこと。	60
15	まとめ	講義		30

【科目名】	老年心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0435-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。高齢期に関心を抱く学生さんはどなたでも受講できます。幸福な一生を送るために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。加齢に伴う、認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。 				
【行動目標(SB0)】				
<p>「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に指定せず。 毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>下中 順子 (編著)「老年心理学 (現代心理学シリーズ)」/ 培風館 / 2012年 / 佐藤真一 (編著)「よくわかる高齢者心理学 (わかる シリーズ)」 / ミネルヴァ書房 / 2016年 / 2,700円 権藤 恭之 (編集)「高齢者心理学 (朝倉心理学講座)」 / 朝倉書店 / 2008年 / 3,888円</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含まれない。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー (図表の見方) を含む	復習(要点の整理) 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	15
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	復習(要点の整理) 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	15
3	高齢期の身体機能 ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	復習(要点の整理) 感覚機能(視聴覚等)低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	15
4	高齢期の身体機能 ・運動機能の変化 ・フレイルとサルコペニア ・機能低下の予防	講義 演習:PBL(課題解決)を含む	復習(要点の整理) 「フレイル・サルコペニア」が日常生活へ、そして認知機能へ及ぼす影響を理解し、その予防法を考案する。	15
5	高齢期の認知機能 ・知的機能の変化 結晶性知能と流動性知能 ・記憶機能の低下	講義	復習(要点の整理) 知能には、記憶や数計算等の加齢に伴い低下していく機能と、経験の集積により「熟達化」していく機能があることを理解する。	15
6	高齢期のパーソナリティ ・高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・加齢とパーソナリティの変化	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	復習(要点の整理) 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程での再適応力を理解する。	15
7	高齢期の精神疾患 ・うつ ・喪失体験と孤独	講義	復習(要点の整理) 重篤な「喪失の体験」を理解し、その対象者に対する精神的健康の支援法を知る。	15
8	高齢期の精神疾患 ・認知症 ・認知機能検査	講義 演習:必要な情報収集と分析の学習を含む	復習(要点の整理) 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	15

9	高齢期の精神療法 ・回想法	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	復習（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	15
10	高齢期の精神療法 ・生きがい・心と体の健康づくり 「きょういく」と「きょうよう」 ・学習療法	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 認知機能の低下予防（維持）の考え方、その具体的支援法を理解する。	15
11	高齢者の介護について ・介護者の心理	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 介護ストレスとその中での介護者の人間的成長の過程を知る。	15
12	喪失体験と心のケア ・「二人称の死」 ・モーニングワーク	講義	復習（要点の整理） ‘大切な人’の死を受け容れ、自身の生活へ再適応させていく心の過程を理解し、適切な支援を考察する。	15
13	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル	講義	復習（要点の整理） 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。	15
14	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデルの臨床応用	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	復習（要点の整理） キューブラ・ロス モデルと介護者側の心の変化の類似点を知る。	15
15	まとめ ・超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	15

リハビリテーション学科

【科目名】		認知症	【担当教員】		伊林 克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。					
【講義概要】					
(目的)					
認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。					
【一般教育目標(GIO)】					
高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。					
【行動目標(SBO)】					
認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料配布					
【参考書】					
田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ¥4,725					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			80					20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力		80						80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	認知症とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 知覚・認知心理学		【担当教員】 宮岡 里美	
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0490-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。 本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。 「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々に対する支援するための基礎知識となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。 人間の認知情報処理過程(感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など)について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて事例から学び、その支援法を考えていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-1, R-1</p> <p>(方法)</p> <p>講義と演習ですすめていく。 障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。 可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。 毎回、資料としてプリントを配布する。</p>			
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。 ・認知の障害について理解する。 			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。 ・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。 ・ST国家試験過去問に対応できるだけの知識を身につける。 ・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。 			
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>大山正編著 『実験心理学』(コンパクト新心理学ライブラリー16) サイエンス社 1,850円+税</p>			
<p>【参考書】</p> <p>野島一彦・繁樹算男監修「公認心理師の基礎と実践 知覚・認知心理学」 遠見書房 2,600円(+税) 森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 2400円+税 行場次朗・箱田裕司編 『知性と感性の心理学：認知心理学入門』 福村出版 2700円+税</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	感覚 感覚の種類、感覚の範囲と感度 視覚・聴覚・体性感覚・嗅覚・味覚	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
3.4	感覚 感覚の物理量と心理量(心理物理学) 感覚の順応・対比・加重 多感覚の統合	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
5.6	知覚・認知 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
7.8	知覚・認知 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
9.10	知覚・認知 認知地図、対人認知、感覚遮断	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
11.12	感覚・知覚・認知の障害とその支援 失認 知覚の可塑性	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
13.14	知覚・認知 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	30
15	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義	第1～14回目までの知識の整理	15

リハビリテーション学科

【科目名】 知覚・認知心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0490-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。 本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。 「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。 リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々に対する支援するための基礎知識となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。 人間の認知情報処理過程(感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など)について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて実例から学び、その支援法を考えていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-3, S-2, R-1</p> <p>(方法)</p> <p>講義と演習ですすめていく。 障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。 可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。 毎回、資料としてプリントを配布する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。 ・認知の障害について理解する。 		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。 ・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。 ・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。 		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>大山正編著 『実験心理学』(コンパクト新心理学ライブラリー16) サイエンス社 1,850円+税</p>		
<p>【参考書】</p> <p>森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 2400円+税 行場次朗・箱田裕司編 『知性と感性の心理学：認知心理学入門』 福村出版 2700円+税 野島一彦・繁榎算男監修「公認心理師の基礎と実践 知覚・認知心理学」 遠見書房 2,600円+税</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	記憶 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、ワーキングメモリ	講義 一部演習		15
3.4	記憶 長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
5.6	記憶 忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
7.8	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	15
9.10	思考 演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
11.12	思考 問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
13.14	言語 言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	30
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ 国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第1～15回目までの知識の整理	15

リハビリテーション学科

【科目名】		学習・言語心理学	【担当教員】		宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。将来、臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思ひます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>人の行動が変化する過程、及び 言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1</p>					
(方法)					
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。</p> <p>言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。</p> <p>学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>人間の行動は変化することを説明できる。</p> <p>人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。</p> <p>学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。</p> <p>障害に対して適切な支援ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>グラフィック学習心理学：行動と認知 / 山内光哉・春木豊(編著) / サイエンス社 / ¥2,805(税込)</p>					
【参考書】					
<p>公認心理師の基礎と実践 学習・言語心理学 / 野島一彦・繁樹算男監修 / 遠見書房 / 2,600円 + 税</p> <p>学習心理学への招待(新心理学ライブラリ) / 篠原彰一著 / サイエンス社 / ¥ 2,520</p> <p>メイザーの学習と行動 / ジェームズ E メイザー(著) / 二瓶社(2008/06) / ¥4,200</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例 条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p.1-14 指定教科書p.15-24	20
3.4	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p.24-35	20
5.6	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.36-42	20
7.8	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p.43-64 指定教科書p.149-154	20
9.10	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p.64-74	20
11.12	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.74-92	20
13.14	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p.125-134	20
15	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p.134-144	20

リハビリテーション学科

【科目名】		学習・言語心理学	【担当教員】		宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思ひます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>人の行動が変化する過程、及び 言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1</p>					
(方法)					
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。</p> <p>言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。</p> <p>学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>人間の行動は変化することを説明できる。</p> <p>人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。</p> <p>学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。</p> <p>障害に対して適切な支援ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>グラフィック学習心理学：行動と認知 / 山内光哉・春木豊(編著) / サイエンス社 / ¥2,805(税込)</p>					
【参考書】					
<p>公認心理師の基礎と実践 学習・言語心理学 / 野島一彦・繁樹算男監修 / 遠見書房 / 2,600円 + 税</p> <p>学習心理学への招待(新心理学ライブラリ) / 篠原彰一著 / サイエンス社 / ¥ 2,520</p> <p>メイザーの学習と行動 / ジェームズ E メイザー(著) / 二瓶社 (2008/06) / ¥4,200</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	社会的学習 ・自己効力感 (self-efficacy) 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p.144-148	20
3.4	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	講義 一部演習	指定教科書p.93-102	20
5.6	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p.102-124	20
7.8	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p.175-190	20
9.10	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能 (脳機能画像)	講義	指定教科書p.184-199	20
11.12	言語障害への支援 ・失語症 (Wernicke型、Broca型) ・失読・失書 (alexia and agraphia) ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
13.14	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用	講義	指定教科書p.149-174	20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】		公認心理師の職責	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保 情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)</p>				
【参考書】				
<p>野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	公認心理師とはどのような資格か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理支援に必要な技能(コンピテンシー)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理支援の専門職になるために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理支援の専門職として働くために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	公認心理師の今後の展開	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	公認心理師の法的義務と倫理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		公認心理師の職責	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保 情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)</p>				
【参考書】				
<p>野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	情報の適切な取り扱い	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	チームや地域で連携して働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	保健医療分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	福祉分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	教育分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		心理学研究法	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では心理学の主要な研究手法である実験法、調査法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に実験法および調査法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>心理学研究法における実験法について説明ができる。 心理学研究法における調査法について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>後藤 宗理他(編) / 心理学マニュアル要因計画法 / 北大路書房 / 2000年 / 1,650円 鎌原 雅彦他(編) / 心理学マニュアル質問紙法 / 北大路書房 / 1998年 / 1,650円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・実験法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における実験法の概要を理解する	120
3・4	・実験計画と研究デザイン	講義	講義プリントの復習 実験法における計画の立案の流れについて理解する	120
5・6	・実験結果を歪める要因	講義	講義プリントの復習 実験法における交絡変数をはじめとした結果を歪める要因について理解する	120
7・8	・実験法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 実験結果の統計学的検定方法について理解する	120
9・10	・調査法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における調査法の概要を理解する	120
11・12	・調査対象者の選択	講義	講義プリントの復習 調査法において対象者を募る際の注意点や倫理的配慮について理解する	120
13・14	・調査結果の整理	講義	講義プリントの復習 調査の結果得られたデータのまとめ方について理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

【科目名】		心理学研究法	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では心理学の主要な研究手法である観察法、検査法、面接法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に観察法、検査法、面接法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>心理学研究法における観察法について説明ができる。 心理学研究法における検査法について説明ができる。 心理学研究における面接法について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>中澤 潤 他(編) / 心理学マニュアル観察法 / 北大路書房 / 1997年 / 1,430円 保坂 亨他(編) / 心理学マニュアル面接法 / 北大路書房 / 2000年 / 1,650円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・調査法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 調査法により得られたデータの統計学的処理方法について理解する	120
3・4	・観察法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学研究における観察法全体の概要を理解する	120
5・6	・観察法における量的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた量的データの処理方法について学ぶ	120
7・8	・観察法における質的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた質的データの処理方法について学ぶ	120
9・10	・心理検査法(1) 投影法と作業検査法	講義	講義プリントの復習 性格検査の中でも投影法と作業検査法の概要を理解する	120
11・12	・心理検査法(2) 知能検査と発達検査	講義	講義プリントの復習 知能検査および発達検査の実施手順およびその内容について理解する	120
13・14	・面接法の概略	講義	講義プリントの復習 構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いについて理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

【科目名】	心理学統計法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			(オフィスアワー)
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を多分に取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的変数についてエクセルを使ってその算出方法を練習します。演習を通して統計学的な数値がどのようなプロセスで算出されているのか理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 「公認心理師」資格受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。データを読み、説明し、操作する知識と技能を養う。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>					
【参考書】					
<p>吉田(著)本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本, 北大路書房, 2018年, ¥2,750</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3・4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5・6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7・8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9・10	散布度(分散と標準偏差)	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11・12	共分散と相関(1)	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13・14	共分散と相関(2)	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】	心理学統計法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			(オフィスアワー)
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。「心理学研究法」と「心理学実験実習」は、心理学統計法 と を履修した学生だけが、履修登録できます。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を多分に取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定についてエクセルを使ってその方法を練習します。演習を通して統計学的検定がどのようなプロセスで行われているのか理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 「公認心理師」資格受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理学統計法 で学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。授業では、社会の実際のデータも扱います。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。データを読み、説明し、操作する知識と技能を養う。社会の実際のデータを扱えるようにする。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>2乗検定、t検定、分散分析、回帰分析について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>					
【参考書】					
<p>山田・村井(著)よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800 + 税,</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	統計学的仮説検定とは	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120
3・4	2乗検定	講義・演習	2乗検定の基本的な考え方を理解できる。	120
5・6	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
7・8	t検定(2)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
9・10	分散分析(1)	講義・演習	一要因の分散分析について理解できる。	120
11・12	分散分析(2)	講義・演習	多重比較について理解できる。	120
13・14	回帰分析	講義・演習	回帰分析の考え方について理解できる。	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】	心理学実験		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			30
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。欠席は最大2回まで認めますが、欠席した際は補習が必要です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます。(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください。)</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2</p>					
(方法)					
<p>15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の実験ごとに資料を配布する。</p>					
【参考書】					
<p>実験・実習で学ぶ心理学の基礎 / 認定心理士資格認定委員会編集 / 日本心理学会 / 2,700円(税込)</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 実験1(鏡映描写) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	実験1(鏡映描写) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	実験1(鏡映描写) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	実験2(触二点閾) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	実験2(触二点閾) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	実験2(触二点閾) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	実験3(錯視) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	実験3(錯視) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	実験3（錯視） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	実験4（記憶） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
21・2 2	実験4（記憶） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
23・2 4	実験4（記憶） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	実験5（パーソナルスペース） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
27・2 8	実験5（パーソナルスペース） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
29・3 0	実験5（パーソナルスペース） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

【科目名】	心理学実験		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			30
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。欠席は最大2回まで認めますが、欠席した際は補習が必要です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます。(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください。)</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2</p>					
(方法)					
<p>15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
【参考書】					
<p>実験・実習で学ぶ心理学の基礎 / 認定心理士資格認定委員会編集 / 日本心理学会 / 2,700円(税込)</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	実験1(ストループテスト) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	実験1(ストループテスト) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	実験1(ストループテスト) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	実験2(MMPI) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	実験2(MMPI) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	実験2(MMPI) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	実験3(NEO-PI-R) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	実験3(NEO-PI-R) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	実験3 (NEO-PI-R) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	実験4 (Y-G検査) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
21・2 2	実験4 (Y-G検査) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
23・2 4	実験4 (Y-G検査) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	実験5 (観察法) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
27・2 8	実験5 (観察法) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
29・3 0	実験5 (観察法) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

リハビリテーション学科

【科目名】		心理学実験	【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。				
本実験演習は、ペアあるいはグループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。				
実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。				
レポートは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な 実験計画の立案の方法、統計に関する基礎的知識について理解する。				
当該科目と学位授与方針との関連性；A-2				
当該科目と学位授与方針との関連性；R-2				
(方法)				
毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。				
【一般教育目標(GIO)】				
臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。				
【行動目標(SBO)】				
こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。				
実施した実験や検査の結果処理ができる。				
考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
【教科書・リザーブブック】				
実験時に実験方法を示したプリントを配布する。				
【参考書】				
村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592(税込)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。				
「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-4	オリエンテーション 心理検査について 演習の心得、報告書の作成	講義 演習	資料配布	225
5-16	実験1) 知能検査 ビネー式知能検査	講義 演習	資料配布	675
17-28	実験2) 知能検査 ウェクスラ 式知能検査	講義 演習	資料配布	675
29-30	実験3) パーソナリティ検査 新性格検査、BigFive検査	講義 演習	資料配布	225

リハビリテーション学科

【科目名】		心理学実験	【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ (オフィスアワー) 12:50～13:20(月～水・金)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。 本実験演習は、ペアあるいはグループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。 レポートは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な 実験計画の立案の方法、統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2				
(方法)				
毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。				
【一般教育目標(GIO)】				
臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。				
【行動目標(SBO)】				
こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
実験時に実験方法を示したプリントを配布する。				
【参考書】				
村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592(税込)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	実験3) パーソナリティ検査 新性格検査、BigFive検査	講義 演習	資料配布	120
3-14	実験4) パーソナリティ検査 MMPI	講義 演習	資料配布	675
15-22	実験5) パーソナリティ検査 文章完成法	講義 演習	資料配布	450
23-30	実験6) パーソナリティ検査 風景構成法	講義 演習	資料配布	450

【科目名】		感情・人格心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理学における感情や性格の位置づけ、およびそれらの諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。また、遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>感情や性格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情や性格の位置づけについて理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>感情喚起についての理論や主要な人格理論について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・大平 秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ(1,900円+税) ・榎本 博明他 『パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』 有斐閣アルマ(2,200円+税) 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人格に関する諸理論(1) 類型論と特性論	講義	講義プリントの復習 類型論と特性論の違いをまとめる	120
3・4	人格に関する諸理論(2) 5因子モデル	講義	講義プリントの復習 5因子理論の内容についてまとめる	120
5・6	人格の形成過程(1) 環境要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する環境要因についてまとめる	120
7・8	人格の形成過程(2) 遺伝要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する遺伝要因についてまとめる	120
9・10	個人差とその測定(1) 質問紙法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための質問紙法についてまとめる	120
11・12	個人差とその測定(2) 投影法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための投影法についてまとめる	120
13・14	パーソナリティ障害	講義	講義プリントの復習 パーソナリティ障害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】		感情・人格心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理学における感情や性格の位置づけ、およびそれらの諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。また、遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>感情や性格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情や性格の位置づけについて理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>感情喚起についての理論や主要な人格理論について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・大平 秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ(1,900円+税) ・榎本 博明他 『パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』 有斐閣アルマ(2,200円+税) 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感情喚起に関する機序(1) 抹消起源説と中枢起源説	講義	講義プリントの復習 抹消起源説と中枢起源説の違いをまとめる	120
3・4	感情喚起に関する機序(2) 認知的評価理論	講義	講義プリントの復習 認知的評価理論をまとめる	120
5・6	感情の発達と個人差	講義	講義プリントの復習 感情が発達するプロセスと発達過程で生じる個人差をまとめる	120
7・8	感情と表出行動	講義	講義プリントの復習 感情が行動として表出される際の概要をまとめる	120
9・10	感情と認知	講義	講義プリントの復習 感情と認知との関連をまとめる	120
11・12	感情制御と動機付け	講義	講義プリントの復習 感情制御と動機付けとの関連をまとめる	120
13・14	感情と心身の健康	講義	講義プリントの復習 感情に関わる種々の病理についてまとめる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		神経・生理心理学	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ (オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、臨床で用いられている神経心理検査も随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>脳機能と心のはたらき(脳と心)の関係、脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; R-2, R-3</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p> <p>「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で詳細に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。</p> <p>可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材も使用して、講義を進めていく。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。</p> <p>知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。</p> <p>脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。</p> <p>心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>記憶、学習、思考など認知機能の障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。</p> <p>コミュニケーション能力の機序を脳機能から考えることができ、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も脳科学的観点から推察できる。</p> <p>症例に即した神経心理検査を想定でき、正しく実施し、その結果を適切に評価できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。</p> <p>尚、「(神経)解剖学」「(神経)生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。</p>				
【参考書】				
<p>梅田聡(著)「公認心理師の基礎と実践 第10巻:神経・生理心理学」遠見書房(2021/3/9) ¥3,080(税込)</p> <p>緑川晶ほか(著)「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版(2018/4/6) ¥3,300(税込)</p> <p>Newton 別冊ムック「脳と心:脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>本学GPA評価基準に従う。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	1. 神経・生理心理学とは 2. 感覚・知覚と脳神経系の機序 2-1 感覚・知覚を司る脳領域	講義		20
3.4	2-2 感覚・知覚障害とその支援	視聴覚DVD	レポート 感覚・知覚障害への支援	20
5.6	3. 注意機能と脳神経系の機序 3-1 注意とは？ 注意の分類 3-2 注意の神経基盤 3-3 注意障害のスクリーニングテスト 3-4 注意障害への支援	講義		20
7.8	4. 失認 4-1 失認とは？ 失認の分類 4-2 失認の神経基盤 4-3 失認のスクリーニングテスト 4-4 失認への支援	講義	レポート 「半側空間無視」の症状	20
9.10	5. 記憶と脳神経系の機序 5-1 記憶の分類 5-2 記憶検査	講義		20
11.12	5-3 記憶障害の病態 5-4 記憶障害への支援	視聴覚DVD	レポート 記憶の神経心理学的検査	20
13.14	6. 感情と脳神経系の機序 ・情動障害	視聴覚DVD		20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】 神経・生理心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 講義後にレポートを課す場合があります。また、臨床で用いられている神経心理検査も随時実施していきます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>脳機能と心のはたらき(脳と心)の関係、脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; R-1, R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。 「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で詳細に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。 可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材も使用して、講義を進めていく。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。 尚、「(神経)解剖学」「(神経)生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>田川皓一、池田学(編)「神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価」西村書店(2020/9/2) ¥7,480(税込) 山鳥重(著)「神経心理学入門」医学書院(1985/1/1) ¥7,040 Newton 別冊ムック「ゼロからわかる心理学 増補第2版」(株)ニュートンプレス(2021/1/18) ¥1,980(税込)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 本学GPA評価基準に従う。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	遂行機能障害 ・定義 ・症候の理解 ・評価法	講義		20
3.4	遂行機能障害への支援	講義		20
5.6	失語症 ・言語の神経基盤と末梢器官 ・言語機能と失語症の分類 ・失語症検査	講義		20
7.8	失語症への支援	視聴覚DVD		20
9.10	失行 ・分類 ・失行の神経心理学的検査			20
11.12	社会的行動障害 情動障害			20
13.14	発達期の問題 高齢期の問題 多職種連携	講義		20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】 社会・集団・家族心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「心理学概論」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、社会・集団・家族心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、試験などは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 人の態度及び行動、 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。社会・集団・家族心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>社会・集団・家族心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。実生活での家族を含む対人関係や社会的現象を科学的に理解するための視点を獲得する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>湯川進太郎・吉田富二雄 編 『スタンダード社会心理学』 サイエンス社(2,600円+税) 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学・家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	社会・集団・家族心理学とは何か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	対人認知	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	態度と行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ステレオタイプと偏見	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	向社会的行動と反社会的行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	社会的促進と社会的抑制	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	社会的影響	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 社会・集団・家族心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「心理学概論」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、社会・集団・家族心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、試験などは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 人の態度及び行動、 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。社会・集団・家族心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>社会・集団・家族心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。実生活での家族を含む対人関係や社会的現象を科学的に理解するための視点を獲得する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>湯川進太郎・吉田富二雄 編 『スタンダード社会心理学』 サイエンス社(2,600円+税) 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学・家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団過程	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	社会的相互作用	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	対人関係の形成と発展	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	家族の人間関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	ソーシャル・サポート	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	文化と社会心理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	集合行動とマスコミュニケーション	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 障害者・障害児心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、障害児・障害者の疾患への理解とその支援法について講じていきます。将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は公認心理師試験の出題基準における指定科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多種多様な障害のある人に心理的な支援を提供するにあたり、障害者・障害児の身体機能及び精神機能に関する基本的な医学・生理学的及び心理学的知見を習得することを目的とする。また、障害者・障害児及びその家族等の“こころ”をも推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていく。当該科目と学位授与方針との関連性; R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>野島一彦、繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		10					10
	学修に取り組む姿勢	0		10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲		障害の分類 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF)	
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法		障害受容 二次障害 エビデンスに基づく障害支援	
3	身体障害 _視覚障害 障害の理解		盲 弱視	
4	身体障害 _視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)		点字 歩行 バーバリズム ブラインディズム	
5	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解		聾 難聴(伝音性/感音性)	
6	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		言語の発達 コミュニケーション障害 補聴器 人工内耳 手話	
7	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解		発声・発語器官 構音障害 脳機能と言語 吃音 発達障害	
8	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		食べる機能の障害	

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援		母子保健 乳幼児健診 早期発見と療育 保育園・幼稚園での支援	
10	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し		就学相談（支援）	
11	身体障害 肢体不自由 障害の理解		・脳性まひ ・随伴障害 ・重複障害、重症心身障害	
12	身体障害 肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）		・早期療育 ・自立支援 ・訪問教育	
13	身体障害 内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）		・心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害 ・膀胱、直腸、小腸の機能の障害 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害	
14	身体障害 内部障害 適切な支援（家族支援を含む）		・医療的ケア ・ホスピタリズム ・ターミナル・ケア	
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】 障害者・障害児心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、障害者(児)の疾患への理解とその支援法について講じていきます。将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は公認心理師試験の出題基準における指定科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多種多様な障害のある人に心理的な支援を提供するにあたり、障害者・障害児の身体機能及び精神機能に関する基本的な医学・生理学的及び心理学的知見を習得することを目的とする。また、障害者・障害児及びその家族等の“こころ”をも推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていく。当該科目と学位授与方針との関連性; R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>野島一彦、繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	0							0
	発表力	0		10					10
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	知的障害 障害の理解		知的障害の定義 知能検査 知的障害の分類 適応行動の検査 行動障害	
2	知的障害 適切な支援(家族支援を含む)		療育手帳 知的障害者更生相談所	
3	発達障害の理解と適切な支援 広汎性発達障害 ・自閉症 ・アスペルガー症候群		障害の特徴 ソーシャルスキルトレーニング	
4	発達障害の理解と適切な支援 注意欠陥多動性障害(AD/HD)		不注意・多動性・衝動性 アセスメント 基本的な対応	
5	発達障害の理解と適切な支援 学習障害(LD)		LDの定義 認知処理特性に応じた教育法	
6	発達障害の理解と適切な支援 家族支援と適切な養育			
7	精神障害の理解 精神障害の定義(範囲)		精神障害の定義(範囲) ・統合失調症 ・気分障害 ・非定型精神病	
8	精神障害の理解		・てんかん ・中毒精神病 ・器質性精神障害 ・発達障害 ・その他	

9	精神障害への適切な支援 障害等級別による社会支援の考え方		精神障害者保健福祉手帳 障害等級判定基準より	
1 0	精神障害への適切な支援 障害等級別による社会保険による生活支援		障害年金	
1 1	精神障害への適切な支援 就労支援			
1 2	精神障害への適切な支援 就労支援			
1 3	まとめ 幼児・学童期の障害児への療育と発達支援		障害児への合理的配慮 家族への支援	
1 4	まとめ 青年・成人期の障害者への理解と就労・福祉支援		障害者雇用 障害者への合理的配慮	
1 5	まとめ 障害児・者との共存・共生へ		障害児・者の心理社会的課題	

【科目名】	心理的アセスメント		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、木除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、プリントを配布します。 講義中や講義後に空欄箇所を埋め、講義後にそのプリントを使って1回は復習してください。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を講義の進行に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、資料を配布する。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版(3,800円+税) 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版(3,200円+税) 津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版(2,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 小テストと定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理的アセスメントの目的及び倫理 心理的アセスメントの目的	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理的アセスメントの目的及び倫理 心理的アセスメントの倫理	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理的アセスメントの観点及び展開 エビデンスベースト・アプローチ	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理的アセスメントの観点及び展開 生物心理社会モデル	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心理的アセスメントの観点及び展開 機能分析、ケースフォーミュレーション	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	心理的アセスメントの観点及び展開 保健医療、福祉の分野における心理的アセスメントの実際	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心理的アセスメントの観点及び展開 教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における心理的アセスメントの実際	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	講義プリント、資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理的アセスメント		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、木除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、プリントを配布します。 講義中や講義後に空欄箇所を埋め、講義後にそのプリントを使って1回は復習してください。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を講義の進行に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、資料を配布する。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(G10)】				
<p>心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版(3,800円+税) 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版(3,200円+税) 津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版(2,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	面接法について 構造化面接・非構造化面接	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
3-4	面接法について 心理面接の進め方、面接の中で用いられる技法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
5-6	観察法について 自然観察法と実験観察法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
7-8	観察法について 参与観察法と非参与観察法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
9-10	心理検査法について 質問紙法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
11-12	心理検査法について 投映法・作業検査法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
13-14	検査法について 知能検査・発達検査	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
15	まとめ	講義	講義プリント、資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理学的支援法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>杉原保史・福島哲夫・東齊彰 編 『心理学的支援法』 北大路書房(2,700円+税) 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社(3,500円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理学的支援とは？	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理学的支援の基本姿勢と倫理	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理力動論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理力動論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	行動論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	キャリアカウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理学的支援法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>杉原保史・福島哲夫・東斉彰 編 『心理学的支援法』 北大路書房(2,700円+税) 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社(3,500円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	システム論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	システム論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	プレイセラピー（遊戯療法）	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	グループセラピー（集団療法）	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	地域支援の意義	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	訪問による支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心の健康教育	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		健康・医療心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。</p> <p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した心理テストについては他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目ではストレスが生成されるまでのメカニズムやそれが種々の疾患の発症にどのようにかかっているのかを学ぶことを目的とする。また、心身の健康を維持、増進するための予防的行動のあり方についても主要な理論を援用しながら学ぶ。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>心理学的観点から「ストレス」という言葉の実際の内容を説明でき、それが心身の健康とどのようにかかっているのかを説明できることを目指す。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>ストレス生成の心理学的・生理学的メカニズムを説明できる。</p> <p>ストレス緩和要因について説明できる。</p> <p>ストレスが引き金となって生じる心身の問題およびその予防について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>宮脇 稔 (編) / 健康・医療心理学 (公認心理師カリキュラム準拠) / 医歯薬出版 / 2018年 / 3,240円 日本健康心理学会 / 健康心理学基礎シリーズ ~ / 実務教育出版 / 2002年 / 各2,500円前後</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・ストレスとは何か ストレスとストレス反応	講義	講義プリントの復習 心理学的観点からストレスの概要を理解する。	60
3・4	・ストレスとそのコントロール コーピングとソーシャルサポート	講義・演習	講義プリントの復習 ストレス緩和要因について理解する。	120
5・6	・ストレス関連疾患(1) うつ症状とバーンアウト	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾患のメカニズムを理解する	120
7・8	・ストレス関連疾患(2) PTSD	講義	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾患のメカニズムを理解する	120
9・10	・行動特性とストレスとの関連 タイプA行動パターンとアレキシサイミア	講義・演習	講義プリントの復習 日常の行動パターンがストレス生成に関わることを理解する	120
11・12	・健康問題とその予防(1) ヘルスベリフモデル	講義・演習	講義プリントの復習 予防的観点から健康行動理論を理解する	120
13・14	・健康問題とその予防(2) トランスセオレティカル・モデル	講義・演習	講義プリントの復習 予防的観点から健康行動理論を理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		健康・医療心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。</p> <p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した心理テストについては他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では臨床現場におけるチーム医療介入の実際について、講義および実際の事例を検討しながら学ぶことを目的とする。また、地域保健活動や災害時の支援における心理職の役割について学ぶ。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>チーム医療における多職種連携およびその中での心理職の役割やその活動の実際について説明することができる。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>チーム医療の多職種連携の必要性について説明できる 地域保健活動における心理職の役割について説明できる 災害時支援における心理職の役割について説明できる</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>宮脇 稔 (編) / 健康・医療心理学 (公認心理師カリキュラム準拠) / 医歯薬出版 / 2018年 / 3,240円 日本健康心理学会 / 健康心理学基礎シリーズ ~ / 実務教育出版 / 2002年 / 各2,500円前後</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・生活習慣病とその支援(1) 糖尿病への心理的介入	講義・演習	講義プリントの復習 糖尿病患者に必要な心理的支援のあり方を理解する。	120
3・4	・生活習慣病とその支援(2) 肥満症への心理的介入	講義・演習	講義プリントの復習 肥満症患者に必要な心理的支援のあり方を理解する。	120
5・6	・チーム医療と多職種連携(1) 精神科コンサルテーション	講義	講義プリントの復習 精神科と他科との連携の実際について理解する。	120
7・8	・チーム医療と多職種連携(2) 内科領域における心理職の役割	講義	講義プリントの復習 循環器系や呼吸器系疾患患者への心理的支援のあり方を理解する。	120
9・10	・地域保健活動における心理的支援(1) 発達相談、職域における心理支援	講義	講義プリントの復習 母子保健や産業場面における心理的支援のあり方を理解する。	120
11・12	・地域保健活動における心理的支援(2) 自殺対策、認知症高齢者支援	講義	講義プリントの復習 自殺対策のける心理職の役割、認知症高齢者やその家族への心理支援について理解する。	120
13・14	・災害時の心理的支援 心理的応急処置と災害現場でのチーム医療	講義	講義プリントの復習 災害発生時の心理的支援のあり方について理解する。	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		福祉心理学	【担当教員】	大矢 真里
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
毎回出席カードの配布、コメントの記入を求めます。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1,2、R-1,2,3				
(方法)				
教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。				
【一般教育目標(GIO)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。				
【行動目標(SBO)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
中島健一(編)『福祉心理学』遠見書房(2,600円+税)				
【参考書】				
特になし。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60		20			20	100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力		30		10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	イントロダクション～講義についての説明 社会福祉の展開と心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	暴力被害者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	子ども虐待とネグレクト	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	子ども虐待とネグレクト	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	社会的養護と心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	子どもと親への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	障害・疾病のある人への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

リハビリテーション学科

【科目名】		福祉心理学	【担当教員】	大矢 真里
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
毎回出席カードの配布、コメントの記入を求めます。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1,2、R-1,2,3				
(方法)				
教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。				
【一般教育目標(GI0)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。				
【行動目標(SB0)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
中島健一(編)『福祉心理学』遠見書房(2,600円+税)				
【参考書】				
特になし。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60		20			20	100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力		30		10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	高齢者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	生活困窮・貧困者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	精神障害者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	家族・職員への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	多職種協働と心理職の位置づけ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

リハビリテーション学科

【科目名】		教育・学校心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 教育現場において生じる問題及びその背景 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>				
【参考書】				
<p>石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房(3,800円+税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社(2,400円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教育・学校心理学の意義	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	子どもの発達課題への取り組みの理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	子どもの教育課題への取り組みの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	スクールカウンセリングの枠組み	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	子どもの多様な援助者とチーム学校	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	3段階の心理教育的援助サービス	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	発達障害の理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		教育・学校心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 教育現場において生じる問題及びその背景 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>				
【参考書】				
<p>石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房(3,800円+税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社(2,400円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	不登校の理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	いじめの理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	非行の理解と非行をする子どもの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	学校における危機対応	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	学級づくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	学校づくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	地域ネットワークづくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 司法・犯罪心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社(2,300円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房(2,200円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪の生物学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	犯罪の心理学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	犯罪の社会学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	暴力犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	性犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	ドメスティック・バイオレンス、ストーキング、虐待	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	窃盗・強盗・放火	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 司法・犯罪心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社(2,300円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房(2,200円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪捜査	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	司法・裁判	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	防犯	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	矯正・更生保護	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	再犯予測	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	行動変容	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	司法面接	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病	【担当教員】	宮岡 里美、村井 絹子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。病院の臨床経験を活かし、身体部位の構造と機能に加え心の器官の構造や働きとの結びつきについて講じていきます。公認心理師とは、「保健医療、福祉、教育その他の分野において心理学に関する専門的知識と技術をもって心理に関する様々な支援を行う者」とされています。疾病を有する患者の心理について相談・助言を行うためには人体と理解と医学的知識が必要となります。またこの科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。テキストにそって講義をおこないますが、その他講義資料を配付します。欠席した場合は、後日資料を配付します。医学の基礎として、人体の構造と機能について学んでいきますが、この講義のほかに「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目を受講するとより理解を深めることができます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>公認心理士を目指す人の必修科目となります。人の成長・発達や日常生活との関連性を踏まえ、様々な職種と協働しながら支援等を主体的に実践するため、必要な医学的知識を修得し、より専門性の高い領域へ進む基礎となるよう学んでいきます。人体の構造と機能及び疾病 では、正常な人体構造と機能の基礎知識を習得することを目的としています。当該科目と学位授与方針との関連性；R-1</p>				
(方法)				
<p>パワーポイントを使用しての講義をおこないます。毎 回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。内容 については、指定教科書に準じます。講義終了後には、確認テストをおこないます。</p>				
【一般教育目標(G10)】				
<p>心の問題と、そのことが原因となる身体的問題を生物学的に理解するために、正常な人体構造と機能の基礎知識を修得する。疾病がもたらす心理面への影響やその支援のあり方を理解するために、人体の構造や機能を踏まえ、疾病に関する基本的な知識を修得する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・各臓器の構造と機能を説明できる。 ・人体の解剖学的用語を説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
武田克彦編著「公認心理師カリキュラム準拠「人体の構造と機能及び疾病」, 医歯薬出版株式会社、2019/5/10、3200円+税				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション 細胞、組織、器官、器官系	講義	科目オリエンテーション シラバスについて 教科書 p 10 ~ 15	90
3.4	身体の構造と機能 物質の取り込み：呼吸器系・消化器系	講義	1 回目の復習(小テスト) 教科書 p 16 ~ 18	90
5.6	身体の構造と機能 物質の循環と排泄：血液・循環器系・泌尿器系	講義	2 回目の復習(小テスト) 教科書 p 19 ~ 23	90
7.8	身体の構造と機能 個体の複製：生殖器系 形の維持と運動：運動 器系	講義	3 回目の復習(小テスト) 教科書 p 24 ~ 28	90
9.10	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：感覚器系	講義	4 回目の復習(小テスト) 教科書 p 31 ~ 36	90
11.12	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：神経系	講義	5 回目の復習(小テスト) 教科書 p 36 ~ 48	90
13.14	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：内分泌系	講義	6 回目の復習(小テスト) 教科書 p 48 ~ 52	90
15	身体の構造と機能 1 回目 ~ 7 回目のまとめ 科目終了試験(60点)	講義	7 回目の復習(小テスト) 8 回目の復習(小テスト)	90

リハビリテーション学科

【科目名】 人体の構造と機能及び疾病		【担当教員】 宮岡 里美、村井 絹子
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30(保健室)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、看護の実務経験のある教員による授業科目です。病院の臨床経験を活かし、疾病の原因、病態、治療、疾病が与える心理的影響と支援について講じていきます。身体各部の疾患、人の一生を縦断的にみた加齢に伴う疾患について学び、健康についても理解を深めていきます。またこの科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では、20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 テキ ストにそって講義をおこないますが、その他講義資料を配付します。欠席した場合は、後日資料を配付します。 医学の基 礎として、人体の構造と機能に加えて、身体各部の疾患について学んでいきます。この講義のほかに「解剖学」や「生理学」、「 内科学」などの医学関連科目を受講するとより理解を深めることができます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>公認心理士を目指す人の必修科目となります。生活習慣病をはじめとする内科疾患、骨折などの整形外科疾患、うつ病などの精神疾患、脳血管障害などの神経疾患、がん、感染症、難病、小児疾患について知識を深めていきます。疾病に伴う心理的症状を観察し、その状態を分析し心理的・社会的支援に繋げる医学的知識を修得することを目的に学んでいきます。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1</p> <p>(方法)</p> <p>パワーポイントを使用しての講義をおこないます。 毎 回、講義スライド資料を配付します。関連資料がある場合にはそれも配付します。 内容 については、指定教科書に準じます。講義終了後には、確認テストをおこないます。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>人体の構造と機能の基礎知識を活用し身体各部の疾病、原因、病態、治療、心理面への影響について概説できる。 ICF, 健康の定義について概説できる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的支援が必要な代表的疾患の成り立ちを説明できる。 ・心理的支援が必要な代表疾患の特徴を説明できる。 		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>武田克彦編著「公認心理師カリキュラム準拠「人体の構造と機能及び疾病」, 医歯薬出版株式会社、2019/5/10、3200円+税</p>		
<p>【参考書】</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定GPA制度に従う。 100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	疾病の概要と特徴 小児の成長発達と疾患 (小児に特徴的な疾患と障害、先天性疾患・遺伝性疾患)	講義	科目オリエンテーション シラバスの説明 人体の構造と機能及び疾患の復習 教科書 (p56 ~ p70)	90
3.4	疾病の概要と特徴 加齢と疾患(各臓器の老化、高齢期に起こりやすい疾患と障害)	講義	1回目の復習(小テスト) 教科書 (p71 ~ p80)	90
5.6	疾病の概要と特徴 内科疾患の理解(生活習慣病の疾患、症状、治療法、心理的アプローチ)	講義	2回目の復習(小テスト) 教科書 (p81 ~ p93)	90
7.8	疾病の概要と特徴 整形外科疾患、精神科疾患の理解(運動器の代表的疾患、精神疾患の分類・精神疾患の概要)	講義	3回目の復習(小テスト) 教科書 (p94 ~ p120)	90
9.10	疾病の概要と特徴 神経疾患、難病の理解(神経疾患の分類、脳血管障害、てんかん、認知症、パーキンソン病)	講義	4回目の復習(小テスト) 教科書 (p121 ~ p137)	90
11.12	疾患の概要と特徴 がんの理解、感染症の理解(小児がん、サイコオンコロジー、緩和ケア、主な感染症、感染予防策)	講義	5回目の復習(小テスト) 教科書 (p138 ~ p170)	90
13.14	疾患の概要と特徴 ICFの理解、健康と健康増進の理解(ICFの構成要素及び活用法、健康の定義、ヘルスプロモーション)	講義	6回目の復習(小テスト) 教科書 (p192 ~ p213)	90
15	1回目~7回目復習(45分) 科目終了試験(45分)	講義	7回目の復習(小テスト) 8回目の復習(小テスト)	90

リハビリテーション学科

【科目名】		食の心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、食行動の基礎と食行動変容のプロセスを臨床的観点から解説します。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>第一に食行動の基礎および食行動をはじめとする健康関連行動に関わる心理学的・行動科学的理論の理解を目標とする。第二に臨床現場における食行動変容の実際について、具体的な症例を対象としながら理解することを目標とする。</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>心理学的・行動科学的観点から食行動に関する知識を習得するため、発達・学習・社会・臨床心理学等各領域の観点から食行動の基礎と臨床を理解する。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階による食行動の変化を説明できる ・食物の嗜好や嫌悪の獲得プロセスで学習理論が果たす役割を説明できる ・食行動の抑制、促進にかかわる社会文化的要因を説明できる ・食行動変容が起こるプロセスを理論を基に説明できる 					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>今田 純雄 (編) / 現代心理学シリーズ16 食行動の心理学 / 培風館 / 1997年 / 1,870円 中島 義明他 (編) / たべる 食行動の心理学 (人間行動学講座) / 朝倉書店 / 1996年 / 3,850円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・学問としての食行動とは ・発達の観点からみた食行動	講義	講義プリントの復習 各発達段階における食行動の特徴を理解する	120
3・4	・学習・動機づけの観点からの食行動	講義	講義プリントの復習 食物への嗜好、嫌悪が獲得される上で重要な学習理論を理解する	120
5・6	・社会文化的観点からの食行動	講義	講義プリントの復習 食行動が抑制あるいは促進される社会文化的要因を理解する	120
7・8	・食行動を中心とした健康関連行動についての理論	講義	講義プリントの復習 食行動を中心とした健康的な生活習慣を維持、阻害する要因に関する理論を理解する	120
9・10	・食行動の異常	講義	講義プリントの復習 摂食障害の病態を理解する	120
11・12	・糖尿病患者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義プリントの復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際の事例を用いながら、食行動が変容されるプロセスを理解する	120
13・14	・肥満者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義プリントの復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際の事例を用いながら、食行動が変容されるプロセスを理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		アート・セラピー	【担当教員】	的場 已知子、長谷川 千種
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	4-26-1020-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果・レポートは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的) アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、対人援助者としての在り方や対象者へ関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1				
(方法) パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるように、実際のセッション体験を取り入れた講義を行う。				
【一般教育目標(GIO)】 対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン・センタード表現アートセラピーの理論と実際に体験して理解する。				
【行動目標(SBO)】 パーソン・センタード表現アートセラピーを将来の対人援助においてどのように応用することができるか考察できる。				
【教科書・リザーブドブック】 講義の内容に合わせて、プリントを配布します。				
【参考書】 必要に応じて紹介します。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価規準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力			60					60
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	PCA表現アートセラピーセッション体験(1) ・絵を中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	芸術療法とは何か アートセラピーにおける素材	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	PCA表現アートセラピーセッション体験(2) ・粘土を中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	ダンスムーブメントセラピーとは ドラマセラピーとは	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	PCA表現アートセラピーセッション体験(3) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	表現アートセラピーの適用(1) ・精神科クリニックと高齢者施設	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	表現アートセラピーの適用(2) ・高齢者へのセッション	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	表現アートセラピーの適用(3) ・高齢者へのセッション	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分

【科目名】		コンピューターと人間の接点		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0155-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)メールにて対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間とコンピュータを結ぶインターフェースについて学ぶ。 ・コンピュータによる各種のセンサーよりのデータ収集と機器の制御について学習する。 					
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・コンピュータ(MICRO:BIT)を使用しプログラムの基礎を修得する。 ・各種のセンサーよりのデータの取得方法について実習する。 					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。 ・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。 					
【行動目標(SBO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・MICRO:BITの構造について説明できる。 ・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。 ・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込みプログラムを作成できる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
必要に応じ資料を配布する。					
【参考書】					
必要に応じ資料を配布する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	20	50	10	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識		10	20					30
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・コンピュータとセンサーを用いたデータ収集 ・マイクロコンピュータMICRO:BITについて ・プログラミング環境(Microsoft Make Cord)について	講義・演習	・シラバスを読んでおく。 ・MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	LEDを制御する。 ・LEDに文字を表示する。 ・ハートマークを点滅させる。 ・音を発生させる。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題1の作成	10分 15分
3	乱数と条件分岐 ・乱数の使用方法 ・条件分岐の使用方法 ・じゃんけんゲームの作成	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題2の作成	10分 15分
4	スイッチを使用したプログラム ・スイッチでLEDを点灯させる。 ・時間を測定する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題3の作成	10分 15分
5	温度を測定する。 ・温度をグラフ表示する。 光の強さを測定する。 ・人感センサーを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題4の作成	10分 15分
6	揺れを感知する。 ・電子サイコロを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題5の作成	10分 15分
7	傾きを測定する。 ・傾きを数量化する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題6の作成	10分 15分
8	方位を測定する。 ・コンパスを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題7の作成	10分 15分

9	電圧を測定する。 ・人体接触を感知する。 ・簡易電圧計を作る。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題8の作成	10分 15分
10	シリアル通信とコンソールの使用方法 ・マイクロコンピュータとパソコン間のデータ送受信の方法を学ぶ。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題9の作成	10分 15分
11	2つのMICRO:BITを無線接続する ・文字列の送受信 ・数値の送受信	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題10の作成	10分 15分
12	リモート計測 ・室温をリモート計測する。 ・測定データのエキスポート	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題11の作成	10分 15分
13	歩数計の作成(1) ・無線を使用し歩行中の加速度を送受信する。 ・加速度波形を記録する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	歩数計の作成(2) ・加速度波形より歩数を推定する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題13の作成	10分 15分
15	まとめ	講義	・前回までの配布資料を確認しておく。 ・課題14の作成	30分 30分

【科目名】		コンピューターと人間の接点		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0156-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)メールにて対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自持参してください。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと 					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。(Teamsの使用方法は授業の中で説明します。) ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。 					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目ではAIの基礎を学習し、具体的使用例を体験することによりAIの有用性を理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基礎的知識を講義により理解する。 ・画像認識・音声認識・姿勢認識についてデータ作成とプログラムへの応用を理解する。 					
【一般教育目標(GI0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用について説明できる。 					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用とプログラム作成の流れについて説明できる。 ・Scratchを使用しAIを用いた初歩的プログラム開発ができる 					
【教科書・リザーブドブック】					
必要に応じ資料を配布する。					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・阿部和広 監修/横川耕二: おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ¥1650 ・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験 (日本語) 単行本 ¥2090 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・ AIとは何か ・ AIの利用領域	講義	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題1を行う。	10分 20分
2	強化学習とAIについて Scratchの使用方法(1) ・ エディタの使用方法 ・ プログラムの保存・読み込み方法	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題2を行う。	10分 20分
3	Scratchの使用方法(2) ・ スプライト・背景について ・ イベント・メッセージの活用	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題3を行う。	10分 20分
4	Scratchの使用方法(3) ・ 変数・リストと演算 ・ 条件分岐	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題4を行う。	10分 20分
5	Scratchの使用方法(4) ・ 例題の作成	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題5を行う。	10分 20分
6	L1-Q学習のアルゴリズム ・ 行動と報酬 ・ 期待値 ・ 報酬予測と学習則	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題6を行う。	10分 20分
7	Scratchを使用しL1-Q学習プログラムを作成する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題7を行う。	10分 20分
8	L2-Q学習のアルゴリズム ・ 行動・報酬・状態 ・ 状態の変化に伴うアルゴリズム ・ 2回より多く行動を選ぶ場合	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題8を行う。	10分 20分

9	Scratchを使用しL2-Q学習プログラムを作成する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題9を行う。	10分 20分
10	Teachable machineと機械学習モデルの作成 ・ 画像認識 ・ 音声認識 ・ ポーズ認識	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題10を行う。	10分 20分
11	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(1) ・ 画像認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題11を行う。	10分 20分
12	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(2) ・ 音声認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題12を行う。	10分 20分
13	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(3) ・ ポーズ認識プログラム	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題13を行う。	10分 20分
14	音声合成について ・ 音声合成の原理 ・ Scratchで「音声合成」拡張機能を使用する。	講義・演習	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題14を行う。	10分 20分
15	まとめ	講義	・ teamsで動画を見ておく ・ 課題15を行う。	10分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】 総合医療英語 ・ 上級		【担当教員】 原 亜由美	
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0181-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ayumi.hara38@gmail.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) メール随時受付。返信は平日のみ。	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>英文エッセイの基本の書き方を学ぶ。医療に関連するテーマについて、自分の主張を英語でまとめられるようになる。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2</p> <p>(方法)</p> <p>オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。テーマの設定、参考資料の検討、エッセイの構成と、各段階のポイントを講義で伝え、英文エッセイを完成させる。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医療分野における、効果的な情報提示を目的とした英語使用の基本を理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>英文エッセイやプレゼンテーションの基本を覚える。適切な段落構成、参考資料の書き方をエッセイに反映する。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>指定教科書なし</p>			
<p>【参考書】</p> <p>様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>課題及び小テストを総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					100				100
評価指標	取り込む力・知識				45				45
	思考・推論・創造の力				45				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	エッセイ執筆に必要な英文基本事項の確認	演習	自己紹介文の作成	45分
3-4	課題演習(テーマ検討)	講義・演習	テーマについての具体的検討 テーマについて日本語での小レポート	90分
5-6	課題演習(テーマの選定と参考資料)	講義・演習	テーマ選定 参考資料リスト作成	90分
7-8	課題演習(構成)	講義・演習	構成についての日本語小レポート	90分
9-10	課題演習(英語表現)	講義・演習	英語での構成提出	90分
11-12	課題演習(エッセイ執筆)	講義・演習	エッセイ下書きの提出	90分
13-14	課題演習(エッセイ執筆)	講義・演習	完成エッセイの提出	90分

【科目名】	総合医療英語 ・ 上級		【担当教員】	原 亜由美
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0182-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ayumi.hara38@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール随時受付。返信は平日のみ。
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 総合医療英語I・上級を履修した学生のみ				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。				
【講義概要】				
(目的) 英語プレゼンテーション用のスライド資料作成を学ぶ。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2				
(方法) オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。テーマの設定、参考資料の検討、スライドの構成と、各段階のポイントを講義で伝え、プレゼンテーションスライド資料を完成させる。				
【一般教育目標(GIO)】 医療分野における、効果的な情報提示を目的とした英語使用の基本を理解する。				
【行動目標(SBO)】 英文エッセイやプレゼンテーションの基本を覚える。適切な段落構成、参考資料の書き方をプレゼンテーション資料に反映する。パワーポイントの操作に慣れる。				
【教科書・リザーブドブック】 指定教科書なし				
【参考書】 様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 課題及び小テストを総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義	導入単語および概要把握・表現の予習及び復習	45分
2	講義(プレゼンテーションとは)	講義	パワーポイントを使用したスライドを1点作成	45分
3-4	講義(プレゼンテーションのテーマ)	講義及び演習	プレゼンテーションテーマ発表 テーマについての日本語小レポート	90分
5-6	課題演習(プレゼンテーションの構成)	演習	構成についての日本語小レポート	90分
7-8	課題演習(レファレンス、イメージの検討)	演習	スライドの構成原稿提出	90分
9-10	課題演習(スライド制作)	演習	スライド経過の確認	90分
11-12	課題演習(スライド制作)	演習	スライド下書きの提出	90分
13-14	課題演習(スライド制作)	演習	完成スライドの提出	90分

リハビリテーション学科

【科目名】 医療英文抄読法		【担当教員】 原 亜由美	
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0221-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ayumi.hara38@gmail.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) メール随時受付。返信は平日のみ。	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。			
【講義概要】			
(目的)			
将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2			
(方法)			
オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。			
【一般教育目標(GIO)】			
英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。			
【行動目標(SBO)】			
リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。			
【教科書・リザーブドブック】			
指定教科書：指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400 (税別)			
【参考書】			
様式は問わないが辞書(英和、和英)を用意、使用のこと。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

【科目名】		医療英文抄読法		【担当教員】		原 亜由美	
【授業区分】		教養分野(外国語)		【授業コード】		1-06-0222-0-1	
【開講時期】		前期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		15	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。							
【講義概要】							
(目的)							
将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2							
(方法)							
オンデマンドによる講義で課題提出と添削コメントのやりとり。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。							
【一般教育目標(GIO)】							
英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。							
【行動目標(SBO)】							
リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。							
【教科書・リザーブドブック】							
指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）							
【参考書】							
様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患/リハビリテーションにまつわる読解演習 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題 提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題 提出	90分

リハビリテーション学科

【科目名】		内科学	【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし深く理解できるように留意する。試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。さらに、感染症や炎症、アレルギーなど病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の役割を理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院				
【参考書】				
A.シェフラー, S.シュミット著 (三木・井上訳)「からだの構造と機能」 西村書店				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症（診断と治療）	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症	講義	予習・復習	30
5	腫瘍の診断と治療	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝	講義	予習・復習	30
7	知っておきたい薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・肝不全	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	内科学		【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。 試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学 での総論的な理解習得に引き続き、内科学 では「循環器」「呼吸器」「血液」「腎」「膠原病」などの疾患について各論的に学修する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院				
【参考書】				
A.シェフラー, S.シュミット著 (三木・井上訳)「からだの構造と機能」 西村書店				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	血液概論、造血と貧血	講義	予習・復習	30
2	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	予習・復習	30
3	出血と止血、出血性要因と疾患	講義	予習・復習	30
4	糖尿病	講義	予習・復習	30
5	高脂血症、高尿酸血症	講義	予習・復習	30
6	視床下部、下垂体、尿崩症	講義	予習・復習	30
7	甲状腺疾患、カルシウム代謝、骨粗鬆症	講義	予習・復習	30
8	副腎疾患、カリウム代謝	講義	予習・復習	30

9	尿生成、急性腎不全	講義	予習・復習	30
10	腎炎、ネフローゼ、酸・塩基平衡	講義	予習・復習	30
11	慢性腎疾患、慢性腎不全、透析療法	講義	予習・復習	30
12	腎盂腎炎、尿路疾患	講義	予習・復習	30
13	免疫とアレルギー反応、自己免疫	講義	予習・復習	30
14	膠原病・類縁疾患	講義	予習・復習	30
15	感染症と免疫不全	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学		【担当教員】	粟生田 博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します。医学専門用語が多いため、指定教科書だけでなく医学大事典(電子辞書含む)や解剖学、生理学などの分野に関する教科書も参考に、学習準備をすると良いでしょう。</p> <p>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器リハビリテーションに従事してきた経験から、運動器疾患に関して講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>・解剖学、生理学、運動学、組織学、病理学等の学習(復習)を行きましょう。</p> <p>・小テストは随時返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>・整形外科領域における疾患の病態、臨床症状、診断、治療などについて学習し、リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします。</p> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3</p>				
(方法)				
<p>・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について教科書を用いて講義を行います。また、小テストを行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>・基本的な整形外科領域の疾患の説明ができる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷、各種領域の病態や治療が説明できる。</p> <p>・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>・立野勝彦, 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版, 医学書院, 2017年, ¥3,600(税別)</p>				
【参考書】				
<p>・解剖学, 生理学, 基礎運動学で使用した教科書</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。</p> <p>・小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	第1章 整形外科基礎知識	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
3, 4	第2章 運動器の評価および検査法 第3章 整形外科的治療法	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
5, 6	第4章 炎症性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
7, 8	第5章 代謝・内分泌性疾患, 退行性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
9, 10	第6章 先天性骨疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
11, 12	第7章 循環障害と壊死性疾患	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
13, 14	第8章 骨・軟部腫瘍	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学		【担当教員】	粟生田 博子、貝淵 正人、真柄 彰	
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します。医学専門用語が多いため、指定教科書だけでなく医学大事典(電子辞書含む)や解剖学、生理学などの分野に関する教科書も参考に、学習準備をすると良いでしょう。</p> <p>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器疾患の診療や運動器リハビリテーションに従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>・複数の教員が担当します。講義内容が入れ替わることがあります。</p> <p>・解剖学、生理学、運動学、組織学、病理学等の学習(復習)を行きましょう。</p> <p>・小テストは随時返却します。</p> <p>・対面講義、ビデオ講義、オンデマンド講義を組み合わせ実施します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>・整形外科領域における疾患の病態、臨床症状、診断、治療などについて学習し、リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします。</p> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2,3</p>					
(方法)					
<p>・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について教科書を用いて講義を行います。また、小テストを行います。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>・基本的な整形外科領域の疾患の説明ができる。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷、各種領域の病態や治療が説明できる。</p> <p>・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>・立野勝彦, 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野, 整形外科学(第4版), 医学書院, 2017年, ¥3,600(税別)</p>					
【参考書】					
<p>・解剖学, 生理学, 基礎運動学で使用した教科書</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。</p> <p>・小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	外傷性疾患 第11章 骨折	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
3, 4	第13章 関節における外傷性疾患 第15章 腱・靭帯における外傷性疾患 第16章 スポーツ傷害	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
5, 6	第17章 熱傷 第18章 切断	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
7, 8	第12章 脊髄損傷	小テスト, 講義 (真柄先生)	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
9, 10	第10章 脊椎の疾患	小テスト, 講義 (真柄先生)	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
11, 12	第4章 炎症性疾患(関節リウマチ)	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
13, 14	第14章 末梢神経損傷	小テスト, 講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習, 復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション工学		【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0345-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜～金曜 5時限	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
生活支援機器(車いす、杖、自助具、生活環境装置)についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。 この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。 講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。 自学としてFUI0SN360を利用した自助具の作成などを行う予定です。 車椅子など重いものを運ぶ場合があるので、授業準備は複数名(3名)くらいで来てください。 課題についてはteamsから提出をお願いします。科目試験は希望者には返却します。再試験は返却しません。					
【講義概要】					
(目的)					
理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,0-3,R-1					
(方法)					
電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。 グループ学習とグループ発表を行います。 授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。					
【一般教育目標(GI0)】					
人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。					
【行動目標(SB0)】					
生態におけるバイオメカニクスを説明する。 生活支援機器の種類や使用法を説明する。 生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
Teamsでの資料提示					
【参考書】					
なし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 出席点は評価に含まない。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	15	15	20				100
評価指標	取り込む力・知識	10	15						25
	思考・推論・創造の力	10		15					25
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	10			20				30
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーション工学について	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	3 DCDのモデリング FOSION360 3Dプリンターについて	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
3	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
4	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
5	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
6	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
7	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子シーティング)	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
8	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子シーティング)	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20

9	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(人の心の杖となれ)	講義・演習 実習室	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
10	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(人の心の杖となれ)	講義・演習 実習室	発表 ICTによる評価	20
11	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(環境制御装置)	講義	発表 ICTによる評価	20
12	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 演習(福祉機器の考察)	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
13	支援機器の作成作成案	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
14	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
15	生活支援(疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20

【科目名】		高次脳機能障害学概論		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0400-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
高次脳機能障害とはいかなる疾患か、あるいは当該患者が社会生活を送る上でどのような支障を生じるかなどについて学ぶ科目です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では、神経解剖学的な基礎学力を必要とします。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。					
【講義概要】					
(目的)					
我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
上記の高次脳機能およびその障害像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能の抽出に使用する各種の検査等についても紹介する。					
【一般教育目標(GIO)】					
高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。					
【行動目標(SBO)】					
高次脳機能とは、どのようなものか言える。 高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。 それぞれの高次脳機能障害について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料配布					
【参考書】					
武田克彦 波多野和夫 著 「高次脳機能障害その概念と画像診断」中外医学社 2007年 ¥7,800 森惟明 鶴見隆正 著 「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見 第2版」医学書院 2010年 ¥5,250					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力			80					80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	高次脳機能障害とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	映像による理解	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	視覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	聴覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	触覚の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	病態認知の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	行為と記憶の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	前頭葉の障害	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学		【担当教員】	高橋 明美、長島 裕子、長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金：8：30～17：00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からチーム医療について講じていく。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・復習を行い理解を深めること ・演習やグループ討論を行うので休まないこと 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。</p>				
(方法)				
<p>実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例(仮想事例)を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。 ・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。 ・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。 ・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>指定しない。 必要に応じて資料を配付する。</p>				
【参考書】				
<p>指定しない。</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・試験ならびに試験に準ずるレポート、討論への積極性、受講態度などを総合して評価する。 ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			30			20	100
評価指標	取り込む力・知識	30			20			5	55
	思考・推論・創造の力	20			10			5	35
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ ・災害時の専門職連携(その1)	・講義 ・討論 (担当: 藤本)	・リハ専門職、関連専門職について確認する ・討論のまとめをする	20 20
2	・専門職連携の実際例から学ぶ ・災害時の専門職連携(その2)	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 藤本)	・新聞から災害時の連携に関する記事を探す ・災害時の専門職連携についてまとめる	20 20
3	・専門職連携の実際例から学ぶ 提示症例に対する援助・支援、連携を考察する(その1: 診療現場)	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 長谷川)	・保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる ・症例に対する連携をまとめる	20 20
4	・専門職連携の実際例から学ぶ 提示症例に対する援助・支援、連携を考察する(その2: 訪問支援)	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 長谷川)	・前回の連携について確認する ・症例に対する連携をまとめる	20 20
5	・比較的若年者(壮年期)の急性期・回復期におけるチーム医療の方策を考える	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 長島)	・急性期・回復期について確認する ・連携についてまとめる	20 20
6	・高齢者を取り巻く医療・福祉の現状を学び、高齢者に対する専門職連携を深めるための方策を考える	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 長島)	・高齢者が置かれている医療・福祉の現状についてまとめる ・連携の方策についてまとめる	20 20
7	・病院や施設における専門職連携の実際について知る	・講義 ・討論 ・発表 (担当: 高橋)	病院や施設における専門職連携について確認する ・症例に対する連携方法をまとめ、発表する	20 30
8	・終末期医療における専門職連携を考える ・まとめ	・講義 ・討論 (担当: 高橋)	・終末期医療の現状について調べる ・科目のまとめ	20 30

【科目名】	老年心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0435-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。高齢期に関心を抱く学生さんはどなたでも受講できます。幸福な一生を送るために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。加齢に伴う、認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p>				
【一般教育目標(G10)】				
<p>「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。 				
【行動目標(SB0)】				
<p>「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に指定せず。 毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>下中 順子 (編著)「老年心理学 (現代心理学シリーズ)」/ 培風館 / 2012年 / 佐藤真一 (編著)「よくわかる高齢者心理学 (わかる シリーズ)」 / ミネルヴァ書房 / 2016年 / 2,700円 権藤 恭之 (編集)「高齢者心理学 (朝倉心理学講座)」 / 朝倉書店 / 2008年 / 3,888円</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含まれない。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー (図表の見方) を含む	復習(要点の整理) 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	15
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	復習(要点の整理) 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	15
3	高齢期の身体機能 ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	復習(要点の整理) 感覚機能(視聴覚等)低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	15
4	高齢期の身体機能 ・運動機能の変化 ・フレイルとサルコペニア ・機能低下の予防	講義 演習:PBL(課題解決)を含む	復習(要点の整理) 「フレイル・サルコペニア」が日常生活へ、そして認知機能へ及ぼす影響を理解し、その予防法を考案する。	15
5	高齢期の認知機能 ・知的機能の変化 結晶性知能と流動性知能 ・記憶機能の低下	講義	復習(要点の整理) 知能には、記憶や数計算等の加齢に伴い低下していく機能と、経験の集積により「熟達化」していく機能があることを理解する。	15
6	高齢期のパーソナリティ ・高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・加齢とパーソナリティの変化	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	復習(要点の整理) 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程での再適応力を理解する。	15
7	高齢期の精神疾患 ・うつ ・喪失体験と孤独	講義	復習(要点の整理) 重篤な「喪失の体験」を理解し、その対象者に対する精神的健康の支援法を知る。	15
8	高齢期の精神疾患 ・認知症 ・認知機能検査	講義 演習:必要な情報収集と分析の学習を含む	復習(要点の整理) 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	15

9	高齢期の精神療法 ・ 回想法	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	復習（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	15
10	高齢期の精神療法 ・ 生きがい・心と体の健康づくり 「きょういく」と「きょうよう」 ・ 学習療法	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 認知機能の低下予防（維持）の考え方、その具体的支援法を理解する。	15
11	高齢者の介護について ・ 介護者の心理	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 介護ストレスと其中での介護者の人間的成長の過程を知る。	15
12	喪失体験と心のケア ・ 「二人称の死」 ・ モーニングワーク	講義	復習（要点の整理） ‘大切な人’の死を受け容れ、自身の生活へ再適応させていく心の過程を理解し、適切な支援を考察する。	15
13	「死の受容」 ・ キューブラ・ロス モデル	講義	復習（要点の整理） 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。	15
14	「死の受容」 ・ キューブラ・ロス モデルの臨床応用	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	復習（要点の整理） キューブラ・ロス モデルと介護者側の心の変化の類似点を知る。	15
15	まとめ ・ 超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	15

リハビリテーション学科

【科目名】 認知症		【担当教員】 伊林 克彦	
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00	
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p> <p>(方法)</p> <p>座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<p>高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。</p>			
【行動目標(SBO)】			
<p>認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
<p>講義資料配布</p>			
【参考書】			
<p>田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ¥4,725</p>			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			80					20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力		80						80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	認知症とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】		生化学	【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。 定期試験の答案は返却する。レポートは添削後に返却する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-3</p>				
(方法)				
<p>本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配付資料を使用して講義を行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>・理学療法士、作業療法士、並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。 ・生体物質の代謝とその調節について説明できる。 ・代謝の異常について説明できる。 ・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>畠山鎮次(著)「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(2) 生化学(第14版)」医学書院 2019年 ¥2,420(税込)</p>				
【参考書】				
なし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 すべての講義終了後に、記述式試験を実施する。 試験80% レポート等課題の達成度10%、学修に取り組む姿勢や態度(出席状況を除く)10%の割合で総合的に評価を行う。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	生体を構成する物質 細胞の構造と機能	講義	予習：教科書(第1章D細胞の構造と機能)を読み、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
3.4	生体を構成する物質 糖質 脂質	講義	予習：教科書(第3章糖質の構造と機能、第5章脂質の構造と機能)を読み、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
5.6	生体を構成する物質 タンパク質 核酸	講義	予習：教科書(第7章タンパク質の構造と機能、第10章核酸の構造と機能)を読み、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
7.8	生体内の物質代謝 代謝 酵素 ビタミンと補酵素	講義	予習：教科書(第2章代謝の基礎と酵素・補酵素)を読み、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
9.10	生体内の物質代謝 糖質代謝 脂質代謝 タンパク質代謝	講義	予習：教科書(第4章糖質代謝、第6章脂質代謝、第8章タンパク質代謝)を読み、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
11.12	代謝の異常 骨粗しょう症 糖尿病(糖質代謝異常) 脂質異常症(脂質代謝異常) 高尿酸血症・痛風(核酸代謝異常)	講義	予習：講義で取り上げる疾患について調べておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
13.14	代謝の異常 先天性代謝異常症 その他の代謝異常疾患	講義	予習：講義で取り上げる疾患について調べておく。 復習：講義ノートを整理する。	90分
15	遺伝子の構造と発現調節 複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習：教科書(第11章遺伝子の複製・修復・組換え、第12章転写、第13章翻訳と翻訳語修飾)を読んでおく。 復習：講義ノートを整理する。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリテーション関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			選択
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 国家試験の受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる測定法と統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法 に向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布する</p>					
【参考書】					
<p>山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	120
3・4	測定の水準(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	120
5・6	精神物理学的測定法(1)(刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異)	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	120
7・8	精神物理学的測定法(2)(調整法、極限法)	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	120
9・10	精神物理学的測定法(3)(恒常法、マグニチュード推定法)	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	120
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	120
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリテーション関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			選択
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。</p>					
<p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
<p>(目的)</p> <p>心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 国家試験の受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる測定法と統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1,R-2</p>					
<p>(方法)</p> <p>心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身につけるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身につけるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布する</p>					
【参考書】					
<p>山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）</p>					
【評価に関わる情報】					
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	尺度構成法(1)直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2)間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセスを説明できる	120
7・8	心理統計学(1)度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2)散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3)共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4)統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

リハビリテーション学科

【科目名】 知覚・認知心理学		【担当教員】 宮岡 里美	
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0490-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々に対する支援するための基礎知識となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。人間の認知情報処理過程(感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など)について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて事例から学び、その支援法を考えていきます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-1, R-1</p> <p>(方法)</p> <p>講義と演習ですすめていく。障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。毎回、資料としてプリントを配布する。</p>			
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。 ・認知の障害について理解する。 			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。 ・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。 ・ST国家試験過去問に対応できるだけの知識を身につける。 ・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。 			
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>大山正編著 『実験心理学』(コンパクト新心理学ライブラリー16) サイエンス社 1,850円+税</p>			
<p>【参考書】</p> <p>森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 2400円+税 行場次朗・箱田裕司編 『知性と感性の心理学：認知心理学入門』 福村出版 2700円+税 野島一彦・繁榊算男監修「公認心理師の基礎と実践 知覚・認知心理学」 遠見書房 2,600円+税</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	感覚 感覚の種類、感覚の範囲と感度 視覚・聴覚・体性感覚・嗅覚・味覚	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
3.4	感覚 感覚の物理量と心理量(心理物理学) 感覚の順応・対比・加重 多感覚の統合	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
5.6	知覚・認知 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
7.8	知覚・認知 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
9.10	知覚・認知 認知地図、対人認知、感覚遮断	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
11.12	感覚・知覚・認知の障害とその支援 失認 知覚の可塑性	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
13.14	知覚・認知 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	30
15	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義	第1～14回目までの知識の整理	15

リハビリテーション学科

【科目名】 知覚・認知心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0490-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。 本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。 リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々に対する支援するための基礎知識となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。 人間の認知情報処理過程(感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など)について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて実例から学び、その支援法を考えていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-3, S-2, R-1</p> <p>(方法)</p> <p>講義と演習ですすめていく。 障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。 可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。 毎回、資料としてプリントを配布する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。 ・認知の障害について理解する。 		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。 ・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。 ・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。 		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>大山正編著 『実験心理学』(コンパクト新心理学ライブラリー16) サイエンス社 1,850円+税</p>		
<p>【参考書】</p> <p>森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 2400円+税 行場次朗・箱田裕司編 『知性と感性の心理学：認知心理学入門』 福村出版 2700円+税 野島一彦・繁榊算男監修「公認心理師の基礎と実践 知覚・認知心理学」 遠見書房 2,600円(+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	記憶 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、ワーキングメモリ	講義 一部演習		15
3.4	記憶 長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
5.6	記憶 忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
7.8	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	15
9.10	思考 演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
11.12	思考 問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
13.14	言語 言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	30
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ 国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第1～15回目までの知識の整理	15

リハビリテーション学科

【科目名】		学習・言語心理学	【担当教員】		宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思ひます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>人の行動が変化する過程、及び 言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1</p>					
(方法)					
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。</p> <p>言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。</p> <p>学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>人間の行動は変化することを説明できる。</p> <p>人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。</p> <p>学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。</p> <p>障害に対して適切な支援ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>グラフィック学習心理学：行動と認知 / 山内光哉・春木豊(編著) / サイエンス社 / ¥2,677(税込)</p>					
【参考書】					
<p>公認心理師の基礎と実践 学習・言語心理学 / 野島一彦・繁樹算男監修 / 遠見書房 / 2,600円 + 税</p> <p>学習心理学への招待(新心理学ライブラリ) / 篠原彰一著 / サイエンス社 / ¥ 2,520</p> <p>メイザーの学習と行動 / ジェームズ E メイザー(著) / 二瓶社(2008/06) / ¥4,200</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例 条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p.1-14 指定教科書p.15-24	20
3.4	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p.24-35	20
5.6	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.36-42	20
7.8	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p.43-64 指定教科書p.149-154	20
9.10	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p.64-74	20
11.12	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.74-92	20
13.14	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p.125-134	20
15	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p.134-144	20

リハビリテーション学科

【科目名】		学習・言語心理学	【担当教員】		宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思ひます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>人の行動が変化する過程、及び 言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1</p>					
(方法)					
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。</p> <p>言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。</p> <p>学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>人間の行動は変化することを説明できる。</p> <p>人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。</p> <p>学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。</p> <p>障害に対して適切な支援ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>グラフィック学習心理学：行動と認知 / 山内光哉・春木豊(編著) / サイエンス社 / ¥2,805(税込)</p>					
【参考書】					
<p>公認心理師の基礎と実践 学習・言語心理学 / 野島一彦・繁樹算男監修 / 遠見書房 / 2,600円 + 税</p> <p>学習心理学への招待(新心理学ライブラリ) / 篠原彰一著 / サイエンス社 / ¥ 2,520</p> <p>メイザーの学習と行動 / ジェームズ E メイザー(著) / 二瓶社 (2008/06) / ¥4,200</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	社会的学習 ・自己効力感 (self-efficacy) 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p.144-148	20
3.4	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	講義 一部演習	指定教科書p.93-102	20
5.6	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p.102-124	20
7.8	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p.175-190	20
9.10	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能 (脳機能画像)	講義	指定教科書p.184-199	20
11.12	言語障害への支援 ・失語症 (Wernicke型、Broca型) ・失読・失書 (alexia and agraphia) ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
13.14	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用	講義	指定教科書p.149-174	20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】	公認心理師の職責		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保 情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房(2,400円+税)</p>				
【参考書】				
<p>野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房(2,000円+税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館(2,200円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	公認心理師とはどのような資格か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理支援に必要な技能(コンピテンシー)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理支援の専門職になるために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理支援の専門職として働くために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	公認心理師の今後の展開	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	公認心理師の法的義務と倫理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		公認心理師の職責	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保 情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)</p>				
【参考書】				
<p>野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	情報の適切な取り扱い	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	チームや地域で連携して働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	保健医療分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	福祉分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	教育分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		心理学研究法	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では心理学の主要な研究手法である実験法、調査法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に実験法および調査法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>心理学研究法における実験法について説明ができる。 心理学研究法における調査法について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>後藤 宗理他(編) / 心理学マニュアル要因計画法 / 北大路書房 / 2000年 / 1,650円 鎌原 雅彦他(編) / 心理学マニュアル質問紙法 / 北大路書房 / 1998年 / 1,650円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・実験法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における実験法の概要を理解する	120
3・4	・実験計画と研究デザイン	講義	講義プリントの復習 実験法における計画の立案の流れについて理解する	120
5・6	・実験結果を歪める要因	講義	講義プリントの復習 実験法における交絡変数をはじめとした結果を歪める要因について理解する	120
7・8	・実験法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 実験結果の統計学的検定方法について理解する	120
9・10	・調査法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における調査法の概要を理解する	120
11・12	・調査対象者の選択	講義	講義プリントの復習 調査法において対象者を募る際の注意点や倫理的配慮について理解する	120
13・14	・調査結果の整理	講義	講義プリントの復習 調査の結果得られたデータのまとめ方について理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

【科目名】	心理学研究法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では心理学の主要な研究手法である観察法、検査法、面接法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に観察法、検査法、面接法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>心理学研究法における観察法について説明ができる。 心理学研究法における検査法について説明ができる。 心理学研究における面接法について説明ができる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>中澤 潤 他(編) / 心理学マニュアル観察法 / 北大路書房 / 1997年 / 1,430円 保坂 亨他(編) / 心理学マニュアル面接法 / 北大路書房 / 2000年 / 1,650円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・調査法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 調査法により得られたデータの統計学的処理方法について理解する	120
3・4	・観察法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学研究における観察法全体の概要を理解する	120
5・6	・観察法における量的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた量的データの処理方法について学ぶ	120
7・8	・観察法における質的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた質的データの処理方法について学ぶ	120
9・10	・心理検査法(1) 投影法と作業検査法	講義	講義プリントの復習 性格検査の中でも投影法と作業検査法の概要を理解する	120
11・12	・心理検査法(2) 知能検査と発達検査	講義	講義プリントの復習 知能検査および発達検査の実施手順およびその内容について理解する	120
13・14	・面接法の概略	講義	講義プリントの復習 構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いについて理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		心理学実験	【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ (オフィスアワー) 12:50～13:20(月～水・金)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。 本実験演習は、ペアあるいはグループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。 レポートは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的)				
心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な 実験計画の立案の方法、統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2				
(方法)				
毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。				
【一般教育目標(GIO)】				
臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。				
【行動目標(SBO)】				
こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
【教科書・リザーブブック】				
実験時に実験方法を示したプリントを配布する。				
【参考書】				
村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592(税込)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-4	オリエンテーション 心理検査について 演習の心得、報告書の作成	講義 演習	資料配布	225
5-16	実験1) 知能検査 ビネー式知能検査	講義 演習	資料配布	675
17-28	実験2) 知能検査 ウェクスラ 式知能検査	講義 演習	資料配布	675
29-30	実験3) パーソナリティ検査 新性格検査、BigFive検査	講義 演習	資料配布	225

リハビリテーション学科

【科目名】		心理学実験	【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ (オフィスアワー) 12:50～13:20(月～水・金)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神医療分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。 本実験演習は、ペアあるいはグループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。 レポートは原則として返却しません。				
【講義概要】				
(目的) 心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な 実験計画の立案の方法、統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2				
(方法) 毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。				
【一般教育目標(GIO)】 臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。				
【行動目標(SBO)】 こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
【教科書・リザーブブック】 実験時に実験方法を示したプリントを配布する。				
【参考書】 村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592(税込)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	実験3) パーソナリティ検査 新性格検査、BigFive検査	講義 演習	資料配布	120
3-14	実験4) パーソナリティ検査 MMPI	講義 演習	資料配布	675
15-22	実験5) パーソナリティ検査 文章完成法	講義 演習	資料配布	450
23-30	実験6) パーソナリティ検査 風景構成法	講義 演習	資料配布	450

【科目名】		感情・人格心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理学における感情や性格の位置づけ、およびそれらの諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。また、遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>感情や性格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情や性格の位置づけについて理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>感情喚起についての理論や主要な人格理論について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・大平 秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ(1,900円+税) ・榎本 博明他 『パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』 有斐閣アルマ(2,200円+税) 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人格に関する諸理論(1) 類型論と特性論	講義	講義プリントの復習 類型論と特性論の違いをまとめる	120
3・4	人格に関する諸理論(2) 5因子モデル	講義	講義プリントの復習 5因子理論の内容についてまとめる	120
5・6	人格の形成過程(1) 環境要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する環境要因についてまとめる	120
7・8	人格の形成過程(2) 遺伝要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する遺伝要因についてまとめる	120
9・10	個人差とその測定(1) 質問紙法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための質問紙法についてまとめる	120
11・12	個人差とその測定(2) 投影法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための投影法についてまとめる	120
13・14	パーソナリティ障害	講義	講義プリントの復習 パーソナリティ障害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】		感情・人格心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理学における感情や性格の位置づけ、およびそれらの諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。また、遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>感情や性格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情や性格の位置づけについて理解することを目指す。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>感情喚起についての理論や主要な人格理論について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・大平 秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ(1,900円+税) ・榎本 博明他 『パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』 有斐閣アルマ(2,200円+税) 					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感情喚起に関する機序(1) 抹消起源説と中枢起源説	講義	講義プリントの復習 抹消起源説と中枢起源説の違いをまとめる	120
3・4	感情喚起に関する機序(2) 認知的評価理論	講義	講義プリントの復習 認知的評価理論をまとめる	120
5・6	感情の発達と個人差	講義	講義プリントの復習 感情が発達するプロセスと発達過程で生じる個人差をまとめる	120
7・8	感情と表出行動	講義	講義プリントの復習 感情が行動として表出される際の概要をまとめる	120
9・10	感情と認知	講義	講義プリントの復習 感情と認知との関連をまとめる	120
11・12	感情制御と動機付け	講義	講義プリントの復習 感情制御と動機付けとの関連をまとめる	120
13・14	感情と心身の健康	講義	講義プリントの復習 感情に関わる種々の病理についてまとめる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		神経・生理心理学	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ (オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。</p> <p>本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、臨床で用いられている神経心理検査も随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>脳機能と心のはたらき(脳と心)の関係、脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; R-2, R-3</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p> <p>「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で詳細に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。</p> <p>可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材も使用して、講義を進めていく。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。</p> <p>知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。</p> <p>脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。</p> <p>心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>記憶、学習、思考など認知機能の障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。</p> <p>コミュニケーション能力の機序を脳機能から考えることができ、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も脳科学的観点から推察できる。</p> <p>症例に即した神経心理検査を想定でき、正しく実施し、その結果を適切に評価できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。</p> <p>尚、「(神経)解剖学」「(神経)生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。</p>				
【参考書】				
<p>梅田聡(著)「公認心理師の基礎と実践 第10巻:神経・生理心理学」遠見書房(2021/3/9) ¥3,080(税込)</p> <p>緑川晶ほか(著)「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版(2018/4/6) ¥3,300(税込)</p> <p>Newton 別冊ムック「脳と心:脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>本学GPA評価基準に従う。</p> <p>試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	1. 神経・生理心理学とは 2. 感覚・知覚と脳神経系の機序 2-1 感覚・知覚を司る脳領域	講義		20
3.4	2-2 感覚・知覚障害とその支援	視聴覚DVD	レポート 感覚・知覚障害への支援	20
5.6	3. 注意機能と脳神経系の機序 3-1 注意とは？ 注意の分類 3-2 注意の神経基盤 3-3 注意障害のスクリーニングテスト 3-4 注意障害への支援	講義		20
7.8	4. 失認 4-1 失認とは？ 失認の分類 4-2 失認の神経基盤 4-3 失認のスクリーニングテスト 4-4 失認への支援	講義	レポート 「半側空間無視」の症状	20
9.10	5. 記憶と脳神経系の機序 5-1 記憶の分類 5-2 記憶検査	講義		20
11.12	5-3 記憶障害の病態 5-4 記憶障害への支援	視聴覚DVD	レポート 記憶の神経心理学的検査	20
13.14	6. 感情と脳神経系の機序 ・情動障害	視聴覚DVD		20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】 神経・生理心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 本科目は公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 講義後にレポートを課す場合があります。また、臨床で用いられている神経心理検査も随時実施していきます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>脳機能と心のはたらき(脳と心)の関係、脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; R-1, R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。 「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で詳細に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。 可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材も使用して、講義を進めていく。</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。 尚、「(神経)解剖学」「(神経)生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>田川皓一、池田学(編)「神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価」西村書店(2020/9/2) ¥7,480(税込) 山鳥重(著)「神経心理学入門」医学書院(1985/1/1) ¥7,040 Newton 別冊ムック「ゼロからわかる心理学 増補第2版」(株)ニュートンプレス(2021/1/18) ¥1,980(税込)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 本学GPA評価基準に従う。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40		60					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	遂行機能障害 ・定義 ・症候の理解 ・評価法	講義		20
3.4	遂行機能障害への支援	講義		20
5.6	失語症 ・言語の神経基盤と末梢器官 ・言語機能と失語症の分類 ・失語症検査	講義		20
7.8	失語症への支援	視聴覚DVD		20
9.10	失行 ・分類 ・失行の神経心理学的検査			20
11.12	社会的行動障害 情動障害			20
13.14	発達期の問題 高齢期の問題 多職種連携	講義		20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】 社会・集団・家族心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「心理学概論」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、社会・集団・家族心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、試験などは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 人の態度及び行動、 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。社会・集団・家族心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>社会・集団・家族心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。実生活での家族を含む対人関係や社会的現象を科学的に理解するための視点を獲得する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>湯川進太郎・吉田富二雄 編 『スタンダード社会心理学』 サイエンス社(2,600円+税) 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学・家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	社会・集団・家族心理学とは何か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	対人認知	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	態度と行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ステレオタイプと偏見	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	向社会的行動と反社会的行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	社会的促進と社会的抑制	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	社会的影響	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 社会・集団・家族心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「心理学概論」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、社会・集団・家族心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、試験などは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 人の態度及び行動、 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。社会・集団・家族心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>社会・集団・家族心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。実生活での家族を含む対人関係や社会的現象を科学的に理解するための視点を獲得する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブブック】</p> <p>竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>湯川進太郎・吉田富二雄 編 『スタンダード社会心理学』 サイエンス社(2,600円+税) 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学・家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団過程	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	社会的相互作用	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	対人関係の形成と発展	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	家族の人間関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	ソーシャル・サポート	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	文化と社会心理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	集合行動とマスコミュニケーション	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 障害者・障害児心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、障害児・障害者の疾患への理解とその支援法について講じていきます。将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思ひます。本科目は公認心理師試験の出題基準における指定科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多種多様な障害のある人に心理的な支援を提供するにあたり、障害者・障害児の身体機能及び精神機能に関する基本的な医学・生理学的及び心理学的知見を習得することを目的とする。また、障害者・障害児及びその家族等の“こころ”をも推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていく。当該科目と学位授与方針との関連性; R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>野島一彦、繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	0		10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲		障害の分類 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF)	
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法		障害受容 二次障害 エビデンスに基づく障害支援	
3	身体障害 _視覚障害 障害の理解		盲 弱視	
4	身体障害 _視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)		点字 歩行 バーバリズム ブラインディズム	
5	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解		聾 難聴(伝音性/感音性)	
6	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		言語の発達 コミュニケーション障害 補聴器 人工内耳 手話	
7	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解		発声・発語器官 構音障害 脳機能と言語 吃音 発達障害	
8	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		食べる機能の障害	

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援		母子保健 乳幼児健診 早期発見と療育 保育園・幼稚園での支援	
10	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し		就学相談（支援）	
11	身体障害 _ 肢体不自由 障害の理解		・脳性まひ ・随伴障害 ・重複障害、重症心身障害	
12	身体障害 _ 肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）		・早期療育 ・自立支援 ・訪問教育	
13	身体障害 _ 内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）		・心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害 ・膀胱、直腸、小腸の機能の障害 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害	
14	身体障害 _ 内部障害 適切な支援（家族支援を含む）		・医療的ケア ・ホスピタリズム ・ターミナル・ケア	
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】 障害者・障害児心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、障害者(児)の疾患への理解とその支援法について講じていきます。将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は公認心理師試験の出題基準における指定科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多種多様な障害のある人に心理的な支援を提供するにあたり、障害者・障害児の身体機能及び精神機能に関する基本的な医学・生理学的及び心理学的知見を習得することを目的とする。また、障害者・障害児及びその家族等の“こころ”をも推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていく。当該科目と学位授与方針との関連性; R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>野島一彦、繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	20		20					40
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	0							0
	発表力	0		10					10
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	知的障害 障害の理解		知的障害の定義 知能検査 知的障害の分類 適応行動の検査 行動障害	
2	知的障害 適切な支援(家族支援を含む)		療育手帳 知的障害者更生相談所	
3	発達障害の理解と適切な支援 広汎性発達障害 ・自閉症 ・アスペルガー症候群		障害の特徴 ソーシャルスキルトレーニング	
4	発達障害の理解と適切な支援 注意欠陥多動性障害(AD/HD)		不注意・多動性・衝動性 アセスメント 基本的な対応	
5	発達障害の理解と適切な支援 学習障害(LD)		LDの定義 認知処理特性に応じた教育法	
6	発達障害の理解と適切な支援 家族支援と適切な養育			
7	精神障害の理解 精神障害の定義(範囲)		精神障害の定義(範囲) ・統合失調症 ・気分障害 ・非定型精神病	
8	精神障害の理解		・てんかん ・中毒精神病 ・器質性精神障害 ・発達障害 ・その他	

9	精神障害への適切な支援 障害等級別による社会支援の考え方		精神障害者保健福祉手帳 障害等級判定基準より	
1 0	精神障害への適切な支援 障害等級別による社会保険による生活支援		障害年金	
1 1	精神障害への適切な支援 就労支援			
1 2	精神障害への適切な支援 就労支援			
1 3	まとめ 幼児・学童期の障害児への療育と発達支援		障害児への合理的配慮 家族への支援	
1 4	まとめ 青年・成人期の障害者への理解と就労・福祉支援		障害者雇用 障害者への合理的配慮	
1 5	まとめ 障害児・者との共存・共生へ		障害児・者の心理社会的課題	

【科目名】	心理的アセスメント		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、木除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、プリントを配布します。 講義中や講義後に空欄箇所を埋め、講義後にそのプリントを使って1回は復習してください。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を講義の進行に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、資料を配布する。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(G10)】				
<p>心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版(3,800円+税) 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版(3,200円+税) 津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版(2,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 小テストと定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理的アセスメントの目的及び倫理 心理的アセスメントの目的	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理的アセスメントの目的及び倫理 心理的アセスメントの倫理	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理的アセスメントの観点及び展開 エビデンスベースト・アプローチ	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理的アセスメントの観点及び展開 生物心理社会モデル	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心理的アセスメントの観点及び展開 機能分析、ケースフォーミュレーション	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	心理的アセスメントの観点及び展開 保健医療、福祉の分野における心理的アセスメントの実際	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心理的アセスメントの観点及び展開 教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における心理的アセスメントの実際	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	講義プリント、資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理的アセスメント		【担当教員】	和田 剛宗
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、木除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、プリントを配布します。 講義中や講義後に空欄箇所を埋め、講義後にそのプリントを使って1回は復習してください。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を講義の進行に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、資料を配布する。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版(3,800円+税) 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版(3,200円+税) 津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版(2,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	面接法について 構造化面接・非構造化面接	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
3-4	面接法について 心理面接の進め方、面接の中で用いられる技法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
5-6	観察法について 自然観察法と実験観察法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
7-8	観察法について 参与観察法と非参与観察法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
9-10	心理検査法について 質問紙法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
11-12	心理検査法について 投映法・作業検査法	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
13-14	検査法について 知能検査・発達検査	講義	講義プリントの完成・復習 関連する文献を読む	240分
15	まとめ	講義	講義プリント、資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理学的支援法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>杉原保史・福島哲夫・東齊彰 編 『心理学的支援法』 北大路書房(2,700円+税) 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社(3,500円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理学的支援とは？	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理学的支援の基本姿勢と倫理	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理力動論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理力動論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	行動論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	キャリアカウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

【科目名】	心理学的支援法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>				
【参考書】				
<p>杉原保史・福島哲夫・東斉彰 編 『心理学的支援法』 北大路書房(2,700円+税) 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社(3,500円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	システム論に基づく支援法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	システム論に基づく支援法の実際	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	プレイセラピー(遊戯療法)	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	グループセラピー(集団療法)	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	地域支援の意義	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	訪問による支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心の健康教育	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		健康・医療心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。</p> <p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した心理テストについては他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目ではストレスが生成されるまでのメカニズムやそれが種々の疾患の発症にどのようにかかっているのかを学ぶことを目的とする。また、心身の健康を維持、増進するための予防的行動のあり方についても主要な理論を援用しながら学ぶ。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>心理学的観点から「ストレス」という言葉の実際の内容を説明でき、それが心身の健康とどのようにかかっているのかを説明できることを目指す。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>ストレス生成の心理学的・生理学的メカニズムを説明できる。</p> <p>ストレス緩和要因について説明できる。</p> <p>ストレスが引き金となって生じる心身の問題およびその予防について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>宮脇 稔 (編) / 健康・医療心理学 (公認心理師カリキュラム準拠) / 医歯薬出版 / 2018年 / 3,240円 日本健康心理学会 / 健康心理学基礎シリーズ ~ / 実務教育出版 / 2002年 / 各2,500円前後</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・ストレスとは何か ストレスとストレス反応	講義	講義プリントの復習 心理学的観点からストレスの概要を理解する。	60
3・4	・ストレスとそのコントロール コーピングとソーシャルサポート	講義・演習	講義プリントの復習 ストレス緩和要因について理解する。	120
5・6	・ストレス関連疾患(1) うつ症状とバーンアウト	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾患のメカニズムを理解する	120
7・8	・ストレス関連疾患(2) PTSD	講義	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾患のメカニズムを理解する	120
9・10	・行動特性とストレスとの関連 タイプA行動パターンとアレキシサイミア	講義・演習	講義プリントの復習 日常の行動パターンがストレス生成に関わることを理解する	120
11・12	・健康問題とその予防(1) ヘルスベリフモデル	講義・演習	講義プリントの復習 予防的観点から健康行動理論を理解する	120
13・14	・健康問題とその予防(2) トランスセオレティカル・モデル	講義・演習	講義プリントの復習 予防的観点から健康行動理論を理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		健康・医療心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。</p> <p>本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案と授業内で実施した心理テストについては他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>本科目では臨床現場におけるチーム医療介入の実際について、講義および実際の事例を検討しながら学ぶことを目的とする。また、地域保健活動や災害時の支援における心理職の役割について学ぶ。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：R-2</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>チーム医療における多職種連携およびその中での心理職の役割やその活動の実際について説明することができる。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>チーム医療の多職種連携の必要性について説明できる 地域保健活動における心理職の役割について説明できる 災害時支援における心理職の役割について説明できる</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>宮脇 稔 (編) / 健康・医療心理学 (公認心理師カリキュラム準拠) / 医歯薬出版 / 2018年 / 3,240円 日本健康心理学会 / 健康心理学基礎シリーズ ~ / 実務教育出版 / 2002年 / 各2,500円前後</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・生活習慣病とその支援(1) 糖尿病への心理的介入	講義・演習	講義プリントの復習 糖尿病患者に必要な心理的支援のあり方を理解する。	120
3・4	・生活習慣病とその支援(2) 肥満症への心理的介入	講義・演習	講義プリントの復習 肥満症患者に必要な心理的支援のあり方を理解する。	120
5・6	・チーム医療と多職種連携(1) 精神科コンサルテーション	講義	講義プリントの復習 精神科と他科との連携の実際について理解する。	120
7・8	・チーム医療と多職種連携(2) 内科領域における心理職の役割	講義	講義プリントの復習 循環器系や呼吸器系疾患患者への心理的支援のあり方を理解する。	120
9・10	・地域保健活動における心理的支援(1) 発達相談、職域における心理支援	講義	講義プリントの復習 母子保健や産業場面における心理的支援のあり方を理解する。	120
11・12	・地域保健活動における心理的支援(2) 自殺対策、認知症高齢者支援	講義	講義プリントの復習 自殺対策のける心理職の役割、認知症高齢者やその家族への心理支援について理解する。	120
13・14	・災害時の心理的支援 心理的応急処置と災害現場でのチーム医療	講義	講義プリントの復習 災害発生時の心理的支援のあり方について理解する。	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】	福祉心理学	【担当教員】	大矢 真里
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
特になし。 この科目は実務経験者対応科目である。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
毎回出席カードの配布、コメントの記入を求めます。			
【講義概要】			
(目的)			
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1,2、R-1,2,3			
(方法)			
教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。			
【一般教育目標(GIO)】			
福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。			
【行動目標(SBO)】			
福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
中島健一(編)『福祉心理学』遠見書房(2,600円+税)			
【参考書】			
特になし。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60		20			20	100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力		30		10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	イントロダクション～講義についての説明 社会福祉の展開と心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	暴力被害者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	子ども虐待とネグレクト	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	子ども虐待とネグレクト	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	社会的養護と心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	子どもと親への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	障害・疾病のある人への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

リハビリテーション学科

【科目名】		福祉心理学	【担当教員】	大矢 真里
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
毎回出席カードの配布、コメントの記入を求めます。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1,2、R-1,2,3				
(方法)				
教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。				
【一般教育目標(GIO)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。				
【行動目標(SBO)】				
福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
中島健一(編)『福祉心理学』遠見書房(2,600円+税)				
【参考書】				
特になし。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60		20			20	100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力		30		10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	高齢者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	生活困窮・貧困者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	精神障害者への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	家族・職員への心理支援	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	多職種協働と心理職の位置づけ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義 (オンデマンド形式)	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

リハビリテーション学科

【科目名】		教育・学校心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 教育現場において生じる問題及びその背景 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>				
【参考書】				
<p>石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房(3,800円+税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社(2,400円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教育・学校心理学の意義	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	子どもの発達課題への取り組みの理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	子どもの教育課題への取り組みの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	スクールカウンセリングの枠組み	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	子どもの多様な援助者とチーム学校	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	3段階の心理教育的援助サービス	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	発達障害の理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		教育・学校心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 教育現場において生じる問題及びその背景 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブブック】				
<p>石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房(2,600円+税)</p>				
【参考書】				
<p>石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房(3,800円+税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社(2,400円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	10	30						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	不登校の理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	いじめの理解と援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	非行の理解と非行をする子どもの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	学校における危機対応	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	学級づくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	学校づくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	地域ネットワークづくりの援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 司法・犯罪心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社(2,300円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房(2,200円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪の生物学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	犯罪の心理学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	犯罪の社会学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	暴力犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	性犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	ドメスティック・バイオレンス、ストーキング、虐待	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	窃盗・強盗・放火	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 司法・犯罪心理学		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の～を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社(2,300円+税)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房(2,200円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪捜査	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	司法・裁判	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	防犯	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	矯正・更生保護	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	再犯予測	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	行動変容	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	司法面接	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	関係行政論	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師が関係する法律と制度について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 保健医療分野に係る法律、制度、 福祉分野に係る法律、制度、 教育分野に係る法律、制度 司法・犯罪分野に係る法律、制度、 産業・労働分野に係る法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。</p>			
【一般教育目標(G10)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について理解できる。 福祉分野に係るある法律、制度について理解できる。 教育分野に係るある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について理解できる。</p>			
【行動目標(SB0)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について概説できる。 福祉分野に係るある法律、制度について概説できる。 教育分野に係るある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について概説できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
元永拓郎 編 『関係行政論 第2版』 遠見書房(2,800円+税)			
【参考書】			
<p>子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣(1,600円+税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版(3,200円+税)</p>			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	法・制度の基本と公認心理師	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	公認心理師の法的立場と多職種連携	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	公認心理師の各分野への展開	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	保健医療分野に関する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	保健医療分野に関する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	保健医療分野に関する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	教育分野に関する法律・制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	関係行政論	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師が関係する法律と制度について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 保健医療分野に係る法律、制度、 福祉分野に係る法律、制度、 教育分野に係る法律、制度 司法・犯罪分野に係る法律、制度、 産業・労働分野に係る法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。</p>			
【一般教育目標(GI0)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について理解できる。 福祉分野に係るある法律、制度について理解できる。 教育分野に係るある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について理解できる。</p>			
【行動目標(SB0)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について概説できる。 福祉分野に係るある法律、制度について概説できる。 教育分野に係るある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について概説できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
元永拓郎 編 『関係行政論 第2版』 遠見書房(2,800円+税)			
【参考書】			
<p>子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣(1,600円+税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版(3,200円+税)</p>			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	福祉分野に関する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	福祉分野に関する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	福祉分野に関する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	司法・犯罪分野に関する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	司法・犯罪分野に関する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野に関する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野に関する法律・制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	心理演習	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	93kxrpt
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 当科目履修までに、心理学概論、臨床心理学概論、発達心理学、社会・集団・家族心理学を理解していることが望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床現場を想定した実践的な演習となる。			
【講義概要】			
(目的) 本科目は、公認心理師養成のための必修科目である。 公認心理師に求められる教育領域並びに産業領域における心理支援について、具体的場を設定し演習を実施する。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3			
(方法) 講義、ロールプレイング、事例検討、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。			
【一般教育目標(GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技能を習得する。 ・心理支援に関する具体的場を設定した演習を体験する。 			
【行動目標(SBO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技術を説明できる。 ・公認心理師が行う様々な領域での心理支援について説明できる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
資料を配布。			
【参考書】			
下山晴彦・中嶋義文(2016)公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法・医学書院。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、実技20%、学習に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイや事例検討等への積極的参加、授業内または授業後に課題がある場合にはその内容が評価対象となる。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション・支援者としての姿勢 オリエンテーション・公認心理師としての職業倫理及び法的義務	演習	関連科目の復習をしておく。 配布資料を読んでおく。	240
3.4	職業倫理及び法的義務の理解(1) 模擬事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
5.6	職業倫理と法的義務の理解(2) 模擬事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
7.8	教育領域における心理支援(1) 教育領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく。	240
9.10	教育領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
11.12	教育領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
13.14	産業領域における心理支援(1) 産業領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく。	240
15	産業領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	全講義の復習をする。	240

リハビリテーション学科

【科目名】	心理演習	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	93kxrpt
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】		(メールアドレス) nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
(オフィスアワー) 12:00～15:00 (火・水曜日)			
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>当科目履修までに、心理学概論、臨床心理学概論、発達心理学、社会・集団・家族心理学を理解していることが望ましい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>臨床現場を想定した実践的な演習となる。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>本科目は、公認心理師養成のための必修科目である。 公認心理師に求められる医療領域並びに福祉領域における心理支援について、具体的場面を設定し演習を実施する。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>講義、ロールプレイング、事例検討、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技能を習得する。 ・心理支援に関する具体的場面を設定した演習を体験する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技術を説明できる。 ・公認心理師が行う様々な領域での心理支援について説明できる。 			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>教科書なし。毎回資料を配布する予定。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>下山晴彦・中嶋義文(2016)公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法・医学書院。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、実技20%、学習に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイや事例検討等への積極的参加、授業内または授業後に課題がある場合にはその内容が評価対象となる。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	福祉領域における心理支援(1) 福祉領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく	240
3.4	福祉領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
5.6	福祉領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
7.8	福祉領域における心理支援(4) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
9.10	医療領域における心理支援(1) 医療領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく	240
11.12	医療領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
13.14	教育領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
15	総括	演習	全講義の復習をする	240

リハビリテーション学科

【科目名】		食の心理学	【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	後期	【選択必修】			必修
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、食行動の基礎と食行動変容のプロセスを臨床的観点から解説します。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限り返却します。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>第一に食行動の基礎および食行動をはじめとする健康関連行動に関わる心理学的・行動科学的理論の理解を目標とする。第二に臨床現場における食行動変容の実際について、具体的な症例を対象としながら理解することを目標とする。</p>					
(方法)					
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。</p>					
【一般教育目標(GI0)】					
<p>心理学的・行動科学的観点から食行動に関する知識を習得するため、発達・学習・社会・臨床心理学等各領域の観点から食行動の基礎と臨床を理解する。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階による食行動の変化を説明できる ・食物の嗜好や嫌悪の獲得プロセスで学習理論が果たす役割を説明できる ・食行動の抑制、促進にかかわる社会文化的要因を説明できる ・食行動変容が起こるプロセスを理論を基に説明できる 					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>授業資料を毎回配布します。</p>					
【参考書】					
<p>今田 純雄 (編) / 現代心理学シリーズ16 食行動の心理学 / 培風館 / 1997年 / 1,870円 中島 義明他 (編) / たべる 食行動の心理学 (人間行動学講座) / 朝倉書店 / 1996年 / 3,850円</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・学問としての食行動とは ・発達の観点からみた食行動	講義	講義プリントの復習 各発達段階における食行動の特徴を理解する	120
3・4	・学習・動機づけの観点からの食行動	講義	講義プリントの復習 食物への嗜好、嫌悪が獲得される上で重要な学習理論を理解する	120
5・6	・社会文化的観点からの食行動	講義	講義プリントの復習 食行動が抑制あるいは促進される社会文化的要因を理解する	120
7・8	・食行動を中心とした健康関連行動についての理論	講義	講義プリントの復習 食行動を中心とした健康的な生活習慣を維持、阻害する要因に関する理論を理解する	120
9・10	・食行動の異常	講義	講義プリントの復習 摂食障害の病態を理解する	120
11・12	・糖尿病患者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義プリントの復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際の事例を用いながら、食行動が変容されるプロセスを理解する	120
13・14	・肥満者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義プリントの復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際の事例を用いながら、食行動が変容されるプロセスを理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】		精神障害生活支援論	【担当教員】	和田 剛宗、向田 怜史
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaiida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特にありません。 医療・福祉分野の話題、特に精神保健福祉分野についての講義を展開していきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
医療・福祉分野の就職を考えている学生は特に積極的に参加してください。 レポート・試験については原則として返却はしません。				
【講義概要】				
(目的)				
精神疾患をもつ方への支援や方法、制度について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2,3				
(方法)				
講義形式で行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
精神に疾患を抱えている方への生活支援や制度について理解する。				
【行動目標(SBO)】				
障害の定義について説明できる。 障害を抱えている当事者が利用する生活上の問題や現状について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
精神保健福祉士シリーズ8 精神障害者の生活支援システム[第3版]、弘文堂、2018年、2,700円(税別)				
【参考書】				
必要に応じて紹介します。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験、レポートを中心的な評価基準とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	35		10					45
	思考・推論・創造の力	35		10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	・精神障害者の生活支援とは何か 精神障害者とは 障害の概念について	講義	教科書P2-12の予習	30
3-4	・精神障害者の基本的理解 精神障害者の定義とは	講義	前回の復習 教科書P16-P30の予習	30
5-6	・精神疾患について 統合失調症・気分障害について ICDとDSMの違いについて	講義	前回の復習 精神疾患についての予習	30
7-8	・精神障害者の生活 精神障害者の生活実態と取り巻く環境について	講義	前回の復習 予習教科書P32-52を読んでおく	30
9-10	・精神障害者の生活と人権 権利擁護・居宅支援・就労支援について	講義 課題	前回の復習 予習教科書P54-109、P112-139を読んでおく	30
11-12	・精神障害者への地域でのサポート 自助グループ・地域支援について	講義	前回の復習 予習教科書P142-165を読んでおく	30
13-14	・精神障害者への地域でのサポート 医療機関や行政機関の役割について	講義	前回の復習 予習教科書P166-183を読んでおく	30
15	・今までの振り返り	講義	前回の復習	15

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション心理学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修 nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 (オフィスアワー) 12時00分～15時00分(火・水曜日)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
リハビリテーション概論について知識を有していること。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。 毎回講義後に、小テストを実施する。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実践を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1,2,3				
(方法)				
講義およびディスカッション。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
【行動目標(SBO)】				
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない。テキストとなる資料を配布する。				
【参考書】				
講義中随時指示する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 毎回講義後に実施する小テストと学期末提出の課題レポートを中心に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			40	40				20	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学とは	講義	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーション心理学の歩み	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
5-6	障害の構造と理解	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
7-8	障害受容と心理社会的要因(1)障害の種類	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
9-10	障害受容と心理社会的要因(2)発達段階	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
11-12	障害受容と心理社会的要因(3)当事者家族	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
13-14	障害受容と心理社会的要因(4)社会・文化	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション心理学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nishimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12時00分～15時00分(火・水曜日)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>リハビリテーション概論について知識を有していること。 この科目は臨床経験を有する教員が担当する実務経験者対応科目である。経験に基づいた知識と技術を教示し、将来の臨床業務に有用な講義を行う。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。 毎回講義後に、小テストを実施する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実践を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1,2,3</p>				
(方法)				
講義およびディスカッション。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な、障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
【行動目標(SBO)】				
<p>リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない				
【参考書】				
講義中随時指示する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 毎回講義内で行う成果発表と小レポート、学期末課題レポートを中心に評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	40				100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学の専門性(1) グループワーク	講義	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーションの専門性(2) グループ発表	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
5-6	障害児者支援：カウンセリング実践(1)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
7-8	障害児者支援：カウンセリング実践(2)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
9-10	障害児者支援：カウンセリング実践(3)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
11-12	障害児者支援：カウンセリング実践(4)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
13-14	障害児者支援：カウンセリング実践(5)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		ポジティブ心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じます。</p> <p>ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>ポジティブ心理学の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店(1,800円+税)</p>				
【参考書】				
<p>堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社(2,400円+税)</p> <p>J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房(2,700円+税)</p> <p>イローナ・ボニウエル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会(1,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	ポジティブ心理学とは何か	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	幸福感	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ウェルビーイング	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ポジティブ感情	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	フロー体験	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	楽観主義(オプティミズム)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	情動知能	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		ポジティブ心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じます。</p> <p>ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>ポジティブ心理学の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店(1,800円+税)</p>				
【参考書】				
<p>堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社(2,400円+税)</p> <p>J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房(2,700円+税)</p> <p>イローナ・ボニウエル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会(1,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	自己決定理論	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	セルフ・コンパッション	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ポジティブな特性	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	レジリエンス	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心的外傷後成長 (PTG)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	生きる意味	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ポジティブな組織	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	認知行動療法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、認知行動療法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>認知行動療法の知識・技術を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。</p> <p>認知行動療法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>認知行動療法の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>認知行動療法の技術を実践できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>竹田伸也 『対人援助職に効く 認知行動療法ワークショップ』 中央法規出版(2,200円+税)</p>				
【参考書】				
<p>竹田伸也 『認知行動療法による対人援助スキルアップ・マニュアル』 遠見書房(2,200円+税)</p> <p>下山晴彦(編) 『認知行動療法を学ぶ』 金剛出版(3,600円+税)</p> <p>坂野雄二(監修) 『実践家のための認知行動療法テクニックガイド』 北大路書房(2,500円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	対人援助に必要な力量とは	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	認知行動療法が支援の力量を高めるわけ	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	行動レンズを使って相手を理解する	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	認知レンズを使って相手を理解する	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	相手をアセスメントする力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	相手に合った支援方針を立てる力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	相手の変化を促す援助技術の力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	さまざまな場面に認知行動療法を応用する力量を高める	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 「産業カウンセラー」心理面接演習		【担当教員】 豊島 信子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	spooky.take@gmail.com (代表：小林)
【単位数】 8	【コマ数】 70	(オフィスアワー) 協会講師は来校時に対応
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻において目標のひとつとなる、日本産業カウンセラー協会が実施する「産業カウンセラー試験」の受験資格要件として単位の取得が必須です。 主たる講師は日本産業カウンセラー協会からお招きします。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>合計104時間におよぶりハビリテーション心理学専攻における重要な面接実習です。 相当の意欲をもって望んでください。 実習を通して生きた面接(カウンセリング)の技法を身につけることができますでしょう。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>対人支援の手法のひとつである面接(カウンセリング)を実習を通して体験し、理解・施行の初歩を身につける。 カウンセラーの基本となる「来談者中心療法」の人間観を身につける。また、面接の基本となる「傾聴」の必要性、意義を理解し、基本的態度(無条件の肯定的配慮、共感的理解、自己一致)および技法を身につける。 また、実習を通して、自己に対する理解を深め、他者を理解するためには自己の理解を深めることが必要であることを学ぶ。</p> <p>(方法)</p> <p>体験学習を原則とする。聴き役(カウンセラー役)、話し手(クライアント役)、客観的な立場の観察者(オブザーバー)の役割に分かれて、受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返す。適宜、対話分析、逐語記録検討、事例検討などを交え、必要に応じて補足講義を行う。 この体験学習を通じて、「傾聴」の基本的態度と技法の修得を目指す。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>面接(カウンセリング)技法を習得するために、傾聴の必要性、その方法・実際を理解する。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>傾聴の必要性、効果を説明できる。 傾聴の基本的態度を身につける。 実習を通して傾聴を体験する。 実習を通して自己理解を深め、自己の内面について語れるようになる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>産業カウンセラー養成講座テキスト</p>		
<p>【参考書】</p> <p>特になし。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				15		65		20	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			15		65		20	100

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
【01週】 1 2 3 4	面接実習：導入期出会いのワークや自己理解を深めるワークを通じて、本講座を受講する学生同士が親しくなり、体験学習する意味を理解し、実際のカウンセリングのデモンストレーションをみてカウンセリングのイメージづくりをします。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	予習は必要ありません。受講後は講義中に配付された資料で復習してください。	60
【02週】 5 6 7 8	面接実習：初期（1）傾聴の基本的態度と技法について、および面接実習の進め方についてのガイダンスを受けて、受講者同士の7～10分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に産業カウンセラー養成講座テキストの第3章「傾聴の意義と技法」に目を通し、事後は講義中に配付された資料で復習してください。	60
【03週】 9 10 11 12	面接実習：初期（2）10分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【04週】 13 14 15 16	面接実習：初期（3）10～15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【05週】 17 18 19 20	面接実習：初期（4）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【06週】 21 22 23 24	面接実習：中期（1）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【07週】 25 26 27 28	面接実習：中期（2）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【08週】 29 30 31 32	面接実習：中期（1）カウンセリングのプロセスについてガイダンスを受けて、20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析などのワークを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60

33 34 35 36	【09週】 面接実習：中期（2）前回と同じ受講者同士で継続の20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
37 38 39 40	【10週】 面接実習：中期（3）前回と同じ受講者同士で継続の20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
41 42 43 44	【11週】 面接実習：後期（1）DVDの視聴による事例検討を行います。15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析などのワークを交えます。	実習/担当教員： 豊島信子、阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60
45 46 47 48	【12週】 面接実習：後期（2）自らの面接の逐語記録の検討を行います。また15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
49 50 51 52	【13週】 面接実習：後期（3）自らの面接の逐語記録の検討を行います。また15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
53 54 55 56	【14週】 面接実習：後期（1）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
57 58 59 60	【15週】 面接実習：後期（2）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
61 62 63	【16週】 面接実習：後期（3）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
64 65 66 67	【17週】 面接実習：修了期（1）総合演習として、実際の企業のなかで起こりうるケースの事例検討を行います。	実習/担当教員： 豊島信子、阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60
68 69 70	【18週】 面接実習：修了期（2）総まとめとしての、講座全体のふりかえりのワーク、自己理解のワークを行います。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60

リハビリテーション学科

【科目名】		アート・セラピー		【担当教員】	的場 已知子、長谷川 千種
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	4-26-1020-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
試験結果・レポートは原則として返却しません。					
【講義概要】					
(目的)					
アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、対人援助者としての在り方や対象者へ関わり方を学ぶことができる。					
・当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1					
(方法)					
パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるように、実際のセッション体験を取り入れた講義を行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン・センタード表現アートセラピーの理論と実際を体験して理解する。					
【行動目標(SBO)】					
パーソン・センタード表現アートセラピーを将来の対人援助においてどのように応用することができるか考察できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義の内容に合わせて、プリントを配布します。					
【参考書】					
必要に応じて紹介します。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価規準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・出席点は評価に含みません。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力			60					60
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	PCA表現アートセラピーセッション体験(1) ・絵を中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	芸術療法とは何か アートセラピーにおける素材	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	PCA表現アートセラピーセッション体験(2) ・粘土を中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	ダンスムーブメントセラピーとは ドラマセラピーとは	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	PCA表現アートセラピーセッション体験(3) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	表現アートセラピーの適用(1) ・精神科クリニックと高齢者施設	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	表現アートセラピーの適用(2) ・高齢者へのセッション	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	表現アートセラピーの適用(3) ・高齢者へのセッション	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		30					0	30
	思考・推論・創造の力			60				0	60
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	化粧の心理学(1)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	化粧の心理学(2)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	化粧の心理学(3)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	高齢者への化粧療法(1)	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	高齢者への化粧療法(2) セルフメイクアップ	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	高齢者への化粧療法(3) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	高齢者への化粧療法(4) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	まとめ	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻3年生対象の必修科目です。 3年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に関心をもっていてください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>3年次となり、各自の将来像をある程度自覚する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>ゼミ活動を通じて、これまで学修してきたリハビリテーション心理学を各自の将来へ向けてどのように展開していくのか、一定のイメージを確立する。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 各自が関心あるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼン発表する。 その後、メンバー全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。 「公認心理師」が活躍している領域を知る。 自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自身の関心のある事柄について、自分で情報・文献を検索することができる。 について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。 文献検索等の情報集やメンバーとのディスカッションを通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力を身につける。 本科目を通して、現代の社会・人間が抱える課題に対して、心理学がいかに貢献できるのかが、ある程度イメージできる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：互いに自己紹介をする。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決める。			
3-6 一例	Aグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定する。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それを1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程度質疑応答して、理解を深める。		各自、関心のある事柄について、テーマを設定する。各自で情報・文献を検索し、まとめる。	3-14で、各人1回の担当時に180分程度
7-10 一例	Bグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定する。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それを1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程度質疑応答して、理解を深める。			
11-14 一例	Cグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定する。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それを1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイメージし、各自の気づきを述べる。			

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻3年生対象の必修科目です。 3年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に興味をもっていてください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>3年次となり、各自の将来像をある程度自覚する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年」とは異なる観点で、自らの進路・将来像をこれまで以上に明確にしていく。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 ボランティア活動を企画し、メンバーで具体的な計画を立案し、実行する。その後、気づき等を発表する。 関心あるテーマを取り上げ、グループで調査し、その結果を発表して、解決策を見出すべく全員でディスカッションを行う。</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。 「公認心理師」が活躍している領域を知る。 自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。 グループでのボランティア等の活動を通じて、チームでの協力・連携の姿勢を身につける。 ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。 本科目を通して、自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20	40		40		100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10		20		30
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：自己紹介。グループ分けの調整。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決める。			
3-6 一例	1)-1 ボランティア活動 各グループで、関心のあるボランティア活動について、行動を立案し、実行する。		ボランティアの準備 60分 活動のまとめ 120分	3-6で、各グループ 180分程度
7-8 一例	1)-2 ボランティア活動の発表 1)-1で実践した成果をまとめる。それを1グループ 20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑 応答して、理解を深める。			
9-12 一例	2)-1 調査活動 各グループで関心のある簡単な調査が可能な事柄 について、テーマを設定する。グループで情報・ 文献を検索し、調査法を立案し、実行する。		調査の準備 60分 調査結果のまとめ 120分	9-12で、各グループ 180分程度
13-14 一例	2)-2 調査活動の発表 2)-1で実施した調査結果をまとめ、発表する。それを1グループ20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイメージし、自身の将来像、夢を述べる。			

【科目名】	心理測定法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			選択
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。					
【講義概要】					
(目的)					
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 国家試験の受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる測定法と統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1,R-2					
(方法)					
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法 に向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。					
【一般教育目標(GIO)】					
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。					
【行動目標(SBO)】					
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回の授業で資料を配布する					
【参考書】					
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	120
3・4	測定の水準(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	120
5・6	精神物理学的測定法(1)(刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異)	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	120
7・8	精神物理学的測定法(2)(調整法、極限法)	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	120
9・10	精神物理学的測定法(3)(恒常法、マグニチュード推定法)	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	120
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	120
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法		【担当教員】	中川 明仁	
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】			選択
【単位数】	1	【コマ数】			15
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 国家試験の受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。 心理学で用いられる測定法と統計手法 統計に関する基礎的な知識 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1,R-2</p>					
(方法)					
<p>心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身につけるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身につけるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。</p>					
【行動目標(SBO)】					
<p>尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>毎回の授業で資料を配布する</p>					
【参考書】					
<p>山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	尺度構成法(1)直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2)間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセスを説明できる	120
7・8	心理統計学(1)度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2)散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3)共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4)統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

リハビリテーション学科

【科目名】	関係行政論	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師が関係する法律と制度について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 保健医療分野に係る法律、制度、 福祉分野に係る法律、制度、 教育分野に係る法律、制度 司法・犯罪分野に係る法律、制度、 産業・労働分野に係る法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。</p>			
【一般教育目標(GI0)】			
<p>保健医療分野に係る法律、制度について理解できる。 福祉分野に係る法律、制度について理解できる。 教育分野に係る法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に係る法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に係る法律、制度について理解できる。</p>			
【行動目標(SB0)】			
<p>保健医療分野に係る法律、制度について概説できる。 福祉分野に係る法律、制度について概説できる。 教育分野に係る法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に係る法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に係る法律、制度について概説できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
元永拓郎 編 『関係行政論 第2版』 遠見書房(2,800円+税)			
【参考書】			
<p>子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣(1,600円+税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版(3,200円+税)</p>			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	法・制度の基本と公認心理師	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	公認心理師の法的立場と多職種連携	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	公認心理師の各分野への展開	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	保健医療分野に関係する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	保健医療分野に関係する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	保健医療分野に関係する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	教育分野に関係する法律・制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	関係行政論	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師が関係する法律と制度について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の ~ を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 保健医療分野に係る法律、制度、 福祉分野に係る法律、制度、 教育分野に係る法律、制度 司法・犯罪分野に係る法律、制度、 産業・労働分野に係る法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。</p>			
【一般教育目標(GI0)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について理解できる。 福祉分野に係るある法律、制度について理解できる。 教育分野に係るある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について理解できる。</p>			
【行動目標(SB0)】			
<p>保健医療分野に係るある法律、制度について概説できる。 福祉分野に係るある法律、制度について概説できる。 教育分野に係るある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に係るある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に係るある法律、制度について概説できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
元永拓郎 編 『関係行政論 第2版』 遠見書房(2,800円+税)			
【参考書】			
<p>子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣(1,600円+税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版(3,200円+税)</p>			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	福祉分野に関する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	福祉分野に関する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	福祉分野に関する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	司法・犯罪分野に関する法律・制度(1)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	司法・犯罪分野に関する法律・制度(2)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野に関する法律・制度(3)	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野に関する法律・制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	心理演習	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	93kxrpt
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 当科目履修までに、心理学概論、臨床心理学概論、発達心理学、社会・集団・家族心理学を理解していることが望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床現場を想定した実践的な演習となる。			
【講義概要】			
(目的) 本科目は、公認心理師養成のための必修科目である。 公認心理師に求められる教育領域並びに産業領域における心理支援について、具体的場を設定し演習を実施する。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3			
(方法) 講義、ロールプレイング、事例検討、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。			
【一般教育目標(GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技能を習得する。 ・心理支援に関する具体的場を設定した演習を体験する。 			
【行動目標(SBO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技術を説明できる。 ・公認心理師が行う様々な領域での心理支援について説明できる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
資料を配布。			
【参考書】			
下山晴彦・中嶋義文(2016)公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法・医学書院。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、実技20%、学習に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイや事例検討等への積極的参加、授業内または授業後に課題がある場合にはその内容が評価対象となる。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション・支援者としての姿勢 オリエンテーション・公認心理師としての職業倫理及び法的義務	演習	関連科目の復習をしておく。 配布資料を読んでおく。	240
3.4	職業倫理及び法的義務の理解(1) 模擬事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
5.6	職業倫理と法的義務の理解(2) 模擬事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
7.8	教育領域における心理支援(1) 教育領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく。	240
9.10	教育領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
11.12	教育領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく。	240
13.14	産業領域における心理支援(1) 産業領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく。	240
15	産業領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	全講義の復習をする。	240

リハビリテーション学科

【科目名】	心理演習	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	93kxrpt
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>当科目履修までに、心理学概論、臨床心理学概論、発達心理学、社会・集団・家族心理学を理解していることが望ましい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>臨床現場を想定した実践的な演習となる。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>本科目は、公認心理師養成のための必修科目である。 公認心理師に求められる医療領域並びに福祉領域における心理支援について、具体的場面を設定し演習を実施する。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>講義、ロールプレイング、事例検討、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技能を習得する。 ・心理支援に関する具体的場面を設定した演習を体験する。 			
【行動目標(SBO)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に求められる支援者としての基本的知識及び技術を説明できる。 ・公認心理師が行う様々な領域での心理支援について説明できる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
教科書なし。毎回資料を配布する予定。			
【参考書】			
下山晴彦・中嶋義文(2016)公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法。医学書院。			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、実技20%、学習に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイや事例検討等への積極的参加、授業内または授業後に課題がある場合にはその内容が評価対象となる。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	福祉領域における心理支援(1) 福祉領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく	240
3.4	福祉領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
5.6	福祉領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
7.8	福祉領域における心理支援(4) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
9.10	医療領域における心理支援(1) 医療領域における心理支援とは	演習	配布資料を読んでおく	240
11.12	医療領域における心理支援(2) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
13.14	教育領域における心理支援(3) ロールプレイング並びに設定事例の検討	演習	配布資料を読んでおく	240
15	総括	演習	全講義の復習をする	240

リハビリテーション学科

【科目名】 心理実習 (80 時間以上)		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、中川 明仁
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com,nishimura@nur05.onmicrosoft.com,ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 2	【コマ数】 16	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の履修条件は、「心理演習 〃 の単位を修得していること」である ・オリエンテーションまたは学内実習を欠席した場合、学外実習を認めない。やむを得ない場合は事前に連絡すること ・オリエンテーション時には、実習に行く時と同様の身だしなみ(毛髪、爪、服装など)をすること <p>身だしなみによっては、オリエンテーションや実習の参加を認めない場合がある 本科目は、実務経験のある教員が務めます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>適宜、プリントを配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義を把握すること ・オリエンテーション、学内・学外実習は遅刻・早退厳禁(20分を超える場合または20分以内が累積3回は欠席とみなす) ・見学実習施設の順序や数は変更となる場合がある。 		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための選択科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習分野や施設が持つ役割や存在意義などを理解・学修する ・要支援者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解等について学修する <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3、RP-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>実習は学内実習と学外実習で構成 学内実習はオリエンテーションを含み、実習前及び実習後に学内にて実施する 学外実習は県内の施設にて実施する</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>公認心理師として働くうえで必要な基本事項を学ぶ。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>下記、(ア)・(イ)・(ウ)について体験的に理解する。</p> <p>(ア)要支援者へのチームアプローチ (イ)多職種連携及び地域連携 (ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>配布資料(オリエンテーションで配布)及び実習要綱</p>		
<p>【参考書】</p> <p>鈴木伸一(編集代表) 『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』 北大路書房(2,700円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20	30			50	100
評価指標	取り込む力・知識			5				20	25
	思考・推論・創造の力			10	10			15	35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力			5	20				25
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 (4h)	オリエンテーション 主要5分野について 見学実習を行う分野について	実習		
3-6 (16h)	実習分野に関する学内実習 ・基本事項の理解 1) 要支援者へのチームアプローチ、2) 多職種連携及び地域連携、3) 職業倫理及び法的義務 ・事前ワーク	実習		
7-10 (8h)	保健医療分野における施設の見学実習 保健医療機関の特色、目的、機能、対象者、心理支援の位置づけ、チームアプローチ、多職種連携と地域連携、職業倫理と法的義務について理解する	実習		
11-14 (8h)	教育分野における施設の見学実習 教育機関の特色、目的、機能、対象者、心理支援の位置づけ、チームアプローチ、多職種連携と地域連携、職業倫理と法的義務について理解する	実習		
15-16 (8h)	見学施設に関する事後学習 ・個人での振り返り ・グループでの振り返り ・課題ワーク ・レポート提出	実習		

リハビリテーション学科

【科目名】 心理実習 (80 時間以上)		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、中川 明仁
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com,nishimura@nur05.onmicrosoft.com,ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 2	【コマ数】 18	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金)
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の履修条件は、「心理演習 〃 の単位を修得していること」である ・オリエンテーションまたは学内実習を欠席した場合、学外実習を認めない。やむを得ない場合は事前に連絡すること ・オリエンテーション時には、実習に行く時と同様の身だしなみ(毛髪、爪、服装など)をすること <p>身だしなみによっては、オリエンテーションや実習の参加を認めない場合がある 本科目は、実務経験のある教員が務めます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>適宜、プリントを配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義を把握すること ・オリエンテーション、学内・学外実習は遅刻・早退厳禁(20分を超える場合または20分以内が累積3回は欠席とみなす) ・見学実習施設の順序や数は変更となる場合がある。 		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための選択科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習分野や施設が持つ役割や存在意義などを理解・学修する ・要支援者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解等について学修する <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3、RP-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>実習は学内実習と学外実習で構成 学内実習はオリエンテーションを含み、実習前及び実習後に学内にて実施する 学外実習は県内の施設にて実施する</p>		
<p>【一般教育目標(GI0)】</p> <p>公認心理師として働くうえで必要な基本事項を学ぶ。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>下記、(ア)・(イ)・(ウ)について体験的に理解する。</p> <p>(ア)要支援者へのチームアプローチ (イ)多職種連携及び地域連携 (ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>配布資料(オリエンテーションで配布)及び実習要綱</p>		
<p>【参考書】</p> <p>鈴木伸一(編集代表) 『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』 北大路書房(2,700円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。</p>		

リハビリテーション学科

【科目名】		精神障害生活支援論	【担当教員】	和田 剛宗、向田 怜史
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaiida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特にありません。 医療・福祉分野の話題、特に精神保健福祉分野についての講義を展開していきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
医療・福祉分野の就職を考えている学生は特に積極的に参加してください。 レポート・試験については原則として返却はしません。				
【講義概要】				
(目的)				
精神疾患をもつ方への支援や方法、制度について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2,3				
(方法)				
講義形式で行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
精神に疾患を抱えている方への生活支援や制度について理解する。				
【行動目標(SBO)】				
障害の定義について説明できる。 障害を抱えている当事者が利用する生活上の問題や現状について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
精神保健福祉士シリーズ8 精神障害者の生活支援システム[第3版]、弘文堂、2018年、2,700円(税別)				
【参考書】				
必要に応じて紹介します。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験、レポートを中心的な評価基準とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	35		10					45
	思考・推論・創造の力	35		10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	・精神障害者の生活支援とは何か 精神障害者とは 障害の概念について	講義	教科書P2-12の予習	30
3-4	・精神障害者の基本的理解 精神障害者の定義とは	講義	前回の復習 教科書P16-P30の予習	30
5-6	・精神疾患について 統合失調症・気分障害について ICDとDSMの違いについて	講義	前回の復習 精神疾患についての予習	30
7-8	・精神障害者の生活 精神障害者の生活実態と取り巻く環境について	講義	前回の復習 予習教科書P32-52を読んでおく	30
9-10	・精神障害者の生活と人権 権利擁護・居宅支援・就労支援について	講義 課題	前回の復習 予習教科書P54-109、P112-139を読んでおく	30
11-12	・精神障害者への地域でのサポート 自助グループ・地域支援について	講義	前回の復習 予習教科書P142-165を読んでおく	30
13-14	・精神障害者への地域でのサポート 医療機関や行政機関の役割について	講義	前回の復習 予習教科書P166-183を読んでおく	30
15	・今までの振り返り	講義	前回の復習	15

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション心理学	【担当教員】		西村 信子
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12時00分～15時00分(火・水曜日)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
リハビリテーション概論について知識を有していること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。 毎回講義後に、小テストを実施する。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1,2,3					
(方法)					
講義およびディスカッション。					
【一般教育目標(GIO)】					
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。					
【行動目標(SBO)】					
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定しない。テキストとなる資料を配布する。					
【参考書】					
講義中随時指示する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 毎回講義後に実施する小テストと学期末提出の課題レポートを中心に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	40				20	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	リハビリテーション心理学とは	講義	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーション心理学の歩み	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
5-6	障害の構造と理解	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
7-8	障害受容と心理社会的要因(1)障害の種類	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
9-10	障害受容と心理社会的要因(2)発達段階	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
11-12	障害受容と心理社会的要因(3)当事者家族	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
13-14	障害受容と心理社会的要因(4)社会・文化	講義	配布資料を読む、小テストを提出	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		リハビリテーション心理学	【担当教員】	西村 信子
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nishimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12時00分～15時00分(火・水曜日)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>リハビリテーション概論について知識を有していること。 この科目は臨床経験を有する教員が担当する実務経験者対応科目である。経験に基づいた知識と技術を教示し、将来の臨床業務に有用な講義を行う。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。 毎回講義後に、小テストを実施する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1,2,3</p>				
(方法)				
講義およびディスカッション。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な、障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
【行動目標(SBO)】				
<p>リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない				
【参考書】				
講義中随時指示する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 毎回講義内で行う成果発表と小レポート、学期末課題レポートを中心に評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	40				100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学の専門性(1) グループワーク	講義	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーションの専門性(2) グループ発表	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
5-6	障害児者支援：カウンセリング実践(1)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
7-8	障害児者支援：カウンセリング実践(2)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
9-10	障害児者支援：カウンセリング実践(3)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
11-12	障害児者支援：カウンセリング実践(4)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
13-14	障害児者支援：カウンセリング実践(5)	講義	配布資料を読む、小レポートを提出	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】		ポジティブ心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30(月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じます。</p> <p>ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>ポジティブ心理学の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店(1,800円+税)</p>				
【参考書】				
<p>堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社(2,400円+税)</p> <p>J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房(2,700円+税)</p> <p>イローナ・ボニウエル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会(1,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	ポジティブ心理学とは何か	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	幸福感	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ウェルビーイング	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ポジティブ感情	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	フロー体験	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	楽観主義(オプティミズム)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	情動知能	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】		ポジティブ心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30(月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じます。</p> <p>ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GI0)】				
<p>ポジティブ心理学の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店(1,800円+税)</p>				
【参考書】				
<p>堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社(2,400円+税)</p> <p>J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房(2,700円+税)</p> <p>イローナ・ボニウエル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会(1,600円+税)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	自己決定理論	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	セルフ・コンパッション	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ポジティブな特性	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	レジリエンス	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心的外傷後成長 (PTG)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	生きる意味	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ポジティブな組織	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	認知行動療法		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】				
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、認知行動療法について講じていきます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
<p>(目的)</p> <p>認知行動療法の知識・技術を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2、R-1,2,3</p> <p>(方法)</p> <p>教科書の内容に沿って講じる。</p> <p>認知行動療法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>認知行動療法の理論を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>認知行動療法の技術を実践できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>竹田伸也 『対人援助職に効く 認知行動療法ワークショップ』 中央法規出版 (2,200円 + 税)</p>				
【参考書】				
<p>竹田伸也 『認知行動療法による対人援助スキルアップ・マニュアル』 遠見書房 (2,200円 + 税)</p> <p>下山晴彦 (編) 『認知行動療法を学ぶ』 金剛出版 (3,600円 + 税)</p> <p>坂野雄二 (監修) 『実践家のための認知行動療法テクニックガイド』 北大路書房 (2,500円 + 税)</p>				
【評価に関わる情報】				
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	対人援助に必要な力量とは	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	認知行動療法が支援の力量を高めるわけ	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	行動レンズを使って相手を理解する	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	認知レンズを使って相手を理解する	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	相手をアセスメントする力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	相手に合った支援方針を立てる力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	相手の変化を促す援助技術の力量を高める	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	さまざまな場面に認知行動療法を応用する力量を高める	講義	今までの復習をする。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】 「産業カウンセラー」心理面接演習		【担当教員】 豊島 信子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	spooky.take@gmail.com (代表：小林)
【単位数】 8	【コマ数】 70	(オフィスアワー) 協会講師は来校時に対応
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻において目標のひとつとなる、日本産業カウンセラー協会が実施する「産業カウンセラー試験」の受験資格要件として単位の取得が必須です。 主たる講師は日本産業カウンセラー協会からお招きします。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>合計104時間におよぶりハビリテーション心理学専攻における重要な面接実習です。 相当の意欲をもって望んでください。 実習を通して生きた面接(カウンセリング)の技法を身につけることができますでしょう。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>対人支援の手法のひとつである面接(カウンセリング)を実習を通して体験し、理解・施行の初歩を身につける。 カウンセラーの基本となる「来談者中心療法」の人間観を身につける。また、面接の基本となる「傾聴」の必要性、意義を理解し、基本的態度(無条件の肯定的配慮、共感的理解、自己一致)および技法を身につける。 また、実習を通して、自己に対する理解を深め、他者を理解するためには自己の理解を深めることが必要であることを学ぶ。</p> <p>(方法)</p> <p>体験学習を原則とする。聴き役(カウンセラー役)、話し手(クライアント役)、客観的な立場の観察者(オブザーバー)の役割に分かれて、受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返す。適宜、対話分析、逐語記録検討、事例検討などを交え、必要に応じて補足講義を行う。 この体験学習を通じて、「傾聴」の基本的態度と技法の修得を目指す。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>面接(カウンセリング)技法を習得するために、傾聴の必要性、その方法・実際を理解する。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>傾聴の必要性、効果を説明できる。 傾聴の基本的態度を身につける。 実習を通して傾聴を体験する。 実習を通して自己理解を深め、自己の内面について語れるようになる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>産業カウンセラー養成講座テキスト</p>		
<p>【参考書】</p> <p>特になし。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				15		65		20	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			15		65		20	100

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
【01週】 1 2 3 4	面接実習：導入期出会いのワークや自己理解を深めるワークを通じて、本講座を受講する学生同士が親しくなり、体験学習する意味を理解し、実際のカウンセリングのデモンストレーションをみてカウンセリングのイメージづくりをします。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	予習は必要ありません。受講後は講義中に配付された資料で復習してください。	60
【02週】 5 6 7 8	面接実習：初期（1）傾聴の基本的態度と技法について、および面接実習の進め方についてのガイダンスを受けて、受講者同士の7～10分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に産業カウンセラー養成講座テキストの第3章「傾聴の意義と技法」に目を通し、事後は講義中に配付された資料で復習してください。	60
【03週】 9 10 11 12	面接実習：初期（2）10分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【04週】 13 14 15 16	面接実習：初期（3）10～15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【05週】 17 18 19 20	面接実習：初期（4）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【06週】 21 22 23 24	面接実習：中期（1）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【07週】 25 26 27 28	面接実習：中期（2）15分程度の受講者同士の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
【08週】 29 30 31 32	面接実習：中期（1）カウンセリングのプロセスについてガイダンスを受けて、20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析などのワークを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60

33 34 35 36	【09週】 面接実習：中期（2）前回と同じ受講者同士で継続の20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
37 38 39 40	【10週】 面接実習：中期（3）前回と同じ受講者同士で継続の20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
41 42 43 44	【11週】 面接実習：後期（1）DVDの視聴による事例検討を行います。15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析などのワークを交えます。	実習 / 担当教員： 豊島信子、阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60
45 46 47 48	【12週】 面接実習：後期（2）自らの面接の逐語記録の検討を行います。また15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
49 50 51 52	【13週】 面接実習：後期（3）自らの面接の逐語記録の検討を行います。また15分～20分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
53 54 55 56	【14週】 面接実習：後期（1）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
57 58 59 60	【15週】 面接実習：後期（2）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
61 62 63	【16週】 面接実習：後期（3）実際のカウンセリングに近い40分程度の面接とそのふりかえりを繰り返し行います。必要に応じて応答練習、対話分析、自己理解のワークなどを交えます。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習での自己の聴き役の課題の確認とセルフチェックを行い、録音した音声を聴取して感想を書き留めてください	60
64 65 66 67	【17週】 面接実習：修了期（1）総合演習として、実際の企業のなかで起こりうるケースの事例検討を行います。	実習 / 担当教員： 豊島信子、阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60
68 69 70	【18週】 面接実習：修了期（2）総まとめとしての、講座全体のふりかえりのワーク、自己理解のワークを行います。	実習 担当教員： 豊島信子 阿部あゆみ	事前に前回の講義で使用したワークシートを確認し、事後は、実習内容を復習してください。	60

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		30					0	30
	思考・推論・創造の力			60				0	60
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	化粧の心理学(1)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	化粧の心理学(2)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	化粧の心理学(3)	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	高齢者への化粧療法(1)	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	高齢者への化粧療法(2) セルフメイクアップ	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	高齢者への化粧療法(3) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	高齢者への化粧療法(4) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	まとめ	講義(配信)	(復習) 講義内容を理解する	30分

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生対象の必修科目です。 4年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に興味をもっていてください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年」とは異なる観点で、自らの進路・将来像をこれまで以上に明確にしていく。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 ボランティア活動を企画し、メンバーで具体的な計画を立案し、実行する。その後、気づき等を発表する。 関心あるテーマを取り上げ、グループで調査し、その結果を発表して、解決策を見出すべく全員でディスカッションを行う。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。 「公認心理師」が活躍している領域を知る。 自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。 グループでのボランティア等の活動を通じて、チームでの協力・連携の姿勢を身につける。 ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。 本科目を通して、自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20	40		40		100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10		20		30
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：自己紹介。グループ分けの調整。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決める。			
3-6 一例	1)-1 ボランティア活動 各グループで、関心のあるボランティア活動について、行動を立案し、実行する。		ボランティアの準備 60分 活動のまとめ 120分	3-6で、各グループ 180分程度
7-8 一例	1)-2 ボランティア活動の発表 1)-1で実践した成果をまとめる。それを1グループ 20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑 応答して、理解を深める。			
9-12 一例	2)-1 調査活動 各グループで関心のある簡単な調査が可能な事柄 について、テーマを設定する。グループで情報・ 文献を検索し、調査法を立案し、実行する。		調査の準備 60分 調査結果のまとめ 120分	9-12で、 各グループ 180分程度
13-14 一例	2)-2 調査活動の発表 2)-1で実施した調査結果をまとめ、発表する。それを1グループ20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイメージし、自身の将来像、夢を述べる。			

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生対象の必修科目です。 4年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に興味をもっていてください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>「リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年」とは異なる観点で、自らの進路・将来像をこれまで以上に明確にしていく。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 ボランティア活動を企画し、メンバーで具体的な計画を立案し、実行する。その後、気づき等を発表する。 関心あるテーマを取り上げ、グループで調査し、その結果を発表して、解決策を見出すべく全員でディスカッションを行う。</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>心理学を学修している自分が、卒業後どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。 「公認心理師」が活躍している領域を知る。 自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。 グループでのボランティア等の活動を通じて、チームでの協力・連携の姿勢を身につける。 ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。 本科目を通して、自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20	40		40		100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10		20		30
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：自己紹介。グループ分けの調整。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決める。			
3-6 一例	1)-1 ボランティア活動 各グループで、関心のあるボランティア活動について、行動を立案し、実行する。		ボランティアの準備 60分 活動のまとめ 120分	3-6で、各グループ 180分程度
7-8 一例	1)-2 ボランティア活動の発表 1)-1で実践した成果をまとめる。それを1グループ 20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑 応答して、理解を深める。			
9-12 一例	2)-1 調査活動 各グループで関心のある簡単な調査が可能な事柄 について、テーマを設定する。グループで情報・ 文献を検索し、調査法を立案し、実行する。		調査の準備 60分 調査結果のまとめ 120分	9-12で、各グループ 180分程度
13-14 一例	2)-2 調査活動の発表 2)-1で実施した調査結果をまとめ、発表する。それを1グループ20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイメージし、卒業後の自身の将来像、夢を述べる。			

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学特講・A		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生で就職希望の学生が対象の科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は1)を希望する学生を対象とする科目です。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にしていく。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 企業研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接練習、就職活動の振り返り。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にする。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>企業研究をすることができる。 履歴書を作成することができる。 就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に生かす方法を考えることができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、発表、ポートフォリオなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					30		50	20	100
評価指標	取り込む力・知識						20	10	30
	思考・推論・創造の力						20		20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10	10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2 一例	企業研究 働きたい企業を書籍やインターネットで検索し、その概要をまとめる。		企業研究を行う。	240分
3-6 一例	履歴書作成 働きたい企業へ提出する履歴書を作成する。		履歴書を作成する。	240分
7-10 一例	筆記試験対策 働きたい企業が課す筆記試験に対応できるよう、対策本などを利用して準備を行う。		筆記試験に向けて準備を行う。	240分
11-14 一例	面接練習 働きたい企業での面接に向けて、ゼミ担当教員を面接官として練習を行う。		面接において尋ねられる質問内容やその解答を考える。	240分
15 一例	まとめ 自身の就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に生かす方法を考える。			

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学特講・A		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生で就職希望の学生が対象の科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は1)を希望する学生を対象とする科目です。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にしていく。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 企業研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接練習、就職活動の振り返り。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にする。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>企業研究をすることができる。 履歴書を作成することができる。 就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に生かす方法を考えることができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、発表、ポートフォリオなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					30		50	20	100
評価指標	取り込む力・知識						20	10	30
	思考・推論・創造の力						20		20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10	10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2 一例	企業研究 働きたい企業を書籍やインターネットで検索し、その概要をまとめる。		企業研究を行う。	240分
3-6 一例	履歴書作成 働きたい企業へ提出する履歴書を作成する。		履歴書を作成する。	240分
7-10 一例	筆記試験対策 働きたい企業が課す筆記試験に対応できるよう、対策本などを利用して準備を行う。		筆記試験に向けて準備を行う。	240分
11-14 一例	面接練習 働きたい企業での面接に向けて、ゼミ担当教員を面接官として練習を行う。		面接において尋ねられる質問内容やその解答を考える。	240分
15 一例	まとめ 自身の就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に生かす方法を考える。			

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学特講・B (卒業研究)		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur.ac.jp; nishimura@nur.ac.jp; ohya@nur.ac.jp; wada@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生で進学希望の学生が対象の科目です。 「心理学統計法 ・ 」 「心理学研究法 ・ 」 「心理学実験 ・ ・ ・ 」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は2)を希望する学生を対象とする科目です。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>研究をして卒業論文を書き上げることを通して、論理的な思考力を向上させることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-3</p> <p>(方法)</p> <p>卒業研究は各ゼミ活動の中で行う。 中間発表会を行う。(8月を予定) 最終発表会を行う。(12月を予定)</p>		
<p>【一般教育目標(G10)】</p> <p>研究テーマを設定し、研究計画を作り、研究を実施、結果をまとめ、考察を加えて卒業論文を仕上げる。</p>		
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>卒業研究を書き上げるまでの1年間のタイムテーブルと具体的な行動目標を作成することができる。 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成することができる。 研究結果をまとめることができる。 研究結果と先行研究を照らし合わせ、考察を加えることができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>小塩真司・宅香菜子 『心理学の卒業研究ワークブック』 金子書房(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、卒業論文、成果発表などから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。</p>		

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション心理学特講・B (卒業研究)		【担当教員】 宮岡 里美、西村 信子、大矢 薫、和田 剛宗、中川 明仁、長谷川 千穂
【授業区分】 専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com; ohyama@nur05.onmicrosoft.com; y.wada@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻4年生で進学希望の学生が対象の科目です。 「心理学統計法 ・ 」 「心理学研究法 ・ 」 「心理学実験 ・ ・ ・ 」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、「公認心理師」を目指すコースと、一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は2)を希望する学生を対象とする科目です。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>研究をして卒業論文を書き上げることを通して、論理的な思考力を向上させることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-3</p> <p>(方法)</p> <p>卒業研究は各ゼミ活動の中で行う。 中間発表会を行う。(8月を予定) 最終発表会を行う。(12月を予定)</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>研究テーマを設定し、研究計画を作り、研究を実施、結果をまとめ、考察を加えて卒業論文を仕上げる。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>卒業研究を書き上げるまでの1年間のタイムテーブルと具体的な行動目標を作成することができる。 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成することができる。 研究結果をまとめることができる。 研究結果と先行研究を照らし合わせ、考察を加えることができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>各ゼミ担当教員の指示・助言による。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>小塩真司・宅香菜子 『心理学の卒業研究ワークブック』 金子書房(2,500円+税)</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、卒業論文、成果発表などから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。</p>		